

茨城県教育財団文化財調査報告第165集

国補緊急地方道路整備事業一般県道荒井麻生線
道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 1

西 平 遺 跡
五 安 遺 跡
(下 卷)

平成 12 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

2|0.23|

ka7b

2
NK

茨城県教育財団文化財調査報告第165集

国補緊急地方道路整備事業一般県道荒井麻生線 道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 1

にし だいら 遺 跡
ご あん 遺 跡
(下 卷)

平成 12 年 3 月

贈 寄
平成 年 月 日
歴史・人類学系

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

00609341

目 次

— 下 卷 —

第4章 五安遺跡

第1節 遺跡の概要	293
第2節 基本層序の検討	293
第3節 遺構と遺物	294
1 古墳時代の遺構と遺物	294
(1) 竪穴住居跡	294
2 奈良・平安時代の遺構と遺物	304
(1) 竪穴住居跡	304
3 中世の遺構と遺物	315
(1) 竪穴状遺構	315
(2) 土 坑	318
(3) 土 塁	323
4 近世の遺構と遺物	324
(1) 土 坑	324
5 時期不明の遺構と遺物	326
(1) 竪穴住居跡	326
(2) 竪穴状遺構	334
(3) 土 坑	335
(4) その他の土坑	343
(5) 溝 跡	348
6 遺構外出土遺物	356
第4節 ま と め	363

写真図版

挿 図 目 次

— 下 卷 —

五安遺跡	第252図 第14号住居跡実測図	298
第247図 五安遺跡基本土層図	第253図 第14号住居跡出土遺物実測図	299
第248図 第2号住居跡実測図	第254図 第21号住居跡実測図	300
第249図 第2号住居跡出土遺物実測図	第255図 第21号住居跡出土遺物実測図	301
第250図 第5号住居跡実測図	第256図 第25号住居跡実測図	302
第251図 第5号住居跡出土遺物実測図	第257図 第25号住居跡出土遺物実測図	303

第 258 図	第20号住居跡実測図	304	第 288 図	第11号住居跡出土遺物実測図	328
第 259 図	第20号住居跡出土遺物実測図	305	第 289 図	第12号住居跡実測図	329
第 260 図	第 3 号住居跡実測図	306	第 290 図	第13号住居跡実測図	330
第 261 図	第 3 号住居跡出土遺物実測図	307	第 291 図	第15号住居跡実測図	330
第 262 図	第 4 号住居跡実測図	309	第 292 図	第16号住居跡実測図	332
第 263 図	第 4 号住居跡出土遺物実測図	309	第 293 図	第16号住居跡出土遺物実測図	332
第 264 図	第 6 号住居跡実測図	310	第 294 図	第19号住居跡実測図	333
第 265 図	第 6 号住居跡出土遺物実測図	310	第 295 図	第22号住居跡実測図	334
第 266 図	第 9 号住居跡実測図	311	第 296 図	第 3 号竪穴状遺構実測図	334
第 267 図	第 9 号住居跡出土遺物実測図	312	第 297 図	第 3 号竪穴状遺構出土遺物実測図	335
第 268 図	第18号住居跡実測図	313	第 298 図	第14号土坑実測図	335
第 269 図	第18号住居跡出土遺物実測図	313	第 299 図	第15号土坑・出土遺物実測図	336
第 270 図	第 1 号竪穴状遺構・出土遺物 実測図	315	第 300 図	第16号土坑実測図	337
第 271 図	第 2 号竪穴状遺構実測図	316	第 301 図	第21号土坑実測図	338
第 272 図	第 2 号竪穴状遺構出土遺物実測図	316	第 302 図	第22号土坑実測図	338
第 273 図	第 4 号竪穴状遺構実測図	317	第 303 図	第23号土坑実測図	339
第 274 図	第 4 号竪穴状遺構出土遺物実測図	318	第 304 図	第32号土坑実測図	339
第 275 図	第 1・2号土坑実測図	318	第 305 図	第32号土坑出土遺物実測図	340
第 276 図	第 3 号土坑実測図	319	第 306 図	第37号土坑・出土遺物実測図	341
第 277 図	第 4 号土坑実測図	320	第 307 図	第49号土坑・第50号土坑・第50号土坑 出土遺物実測図	341
第 278 図	第 5 号土坑実測図	321	第 308 図	第55号土坑実測図	342
第 279 図	第 6 号土坑実測図	322	第 309 図	その他の土坑実測図(1)	343
第 280 図	第60号土坑実測図	322	第 310 図	その他の土坑実測図(2)	344
第 281 図	第28号土坑・出土遺物実測図	323	第 311 図	その他の土坑実測図(3)	345
第 282 図	第 1 号土壘跡実測図	323	第 312 図	第 1～12号溝跡実測図	354
第 283 図	第30号土坑・出土遺物実測図	324	第 313 図	第13～15号溝跡実測図	355
第 284 図	第36号土坑・出土遺物実測図	325	第 314 図	遺構外出土遺物実測図(1)	356
第 285 図	第 7 号住居跡実測図	326	第 315 図	遺構外出土遺物実測図(2)	357
第 286 図	第10号住居跡実測図	327	第 316 図	遺構外出土遺物実測図(3)	358
第 287 図	第11号住居跡実測図	328			

表 目 次

— 下 卷 —

表 6	五安遺跡住居跡一覧表	360	表 8	五安遺跡土坑一覧表	361
表 7	五安遺跡竪穴状遺構一覧表	360	表 9	五安遺跡溝跡一覧表	362

付 図

— 下 卷 —

付図1 西平遺跡遺構全体図

付図2 五安遺跡遺構全体図

写真図版目次

西平遺跡	居跡遺物出土状況, 第11・13号住居跡
P L 1 西平遺跡南西部遺構確認状況(北から), 西平遺跡南西部遺構確認状況(南から)	P L 15 第11・13号住居跡遺物出土状況, 第13号住 居跡遺物出土状況, 第13号住居跡竈遺物出 土状況
P L 2 西平遺跡南西部完掘状況(北から), 西平 遺跡中央部完掘状況(南から)	P L 16 第1・2号住居跡, 第1・2号住居跡遺物 出土状況, 第4号住居跡遺物出土状況
P L 3 西平遺跡中央部完掘状況(南から), 西平 遺跡中世墓域完掘状況(東から)	P L 17 第11号住居跡, 第11号住居跡遺物出土状況
P L 4 第106号住居跡, 第106号住居跡遺物出土状 況	P L 18 第15号住居跡遺物出土状況・第1号溝跡, 第18号住居跡, 第18号住居跡遺物出土状況
P L 5 第3・4号住居跡, 第2号溝跡, 第3・4 号住居跡遺物出土状況, 第14号住居跡・第 1号溝跡	P L 19 第19号住居跡, 第19号住居跡遺物出土状況
P L 6 第14号住居跡遺物出土状況, 第28・29・36・ 37号住居跡, 第37号住居跡遺物出土状況	P L 20 第20号住居跡・第1号溝跡, 第20・21・22 号住居跡, 第1号溝跡遺物出土状況, 第21 号住居跡
P L 7 第37号住居跡遺物出土状況, 第23・41号住 居跡, 第1号溝跡, 第23・41号住居跡遺物 出土状況	P L 21 第20・22・42号住居跡, 第1号溝跡, 第23・41 号住居跡, 第23・41号住居跡遺物出土状況
P L 8 第41号住居跡遺物出土状況	P L 22 第24号住居跡, 第25号住居跡遺物出土状況, 第27号住居跡,
P L 9 第67号住居跡, 第67号住居跡遺物出土状況, 第91・92号住居跡	P L 23 第28・37号住居跡, 第28・29・31・32・36・ 37号住居跡遺物出土状況, 第28号住居跡竈
P L 10 第91・92号住居跡遺物出土状況, 第91号住 居跡炉, 第97号住居跡	P L 24 第28・29・32・36・37号住居跡, 第28・29・ 31・36・37号住居跡, 第29号住居跡, 第121 号土坑遺物出土状況
P L 11 第97号住居跡遺物出土状況, 第97号住居跡 炉	P L 25 第33号住居跡, 第6号土坑, 第2・35号住 居跡, 第22・42号住居跡
P L 12 第99号住居跡, 第99号住居跡遺物出土状況, 第6号土坑	P L 26 第24号住居跡遺物出土状況, 第43号住居跡, 第46号住居跡, 第46号住居跡遺物出土状況
P L 13 第5・6号住居跡, 第8・33号住居跡, 第 6号土坑, 第9号住居跡・第7号土坑	P L 27 第50号住居跡遺物出土状況, 第51号住居跡, 第51号住居跡遺物出土状況
P L 14 第9・10・11・13・17号住居跡, 第9号住	P L 28 第52号住居跡, 第52号住居跡遺物出土状況

- P L 29 第51・52・53・56号住居跡，第117号土坑，第53号住居跡遺物出土狀況，第55・105号住居跡，第111・114号土坑
- P L 30 第56号住居跡，第56号住居跡遺物出土狀況，第56号住居跡竈
- P L 31 第62号住居跡遺物出土狀況，第64・65・66号住居跡，第109号土坑，第64号住居跡遺物出土狀況
- P L 32 第69・100号住居跡，第6・7号溝跡，第77号住居跡，第75号土坑，第77号住居跡遺物出土狀況
- P L 33 第82号住居跡，第82号住居跡遺物出土狀況，第85号住居跡，第87号土坑
- P L 34 第85号住居跡遺物出土狀況，第88号住居跡，第88号住居跡遺物出土狀況
- P L 35 第89号住居跡遺物出土狀況，第91・92号住居跡，第29号土坑遺物出土狀況
- P L 36 第5・12号住居跡，第9・17・33号住居跡，第31号住居跡
- P L 37 第34号住居跡遺物出土狀況，第28・36号住居跡，第36・37号住居跡遺物出土狀況
- P L 38 第48号住居跡，第10号土坑，第48号住居跡遺物出土狀況，第54号住居跡遺物出土狀況
- P L 39 第57号住居跡，第57号住居跡遺物出土狀況，第59号住居跡
- P L 40 第64・65・66号住居跡，第64・65・66号住居跡遺物出土狀況，第64～67号住居跡遺物出土狀況
- P L 41 第50・51・52・68号住居跡，第70号住居跡遺物出土狀況，第79号住居跡
- P L 42 第81号住居跡遺物出土狀況，第83号住居跡遺物出土狀況，第87号住居跡遺物出土狀況，第5号方形豎穴狀遺構（SK-38）
- P L 43 第93号住居跡，第93号住居跡竈遺物出土狀況，第94号住居跡
- P L 44 第98号住居跡，第98号住居跡遺物出土狀況，第105号住居跡遺物出土狀況
- P L 45 第1号地下式壙（SK-75），第3号方形豎穴狀遺構（SK-36），第4号方形豎穴狀遺構（SK-37）遺物出土狀況
- P L 46 第9号方形豎穴狀遺構（SK-43），第49号土坑，第10・17号方形豎穴狀遺構（SK-46・67）・第64号土坑，第18号方形豎穴狀遺構（SK-68）遺物出土狀況
- P L 47 第1・2号住居跡，第7号住居跡竈，第16・21号住居跡
- P L 48 第95号住居跡，第96号住居跡，第102号住居跡
- P L 49 第106号住居跡出土遺物，遺構外出土遺物（繩文土器）
- P L 50 第3・14・37号住居跡出土遺物
- P L 51 第41号住居跡出土遺物(1)
- P L 52 第41号住居跡出土遺物(2)
- P L 53 第67・91号住居跡出土遺物
- P L 54 第97号住居跡出土遺物
- P L 55 第99号住居跡出土遺物
- P L 56 第99号住居跡・第6号土坑出土遺物
- P L 57 第6・8・9・10号住居跡出土遺物
- P L 58 第10・13号住居跡出土遺物
- P L 59 第13号住居跡出土遺物
- P L 60 第4・11・13号住居跡出土遺物
- P L 61 第11号住居跡出土遺物
- P L 62 第11・15・18・19号住居跡出土遺物
- P L 63 第19・20・22・23号住居跡出土遺物
- P L 64 第24・25・27・28号住居跡出土遺物
- P L 65 第29・32・33・35・42号住居跡出土遺物
- P L 66 第43・46・50・51号住居跡出土遺物
- P L 67 第51・52号住居跡出土遺物
- P L 68 第53・55・56号住居跡出土遺物
- P L 69 第62・69号住居跡出土遺物
- P L 70 第69・77・82・85・88・89号住居跡出土遺物
- P L 71 第17・31・34・36・48・54・57・92・100号住居跡出土遺物，第29号土坑出土遺物
- P L 72 第59・65・66・68・70・79・81・83・87・93号住居跡出土遺物
- P L 73 第93・94号住居跡出土遺物

- P L 74 第96・98・105号住居跡出土遺物，第5・117・121号土坑出土遺物，遺構外出土遺物
- P L 75 第2・4・9・11・18・20号住居跡出土遺物，遺構外出土遺物
- P L 76 第22～25・28・29・32・50・51号住居跡出土遺物
- P L 77 第48・51～53・55～57・62・69・77・88・89号住居跡出土遺物，第29号土坑出土遺物
- P L 78 第1・2・11・23・50・57・59・87・93号住居跡出土遺物，第14号方形豎穴状遺構（SK-59）出土遺物，第1・5号溝跡出土遺物，遺構外出土遺物
- P L 79 第10・11・13・15・19・23・28・32・51・52・55・62号住居跡出土遺物
- P L 80 第31・48・62・66・69・88・102号住居跡出土遺物，第12・29・49号土坑出土遺物，第1・5号溝跡出土遺物，遺構外出土遺物
- P L 81 第9・10・51・57・59・62・81・93号住居跡出土遺物，第1号方形豎穴状遺構（SK-33）出土遺物，第1・8号溝跡出土遺物，遺構外出土遺物
- 五安遺跡
- P L 82 五安遺跡平成8年度調査区北部完掘狀況，五安遺跡平成10年度調査区南西部完掘狀況
- P L 83 第2号住居跡，第4号土坑，第5号住居跡遺物出土狀況，第13・14号住居跡
- P L 84 第14号住居跡遺物出土狀況，第21号住居跡
- P L 85 第21号住居跡遺物出土狀況，第21号住居跡竈，第25号住居跡
- P L 86 第25号住居跡遺物出土狀況，第20号住居跡，第20号住居跡遺物出土狀況
- P L 87 第20号住居跡竈，第3・12号住居跡，第5・6号土坑，第3号住居跡遺物出土狀況
- P L 88 第3号住居跡遺物出土狀況，第3号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 89 第4号住居跡，第13号土坑，第6号住居跡，第9号住居跡遺物出土狀況
- P L 90 第9号住居跡遺物出土狀況，第18号住居跡，第18号住居跡遺物出土狀況
- P L 91 第18号住居跡竈・棚状施設，第1号豎穴状遺構，第2号豎穴状遺構
- P L 92 第2号豎穴状遺構遺物出土狀況，第4号豎穴状遺構，第4号豎穴状遺構遺物出土狀況
- P L 93 第4号豎穴状遺構遺物出土狀況，第1・2号土坑，第3号土坑
- P L 94 第4号土坑，第5・6号土坑，第60号土坑
- P L 95 第28号土坑，第1号土壘，第30号土坑
- P L 96 第36号土坑，第7号住居跡，第11号住居跡
- P L 97 第15号住居跡，第15号住居跡竈，第16号住居跡
- P L 98 第19号住居跡，第22号住居跡，第3号豎穴状遺構
- P L 99 第3号豎穴状遺構遺物出土狀況，第14号土坑，第15号土坑遺物出土狀況
- P L 100 第16・17号土坑，第22号土坑，第23号土坑
- P L 101 第32号土坑，第37号土坑，第37号土坑遺物出土狀況
- P L 102 第49・50号土坑，第49・50号土坑焼土・炭化材出土狀況，第55号土坑遺物出土狀況
- P L 103 第55号土坑土層断面，第18号土坑，第19号土坑
- P L 104 第20号土坑，第24号土坑，第26号土坑
- P L 105 第27号土坑，第29号土坑，第31号土坑
- P L 106 第33号土坑，第34号土坑，第35号土坑
- P L 107 第38号土坑，第40号土坑，第41号土坑
- P L 108 第42号土坑，第43号土坑，第45号土坑
- P L 109 第46号土坑，第47号土坑，第48号土坑
- P L 110 第51号土坑，第52号土坑，第53号土坑
- P L 111 第54号土坑，第56号土坑，第57・58・59号土坑
- P L 112 第1号溝跡，第4号溝跡，第5号溝跡
- P L 113 第6号溝跡，第7号溝跡，第7号溝跡遺物出土狀況
- P L 114 第9号溝跡，第10・11号溝跡，第13号溝跡
- P L 115 第12号溝跡，第14号溝跡，第15号溝跡
- P L 116 第2・3号住居跡出土遺物

P L 117 第 3 · 4 · 5 · 6 · 9 · 11号住居跡出土
遺物

P L 118 第14号住居跡出土遺物

P L 119 第16 · 18 · 20号住居跡出土遺物

P L 120 第21 · 25号住居跡出土遺物, 第 1 · 2 ·
3号豎穴状遺構出土遺物

P L 121 第 4 号豎穴状遺構出土遺物, 第15 · 28 ·
30 · 32 · 36 · 37 · 50号土坑出土遺物

P L 122 遺構外出土遺物(1)

P L 123 遺構外出土遺物(2)

P L 124 遺構外出土遺物(3)

第4章 五安遺跡

第1節 遺跡の概要

五安遺跡は、鹿嶋市北部の北浦に面した鹿島台地西縁部に所在する。標高は38～39mである。現況は山林及び畑地であり、平成8年度に1,057㎡、平成10年度に1,360㎡を調査した。当遺跡は、古墳時代後期と奈良・平安時代の集落跡である。南西側で中世の津賀城跡と接している。谷を挟んだ300mほど北側には、縄文時代から平安時代にかけての集落跡の西平遺跡がある。

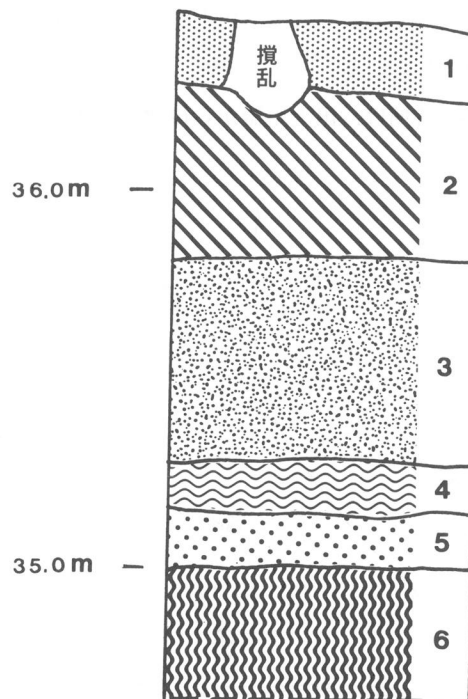
遺構は、古墳時代後期の竪穴住居跡5軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡6軒、中世の竪穴状遺構3基、土坑8基、土塁1条、近世の土坑2基、時期不明の竪穴住居跡9軒、竪穴状遺構1基、土坑50基、溝跡15条が検出された。

遺物は、遺物収納箱（60×40×20cm）に17箱出土している。剥片、縄文土器片、弥生土器片、土師器（坏・碗・高坏・高台付坏・甕・手捏土器・ミニチュア土器）、須恵器（坏・盤・甕・蓋）、土製品（球状土錘・管状土錘・紡錘車・支脚）、石製模造品（勾玉・双孔円板）、石製品（砥石）、土師質土器（皿・外耳鍋）、陶器（碗・香炉）、鉄製品、煙管、古銭等が出土している。

第2節 基本層序の検討

調査区内（B2c0区）にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った。観察の結果は以下の通りである（第247図）。遺構は第2層上面で確認した。

- 第1層 厚さ19cmの褐色の表土。
- 第2層 厚さ43～47cmの褐色土。
- 第3層 厚さ53cmの明褐色土。
- 第4層 厚さ14cmの明褐色土。3層より色調が明るい。
- 第5層 厚さ14～15cmの明褐色土。粘土粒子と山砂を含む。
- 第6層 にぶい褐色土。粘土粒子と山砂を含む。



第247図 五安遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

遺構としては、竪穴住居跡5軒を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡 (第248・249図)

位置 調査区域の中央部，B2a7区。

重複関係 本跡は、北西部を第4号土坑に掘り込まれていることから、第4号土坑より古い。

規模と平面形 長軸3.27m，短軸 [2.92]mで，長方形である。

主軸方向 N-70°-W

壁 壁高は2～8cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

ピット 1か所。P1は長径16cm，短径14cmの楕円形で，深さは15cmである。

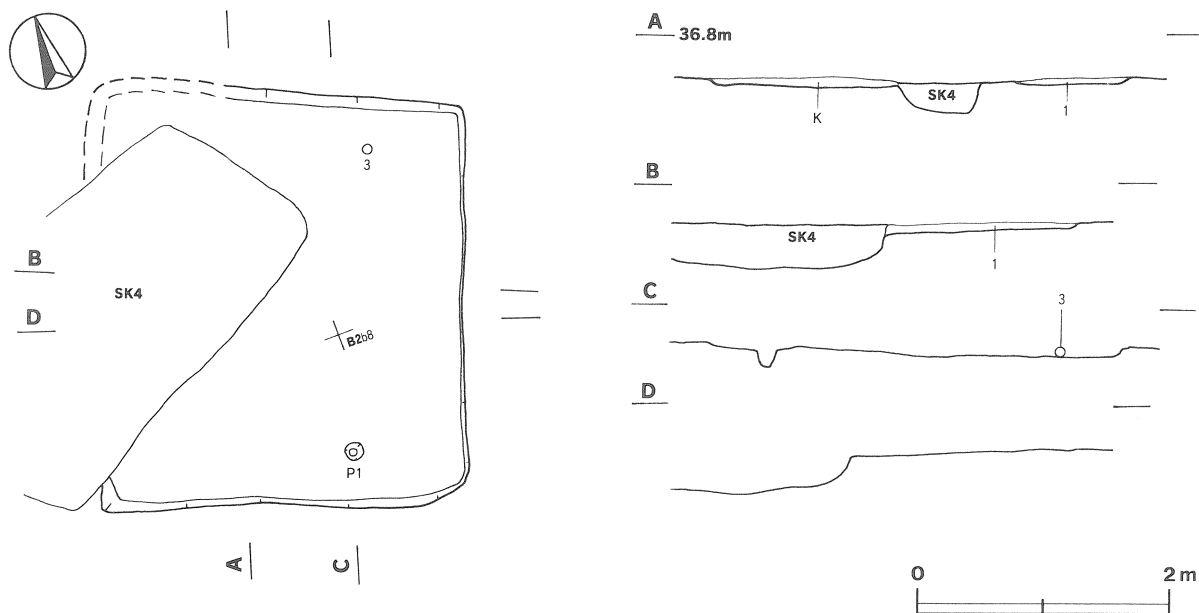
覆土 単一層である。大部分が攪乱されており，堆積状況は不明である。

土層解説

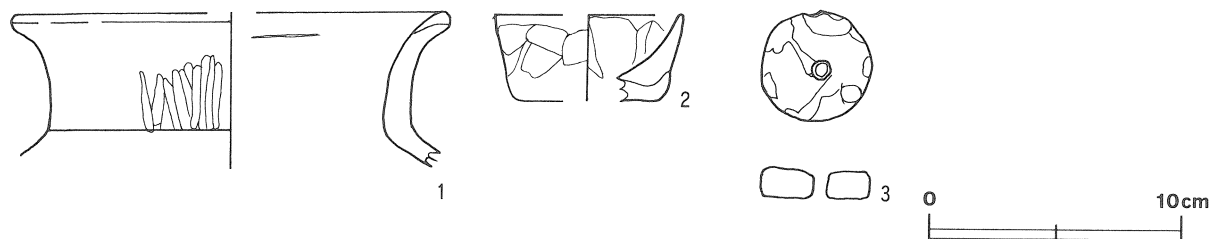
1 褐色 粘土粒子少量，ローム粒子微量

遺物 土師器片92点，須恵器片4点，土製品1点，粘土塊2点が出土している。第249図1は土師器甕で，覆土中から出土している。2は手捏土器で，覆土中から出土している。3は土製紡錘車で，東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から後期と考えられる。



第248図 第2号住居跡実測図



第249図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第249図 1	甕 土師器	A [17.0] B (6.1)	口縁部の破片。口縁部中位はほぼ垂立し、上位で外反する。	口縁部外面縦位のヘラ磨き。内面ナデ。口縁部上位に輪積み痕。	長石・石英・雲母・赤色粒子・砂粒 橙色 普通	P 2 5% PL116 覆土中
2	手捏土器 土師器	B 3.4 C [5.4]	体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面指頭圧痕。	石英・雲母・砂粒 橙色 普通	P 3 40% PL116 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第249図3	土製紡錘車	4.4	1.2	0.6	(28.8)	東コーナー部覆土下層 DP 1	PL116

第5号住居跡 (第250・251図)

位置 調査区域の北部，A 2 j0 区。

重複関係 本跡が第7号住居跡を掘り込み，南東コーナー部を第9号住居に掘り込まれていることから，第7号住居跡より新しく，第9号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸4.92m，短軸4.06mで，長方形である。

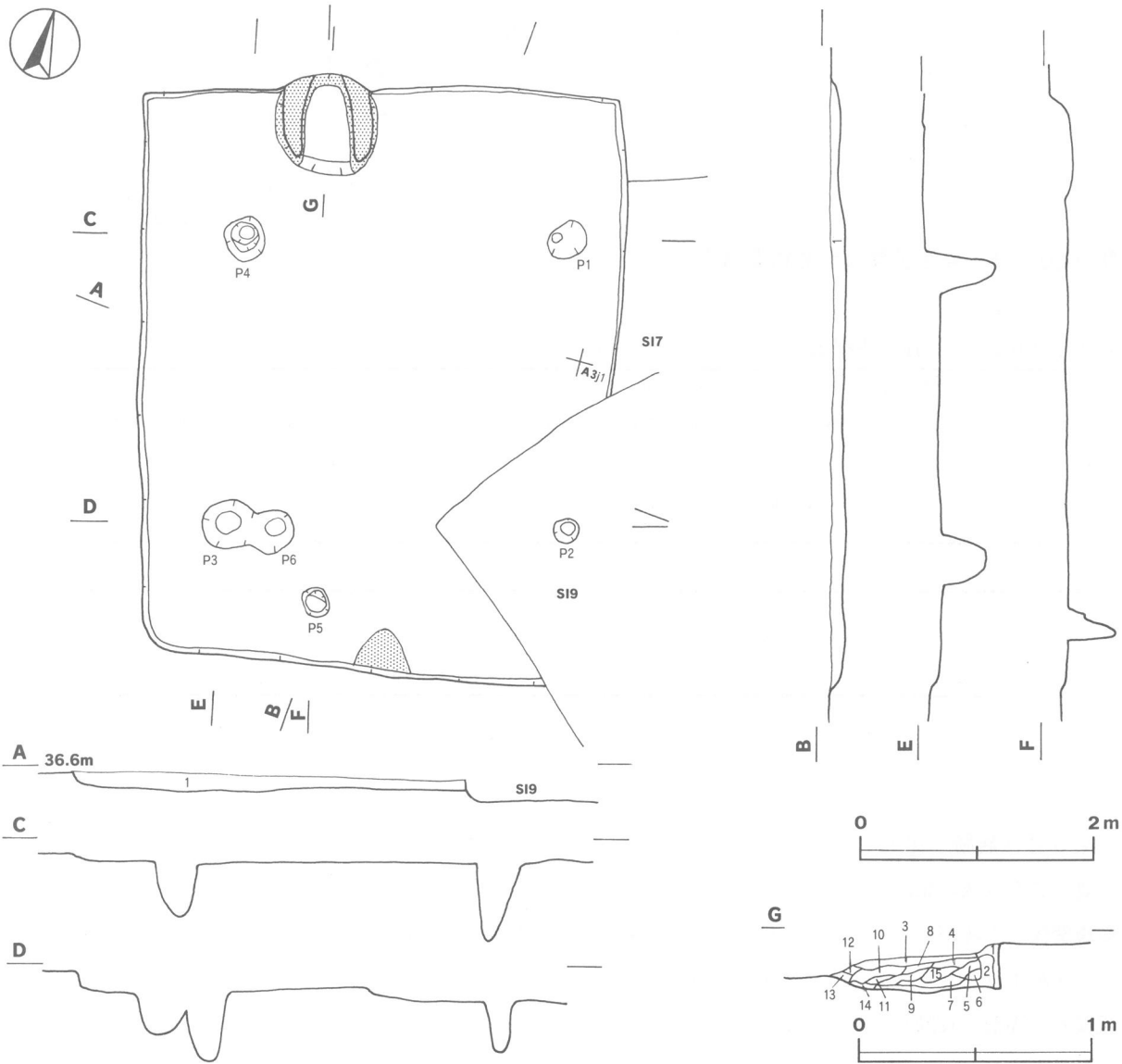
主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は2~19cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦である。南壁側から粘土が検出された。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1は長径37cm，短径28cmの楕円形で，深さは68cmである。P2は径23cmの円形で，深さは45cmである。P3は長径45cm，短径33cmの楕円形で，深さは40cmである。P4は長径40cm，短径35cmの楕円形で，深さは47cmである。P1~P4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は径25cmの円形で，深さは43cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は長径46cm，短径41cmの楕円形で，深さは62cmである。補助柱穴と考えられる。

竈 北壁の中央部よりやや西側を掘り込んで，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚口部まで86cm，最大幅88cm，壁外への掘り込みは14cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤化し，硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。



第250図 第5号住居跡実測図

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック中量，焼土粒子少量 | 9 褐色 ローム中ブロック多量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量 | 10 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ローム中ブロック中量，粘土粒子少量 | 11 褐色 ローム小ブロック少量 |
| 5 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子・粘土粒子少量 | 12 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 | 13 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 7 褐色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量 | 14 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子微量 |
| | 15 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量 |

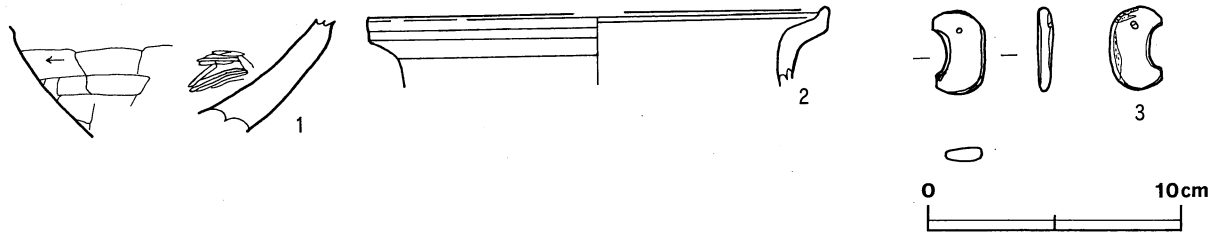
覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・ローム中ブロック少量，炭化粒子微量

遺物 土師器片347点，須恵器片10点，石製品1点，礫2点が出土している。第251図1は土師器坏，2は土師器甕で，それぞれ覆土中から出土している。3は石製模造品の勾玉で，覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から後期と考えられる。



第251図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 1	坏 土師器	B (4.4)	体部の破片。体部は内彎気味に外反して立ち上がる。	体部外面横位のヘラナデ、内面ヘラ磨き。	雲母・砂粒にぶい橙色普通	P22 30% PL117 覆土中
2	甕 土師器	A [17.8] B 13.8	口縁部の破片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい褐色普通	P23 5% PL117 覆土中

図版番号	種別	計測値				石質	備考			
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		勾玉	覆土中	Q1	PL117
第251図3	石製模造品	3.3	2.0	0.6	(5.8)	滑石	勾玉	覆土中	Q1	PL117

第14号住居跡 (第252・253図)

位置 調査区域の北西部, A3d4区。

重複関係 本跡は, 北西部を第5号溝に掘り込まれていることから, 第5号溝跡より古い。

規模と平面形 南東側半分は調査区域外である。長軸4.54m, 短軸(2.45)mで, 長方形と推定される。

主軸方向 N-24°-E

壁 壁高は10~24cmで, 外傾して立ち上がる。

床 南西から北西に, わずかに傾斜している。

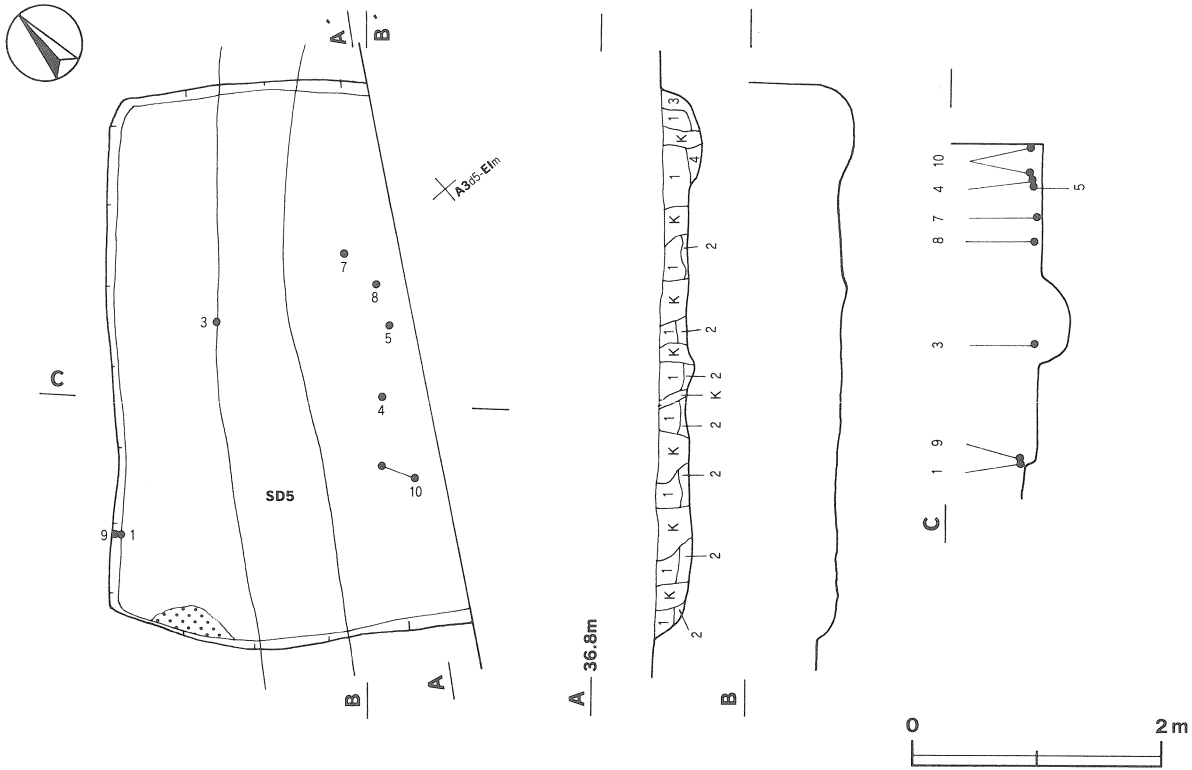
覆土 4層からなる。ロームブロックと焼土を含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片98点, 須恵器片5点, 礫1点が出土している。第253図1・2は土師器坏である。1は南西コーナー部の覆土下層から出土している。2は覆土中から出土している。3は土師器碗で, 西側の覆土下層から出土している。4~8は土師器甕で, 4・8は中央部の覆土下層から, 5・7は床面から出土している。6は覆土中から出土している。9は土師器甌で, 南西コーナー部の覆土下層から出土している。10は須恵器蓋で, 中央部の覆土下層から出土している。

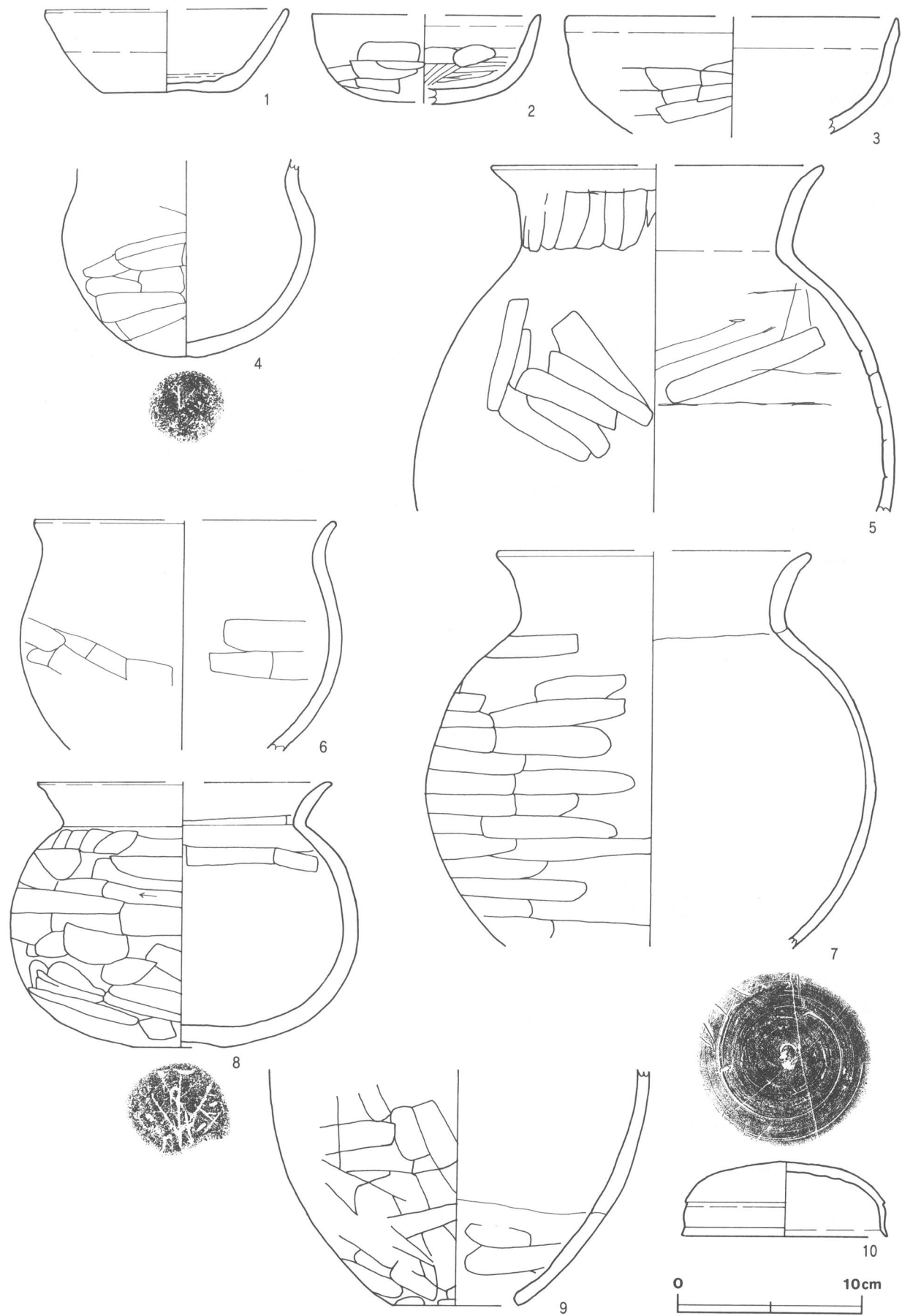
所見 本跡の時期は, 出土土器から後期(5世紀末~6世紀前半頃)と考えられる。



第252図 第14号住居跡実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253図 1	坏 土師器	A [13.0] B 4.5 C 7.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部外面ロクロナデ、内面は磨減が著しいため調整痕不明。	長石・雲母・赤色 粒子・砂粒 にぶい褐色 普通	P28 60% PL118 南西コーナー部覆土下層
2	坏 土師器	A [12.2] B 4.5	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部内面中位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・ 砂粒・赤色粒子 明赤褐色 普通	P29 35% PL118 覆土中
3	碗 土師器	A [18.0] B (6.3)	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内・外面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラナデ。	長石・石英・赤色 粒子・砂粒 赤色 普通	P30 10% PL118 西側覆土下層
4	甕 土師器	B (10.5) C 2.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境の内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ 砂粒・赤色粒子 明赤褐色 普通	P31 45% PL118 中央部覆土下層
5	甕 土師器	A [16.6] B (17.3)	底部欠損。体部は内彎する。口縁部は外傾し、上位で外反する。	口縁部上位内・外面横ナデ、下位縦位のヘラナデ。体部内・外面ヘラナデ。	雲母・砂粒・白色 粒子 にぶい赤褐色 普通	P34 50% PL118 中央部床面
6	甕 土師器	A [16.2] B (12.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	石英・雲母・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P33 15% PL118 覆土中
7	甕 土師器	A [16.8] B (21.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は中位で緩やかに外傾し、上位で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・ 砂粒 にぶい橙色 普通	P35 15% PL118 中央部床面
8	甕 土師器	A [15.8] B 14.3 C 4.4	上げ底。体部は内彎し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・ 砂粒 明赤褐色 普通	P32 45% PL118 中央部覆土下層
9	甗 土師器	B (13.8) C [6.8]	底部から体部の破片。無底式。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P36 10% PL118 南西コーナー部覆土下層
10	蓋 須恵器	A 11.2 B (7.9)	体部は内彎し、口縁部との境の側面に稜を持つ。口縁部は直立し、上位で外反する。	口縁部から体部の内・外面ロクロナデ。	長石・石英・砂粒 灰白色 普通	P37 95% PL118 中央部覆土下層



第253图 第14号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡（第254・255図）

位置 調査区域の南西部，D 1 d8 区。

重複関係 本跡は，西部を第15号溝に，北壁と竈の一部を第58号土坑に掘り込まれていることから，両遺構より古い。

規模と平面形 長軸3.05m，短軸2.83mで，方形である。

主軸方向 N-17°-E

壁 壁高は8~17cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦であり，中央部に硬化面が認められる。

ピット 5か所(P1~P5)。P1は径20cmの円形で，深さは42cmである。P2は径21cmの円形で，深さは29cmである。P3は径20cmの円形で，深さは37cmである。P4は長径24cm，短径20cmの楕円形で，深さは45cmである。P1~P4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は長径18cm，短径14cmの楕円形で，深さは35cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁の中央部よりやや東側を掘り込んで，砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚口部まで [80]cm，最大幅104cm，壁外への掘り込みは [15]cmである。火床部は床面を (11)cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤化し，硬化している。

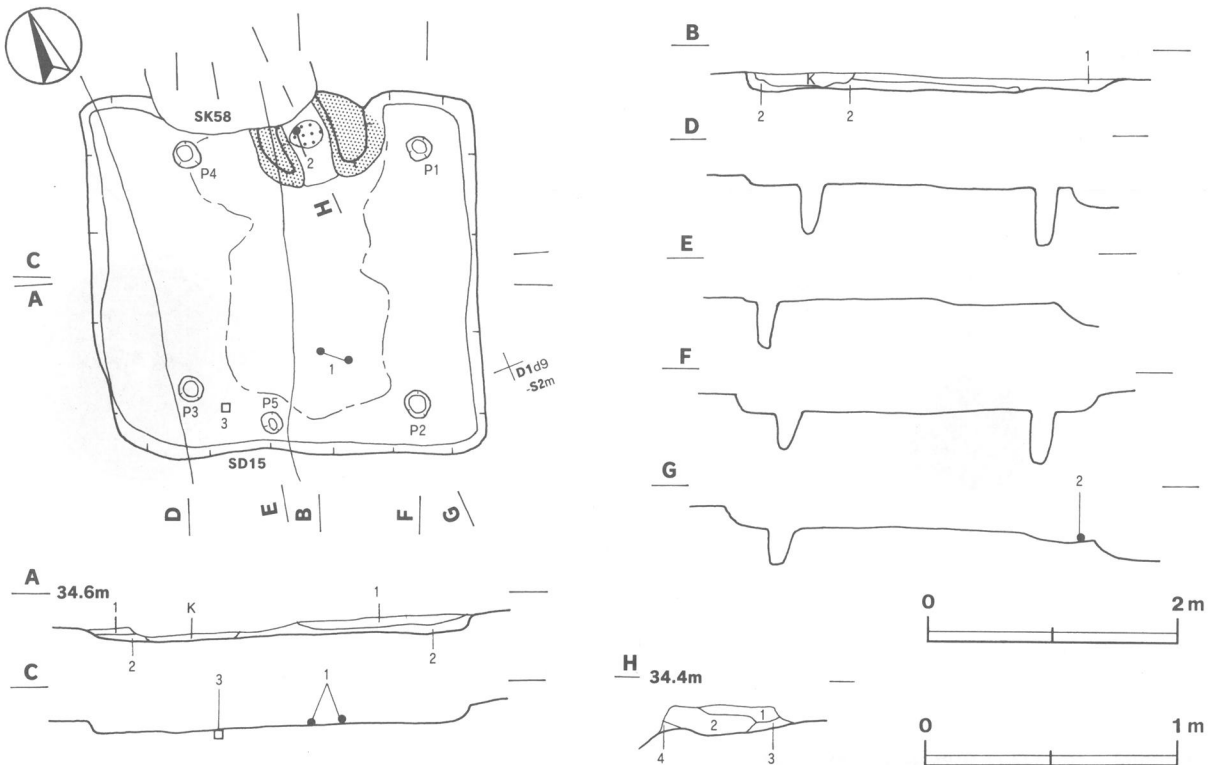
竈土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 3 極暗褐色 焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 砂粒中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

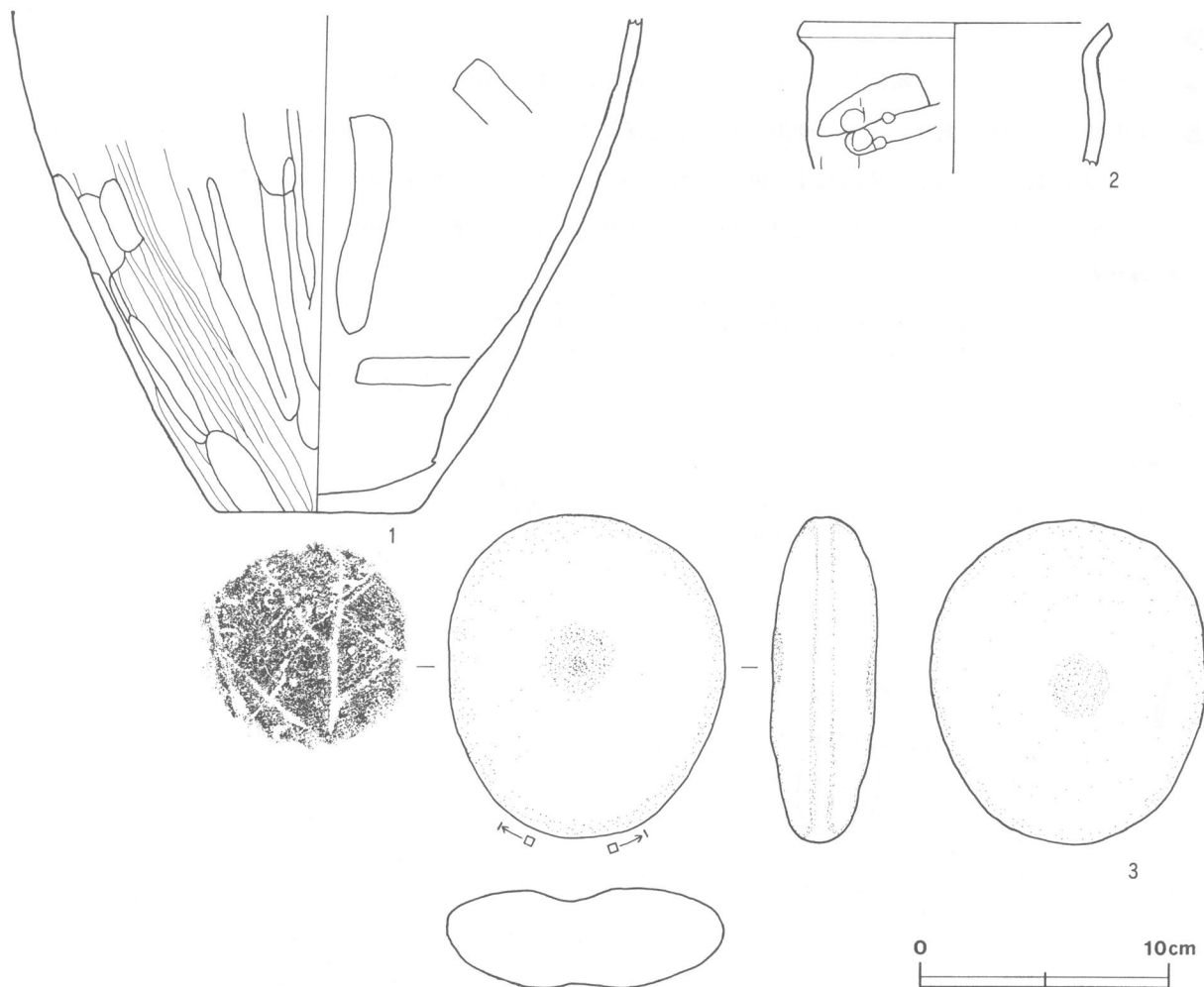
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化物・粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック極微量



第254図 第21号住居跡実測図

遺物 土師器片29点，須恵器片7点，石器1点が出土している。第255図1・2は土師器甕である。1は中央部の覆土下層から，2は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。3は凹石で，P3脇の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土土器から後期（7世紀前半頃）と考えられる。



第255図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第255図 1	甕 土師器	B (19.6) C 7.8	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り，内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい黄褐色普通	P 48 30% PL120 中央部覆土下層
2	甕 土師器	A 12.6 B (5.6)	体部から口縁部の破片。体部はわずかに内彎し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。	石英・雲母・砂粒・橙色普通	P 47 10% PL120 竈覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第255図3	磨石	13.0	10.6	4.2	(914.0)	砂岩	凹石兼用 P 3脇の覆土下層 Q 3 PL120

第25号住居跡 (第256・257図)

位置 調査区域の南西部, D1a8区。

重複関係 本跡は, 南部から北西部にかけて第15号溝に掘り込まれていることから, 第15号溝跡より古い。

規模と平面形 北東辺2.85m, 南西辺3.55m, 北西辺3.90m, 南東辺3.65mで, 台形である。

主軸方向 N-19°-E

壁 壁高は7~25cmで, 外傾して立ち上がる。

床 東から西に, わずかに傾斜し, 中央部よりやや西側に硬化面が認められる。

竈 北東壁の中央部を掘り込んで, 砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで96cm, 最大幅93cm, 壁外への掘り込みは8cmである。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤化し, 硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

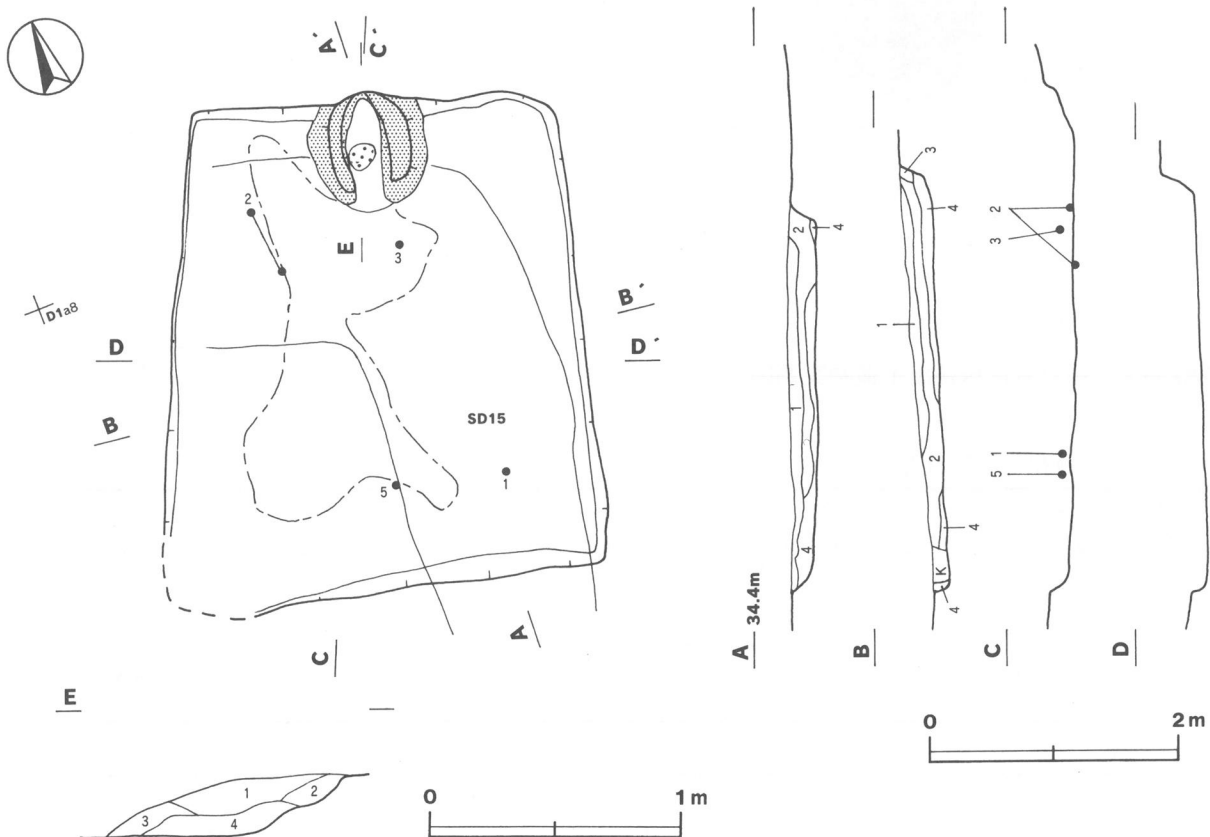
竈土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子・ローム中ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量, 焼土粒子・粘土粒子極微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量, 粘土粒子極微量

覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

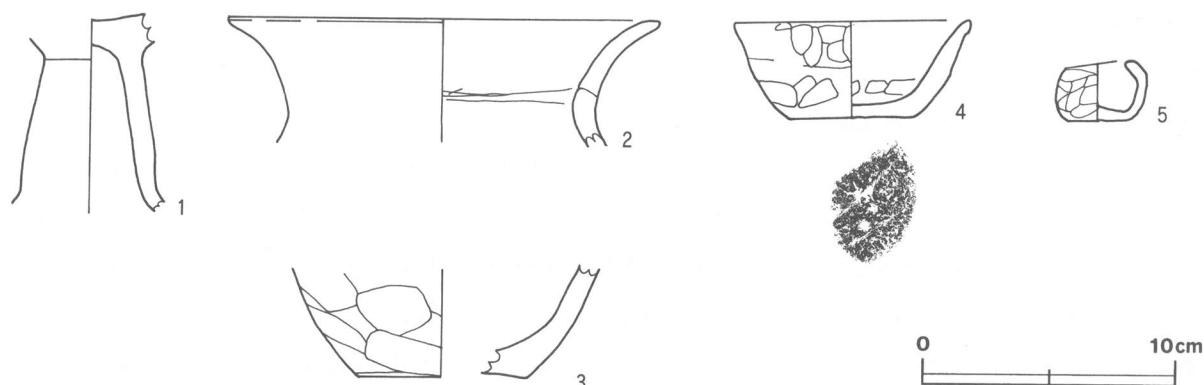
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子極微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量, 焼土粒子・ローム大ブロック極微量



第256図 第25号住居跡実測図

遺物 土師器片340点，須恵器片1点，不明石器1点，不明鉄製品1点，礫3点が出土している。第257図1は土師器高坏で，南コーナー部の覆土中層から出土している。2・3は土師器甕である。2は竈側の覆土下層から，3は竈側の覆土中層からそれぞれ出土している。4は手捏土器で，覆土中から出土している。5は土師器ミニチュア土器で，南部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土土器から後期と考えられる。



第257図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第257図 1	高坏 土師器	A 18.0 B (8.7)	坏部の破片。坏部は下位に弱い稜を持ち，わずかに外反しながら立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P51 40% PL120 南コーナー部覆土中層
2	甕 土師器	A 17.0 B (4.9)	口縁部の破片。口縁部は中位で外傾し，上位で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P52 5% PL120 竈付近覆土下層
3	甕 土師器	B (4.3) C [6.8]	底部から体部下位の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	石英・雲母・砂粒 褐色 普通	P53 60% PL120 竈付近覆土中層
4	手捏土器 土師器	A [9.5] B 3.8 C [4.8]	平底。体部は外傾して立ち上がり，中位の内・外面に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部から体部上位にかけて，指頭による押圧痕。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P55 40% PL120 覆土中
5	ミニチュア土器 土師器	A 2.6 B 2.6 C 2.5	体部は中位まで外傾して立ち上がり，上位で強く内傾する。	体部外面指ナデ。	長石・砂粒 明赤色 普通	P54 90% PL120 南部覆土中層

2 奈良・平安時代の遺構と遺物

遺構としては、竪穴住居跡6軒を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第20号住居跡 (第258・259図)

位置 調査区域の南西部, D1 d9区。

規模と平面形 長軸3.64m, 短軸3.58mで, 方形である。

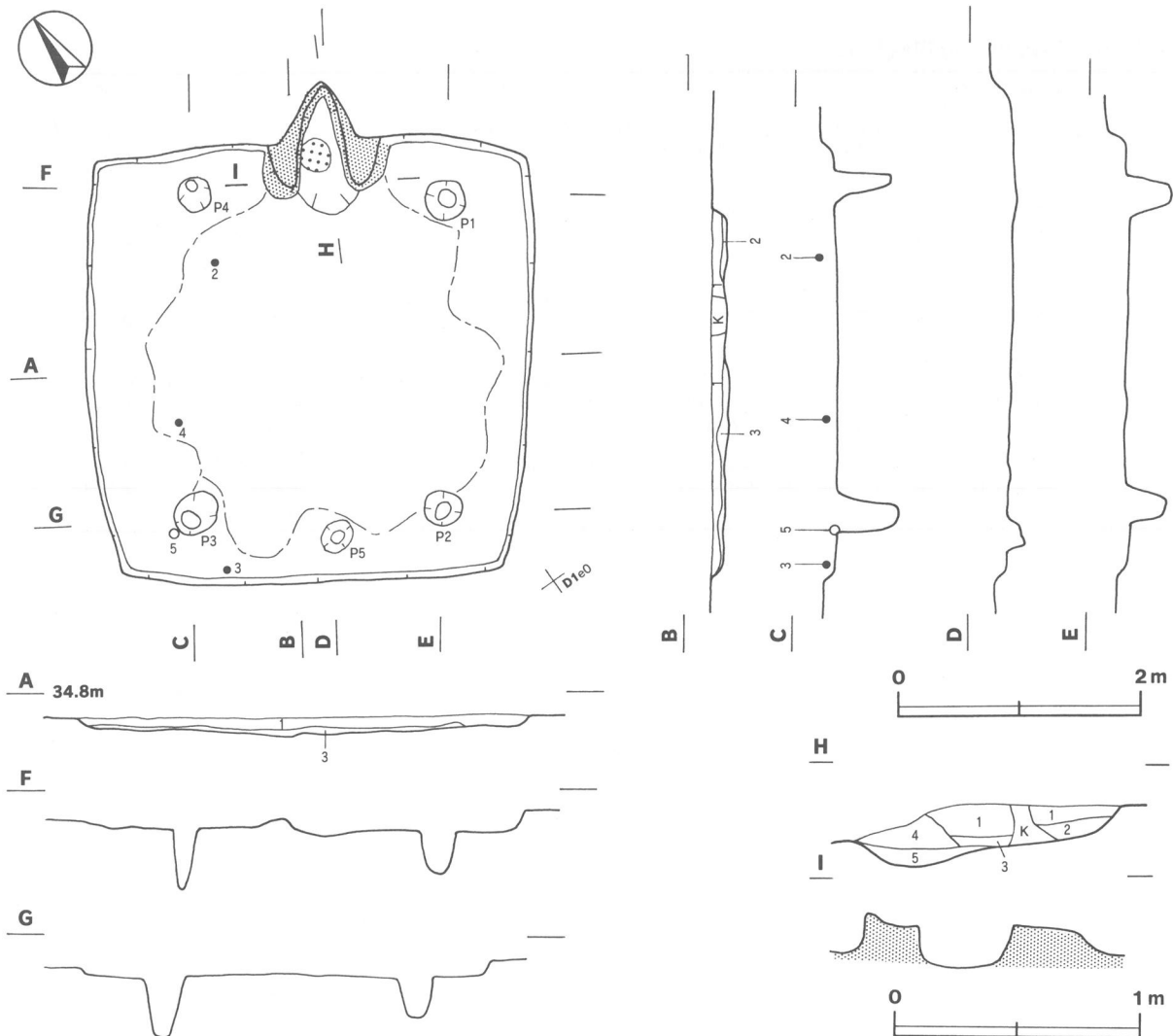
主軸方向 N-33°-E

壁 壁高は5~21cmで, 外傾して立ち上がる。

床 凹凸があり, 中央部に硬化面が認められる。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1は長径35cm, 短径30cmの楕円形で, 深さは35cmである。P2は径30cmの円形で, 深さは32cmである。P3は長径40cm, 短径30cmの楕円形で, 深さは50cmである。P4は長径30cm, 短径25cmの楕円形で, 深さは34cmである。P1~P4は配置と規模から支柱穴と考えられる。P5は長径30cm, 短径25cmの楕円形で, 深さは15cmである。出入口口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北東壁の中央部を掘り込んで, 砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存し



第258図 第20号住居跡実測図

ている。規模は、煙道部から焚口部まで106cm，最大幅105cm，壁外への掘り込みは50cmである。火床部は床面を11cmほど掘りくぼめており，火熱を受けて赤化し，硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量，砂粒極微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土大ブロック・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，砂粒微量，焼土小ブロック・粘土粒子極微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，粘土粒子微量，砂粒極微量

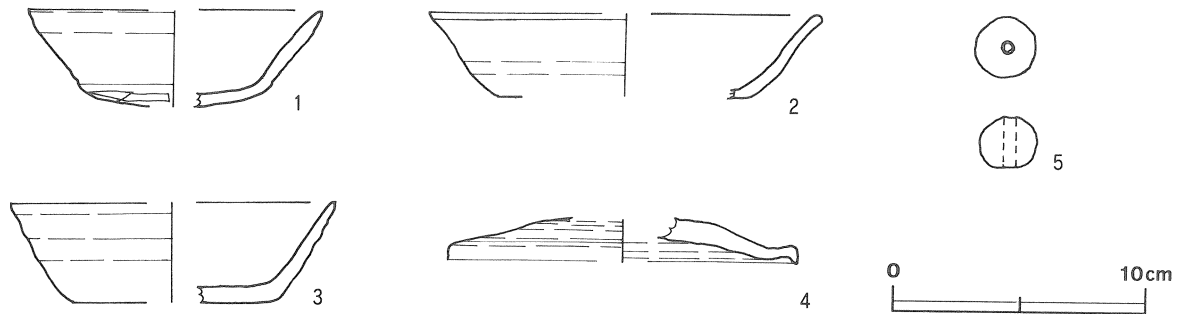
覆土 3層からなる。ロームブロックと焼土を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子極微量
- 2 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック極微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，粘土小ブロック微量

遺物 土師器片108点，須恵器片16点，土製品1点，石製品1点，鉄製品2点，粘土塊6点が出土している。第259図1は土師器坏で，覆土中から出土している。2・3は須恵器坏である。2は中央部の覆土上層から，3は西コーナー部の覆土中層から出土している。4は須恵器蓋で，中央部の覆土中層から出土している。5は球状土錘で，西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び3の須恵器坏の器形の特徴等から8世紀中葉頃と考えられる。



第259図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第259図1	坏 土師器	A [11.6] B (4.3)	体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒・赤色粒子にぶい橙色 普通	P43 15% PL119 覆土中
2	坏 須恵器	A [12.4] B 3.3 C [10.0]	平底。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい黄橙色 普通	P45 10% PL119 中央部覆土上層
3	坏 須恵器	A [13.0] B 4.0 C [7.8]	体部は外傾して立ち上がり，縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。	石英・雲母・砂粒 灰色 普通	P44 40% PL119 西コーナー部覆土中層
4	蓋 須恵器	A [14.0] B (1.7)	天井部から口縁部の破片。天井部はドーム状である。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・砂粒にぶい橙色 普通	P46 5% PL119 中央部覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第259図5	球状土錘	2.4	2.4	0.5	(10.8)	西コーナー部覆土下層 DP 6	PL119

第3号住居跡 (第260・261図)

位置 調査区域の北東部, A2j8区。

重複関係 本跡は, 北壁から南側を第12号住居に, 南東部を第6号土坑に, 南西部を第5号土坑に掘り込まれていることから, これらの遺構より古い。

規模と平面形 北西コーナー部は調査区域外である。長軸4.64m, 短軸 [4.17]mで, 方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は27~31cmで, 外傾して立ち上がる。

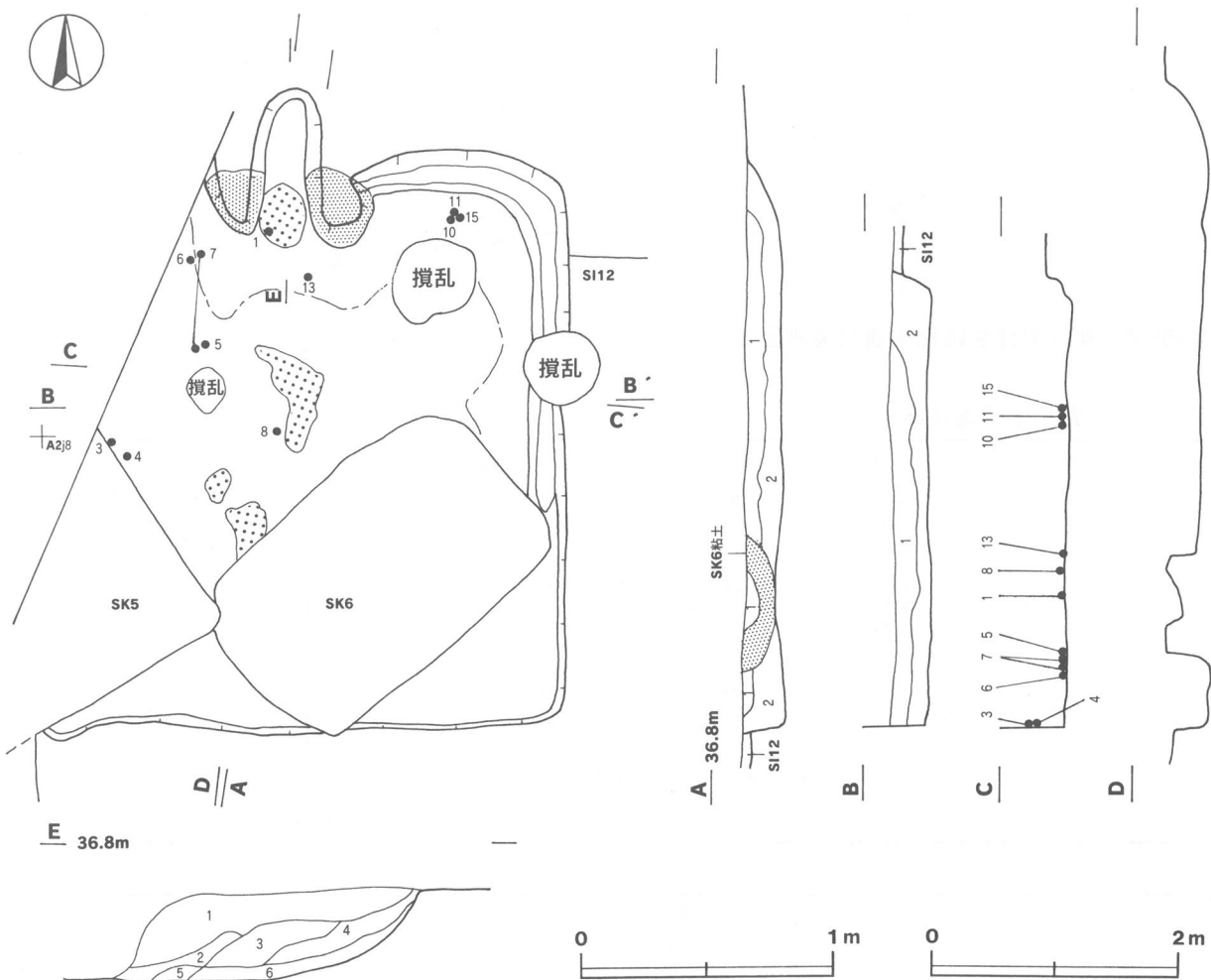
壁溝 北壁の下と東壁の下に巡っている。上幅22~32cm, 下幅7~21cm, 深さ5cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 中央部に硬化面が認められる。中央部から焼土が検出された。

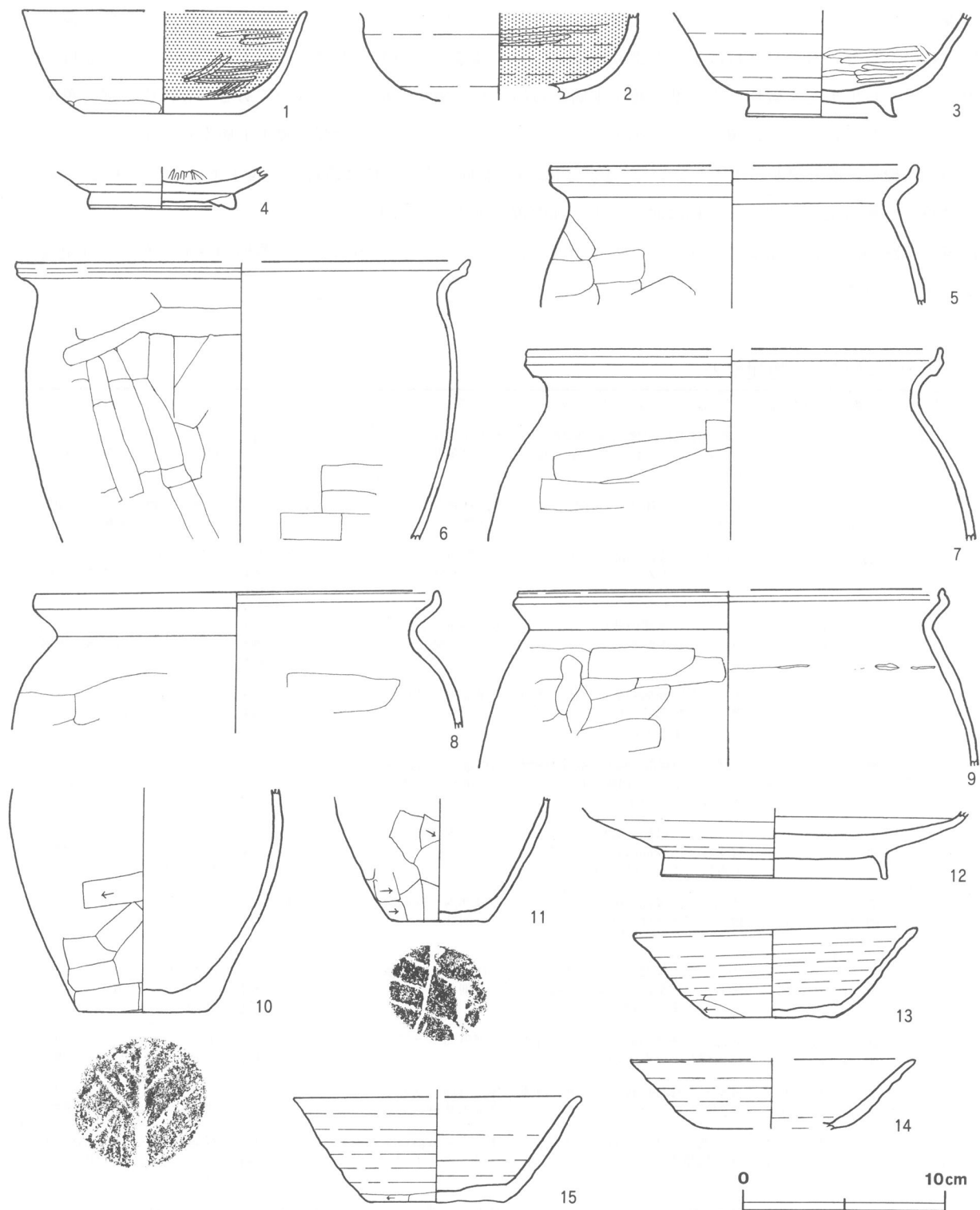
竈 北壁の中央部を掘り込んで, 砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで128cm, 最大幅130cm, 壁外への掘り込みは64cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤化し, 硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

電土層解説

- | | |
|--------------------------------------|---------------------|
| 1 灰褐色 砂粒・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 山砂中量, 焼土粒子少量 | 5 黒褐色 焼土粒子・炭化物・山砂少量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 粘土小ブロック中量・炭化粒子・山砂少量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子多量 |



第260図 第3号住居跡実測図



第261図 第3号住居跡出土遺物実測図

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物 土師器片317点，須恵器片70点，陶器片2点が出土している。第261図1・2は土師器坏である。1は竈

の覆土下層から出土している。2は竈の覆土中から出土している。3・4は土師器高台付坏で、西部の覆土中層から出土している。5～11は土師器甕である。5・6は竈付近の覆土下層から出土している。7は竈付近の覆土下層から出土した破片と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。8は中央部の覆土下層から出土している。9は覆土中から出土している。10・11は北コーナー部の覆土下層から出土している。12は須恵器盤で、覆土中から出土している。13～15は須恵器坏である。13は竈付近の覆土下層から出土している。14は覆土中から出土している。15は北コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び3の土師器高台付坏と13・15の須恵器坏の器形の特徴等から9世紀後葉頃と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第261図 1	坏 土師器	A [14.0] B 5.1	平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、上位でわずかに外反する。	体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母・砂粒にぶい橙色普通	P 4 35% PL116 竈覆土下層
2	坏 土師器	B (3.2)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ、内面横位のヘラ磨き。	雲母・石英・小礫明赤褐色普通	P 5 20% PL116 竈覆土中
3	高台付坏 土師器	B (5.2) D 7.4 E 0.9	高台部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。	長石・石英・雲母・砂粒橙色普通	P 6 50% PL116 西部覆土中層
4	高台付坏 土師器	B (2.1) D 7.2 E 0.8	高台部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。	長石・石英・雲母・砂粒橙色普通	P 7 20% PL116 西部覆土中層
5	甕 土師器	A [18.2] B (7.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒明赤褐色普通	P 10 5% PL116 竈付近覆土下層
6	甕 土師器	A [22.4] B (13.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい橙色普通	P 9 10% PL116 竈付近覆土下層
7	甕 土師器	A [20.6] B (9.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎する。口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい橙色普通	P 8 10% PL116 竈付近・中央部覆土下層
8	甕 土師器	A [19.8] B (6.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい橙色普通	P 12 5% PL116 中央部覆土下層
9	甕 土師器	A [21.0] B (8.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、口縁部は外反する。端部は上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒橙色普通	P 11 5% PL116 覆土中
10	甕 土師器	B (11.1) C 6.4	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・砂粒橙色普通	P 14 35% PL116 北コーナー部覆土下層
11	甕 土師器	B (6.1) C 4.8	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。底部木葉痕。	雲母・石英・砂粒褐色普通	P 15 35% PL117 北コーナー部覆土下層
12	盤 土師器	B (3.4) D 11.1 E 1.2	高台部から体部の破片。体部は大きく外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後、ナデ。	長石・石英・雲母・砂粒暗灰黄色普通	P 19 65% PL117 覆土中
13	坏 須恵器	A 13.8 B 4.5 C 6.2	体部は外傾し、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい橙色普通	P 16 60% PL117 竈付近覆土下層
14	坏 須恵器	A [14.2] B 3.4 C [7.4]	体部から口縁部の破片。体部は外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部の内・外面ロクロナデ。	長石・石英・砂粒灰色普通	P 18 15% PL117 覆土中
15	坏 須恵器	A [14.2] B 5.2 C 6.2	体部は外傾し、口縁部はわずかに外反する。	体部と口縁部の内・外面はロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・砂粒灰色普通	P 17 50% PL117 北コーナー部覆土下層

第4号住居跡（第262・263図）

位置 調査区域の北東部，B2a0区。

重複関係 本跡は，西コーナー部を第13号土坑に掘り込まれていることから，第13号土坑より古い。

規模と平面形 本跡の南半分は攪乱されている。長軸 [4.14]m，短軸 [4.02]mで，方形と推定される。

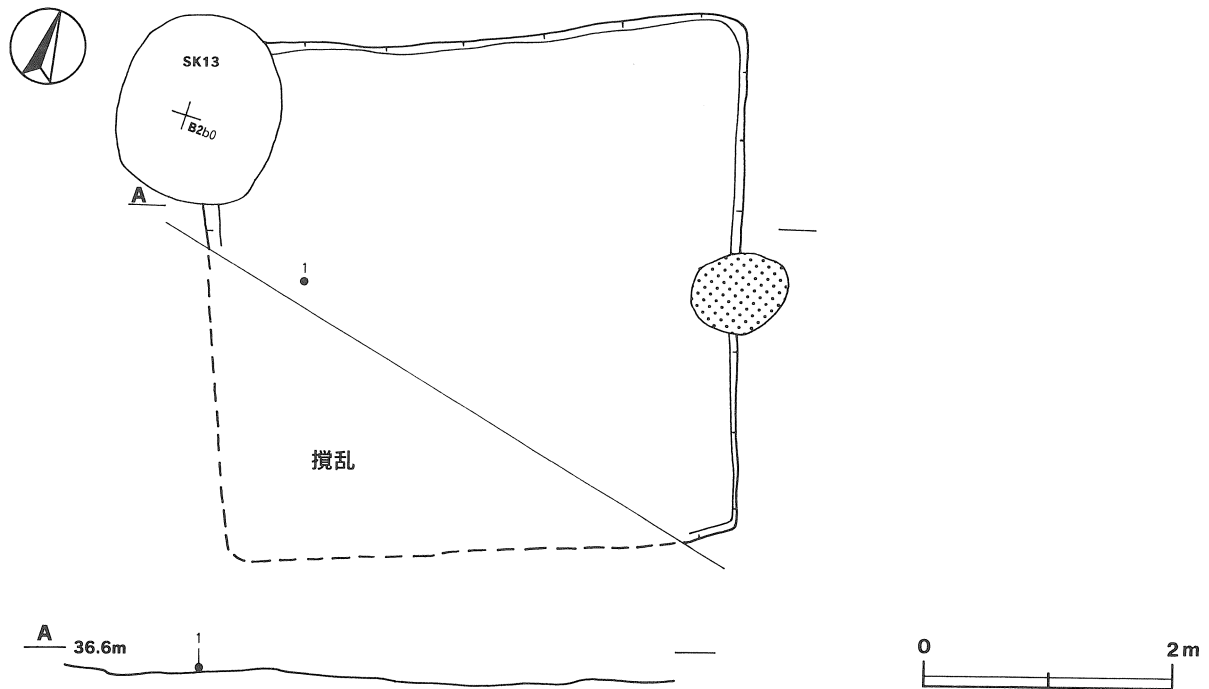
主軸方向 N-72°-E

壁 壁高は3～10cmで，緩やかに立ち上がる。

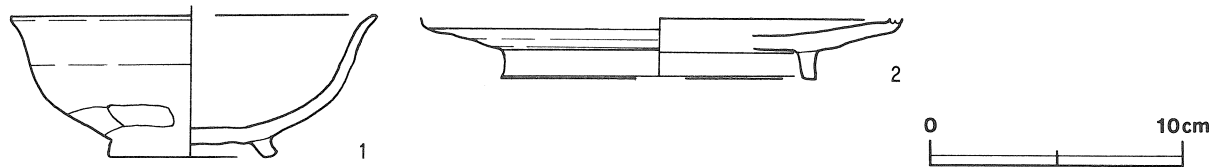
床 西部に，わずかな高まりが認められる。東壁中央部下から焼土が検出された。

遺物 土師器片38点，須恵器片4点，陶器片1点が出土している。第263図1は土師器高台付坏で，西部の覆土下層から出土している。2は須恵器盤で，覆土中から出土している。

所見 東壁中央部側の焼土は，検出位置から竈跡の可能性が考えられる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土土器から10世紀中葉頃と考えられる。



第262図 第4号住居跡実測図



第263図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第263図 1	高台付坏 土師器	B 5.6 C 6.6	体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端へラ削り。高台貼り付け後，ナデ。	長石・雲母・砂粒 橙色 明赤褐色 普通	P21 5% PL117 西部覆土下層
2	盤 須恵器	B (2.4) D [12.4] E 1.1	体部は大きく外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後，ナデ。	長石・黒色粒子・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P56 40% PL117 覆土中

第6号住居跡（第264・265図）

位置 調査区域の北東部，A 2 h 0 区。

重複関係 本跡が第10号住居跡の東コーナー部を掘り込んでいることから，第10号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.02m，短軸2.66mで，長方形である。

主軸方向 N-43°-E

壁 壁高は12~19cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。

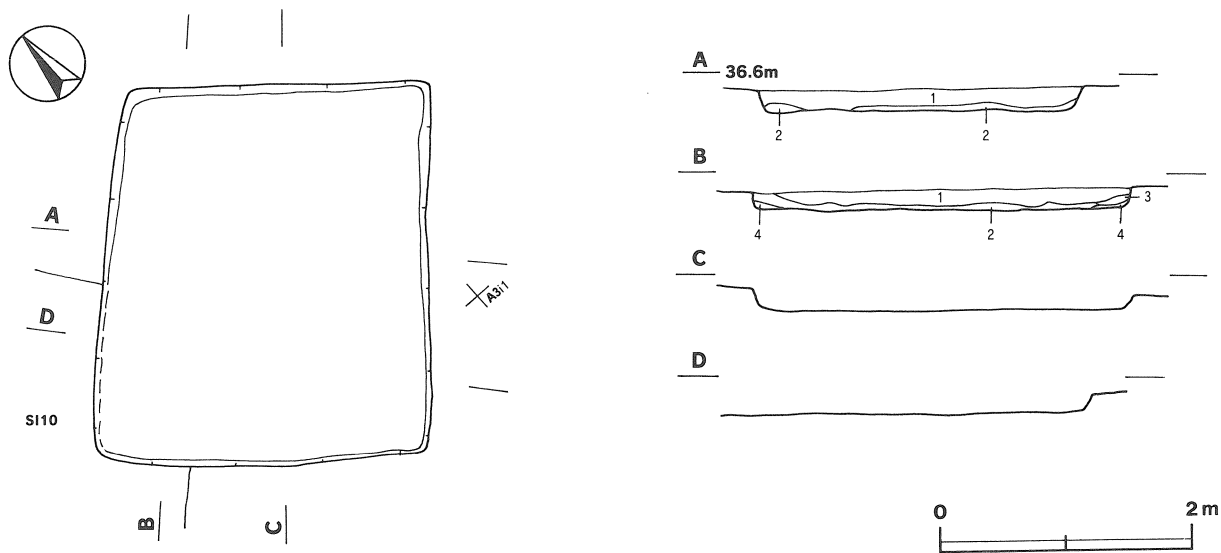
覆土 4層からなる。ロームブロックと山砂を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

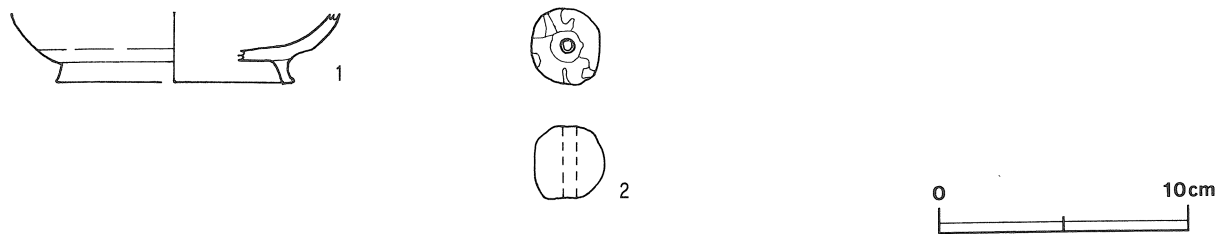
- 1 暗褐色 ローム中ブロック多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
- 3 橙色 山砂多量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量，山砂少量

遺物 土師器片92点，須恵器片5点，陶器片3点，礫1点が出土している。第265図1は土師器高台付坏で，覆土中から出土している。2は球状土錘で，覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から10世紀頃と考えられる。



第264図 第6号住居跡実測図



第265図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第265図 1	高台付坏 土師器	A [2.7] B 0.9	体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・砂粒にぶい橙色普通	P24 5% PL117 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第265図2	球状土錘	3.0	2.9	0.5	(24.5)	覆土中 DP 2	PL117

第9号住居跡 (第266・267図)

位置 調査区域の北東部, A 3 j1 区。

重複関係 本跡が第5号住居跡の南東コーナー部と第7号住居跡の南部を掘り込んでいることから, 両遺構より新しい。

規模と平面形 長軸2.47m, 短軸2.34mで, 方形である。

主軸方向 N-42°-E

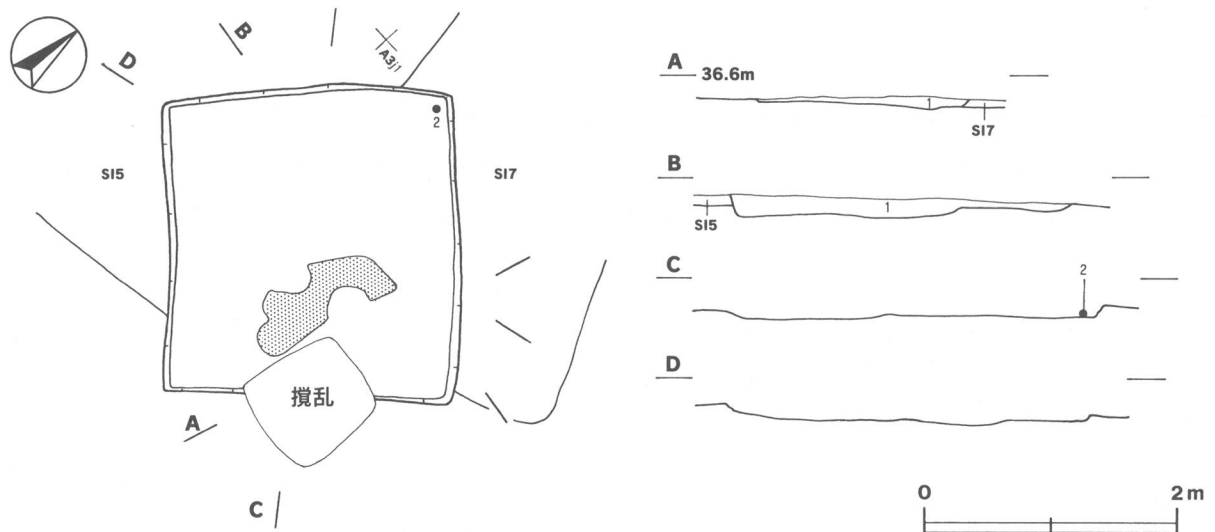
壁 壁高は5~12cmで, 緩やかに立ち上がる。

床 平坦である。中央部から粘土が検出された。

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

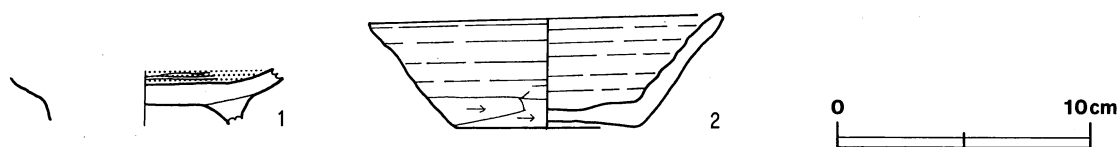
1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子・ローム中ブロック少量, 炭化粒子・ローム大ブロック微量



第266図 第9号住居跡実測図

遺物 土師器片35点, 須恵器片3点, 礫2点が出土している。第267図1は土師器高台付坏で, 覆土中から出土している。2は須恵器坏で, 北コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 2の須恵器坏の器形の特徴等から9世紀中葉以降と考えられる。



第267図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	高台付坏 土師器	B (2.2)	高台部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ, 内面ヘラナデ。高台貼り付け後, ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・砂粒 橙色 普通	P26 30% PL117 覆土中
2	坏 須恵器	A 13.9 B 4.4 C 7.0	体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母・砂粒 灰色 普通	P27 90% PL117 北コーナー部覆土下層

第18号住居跡 (第268・269図)

位置 調査区域の南西部, C1i0区。

重複関係 本跡は, 南東コーナー部を第34・38号土坑に掘り込まれていることから, 両遺構より古い。

規模と平面形 長軸3.49m, 短軸3.01mで, 長方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は12~22cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

棚状施設 北壁の竈の両脇から東西方向に, 幅50cm, 深さ4cmほど掘り込まれた平坦面が認められた。付設された位置と規模等から土器等を収納した棚状施設と考えられる。

床 平坦であり, 中央部から竈手前にかけて硬化面が認められる。

竈 北壁中央部からやや東側を, 竈両脇の空間部まで掘り込んで, 砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚口部まで70cm, 最大幅87cm, 壁から空間部への掘り込みは51cmである。火床部は床面を5cmほど掘りくぼめており, 火熱を受けて赤化し, 硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

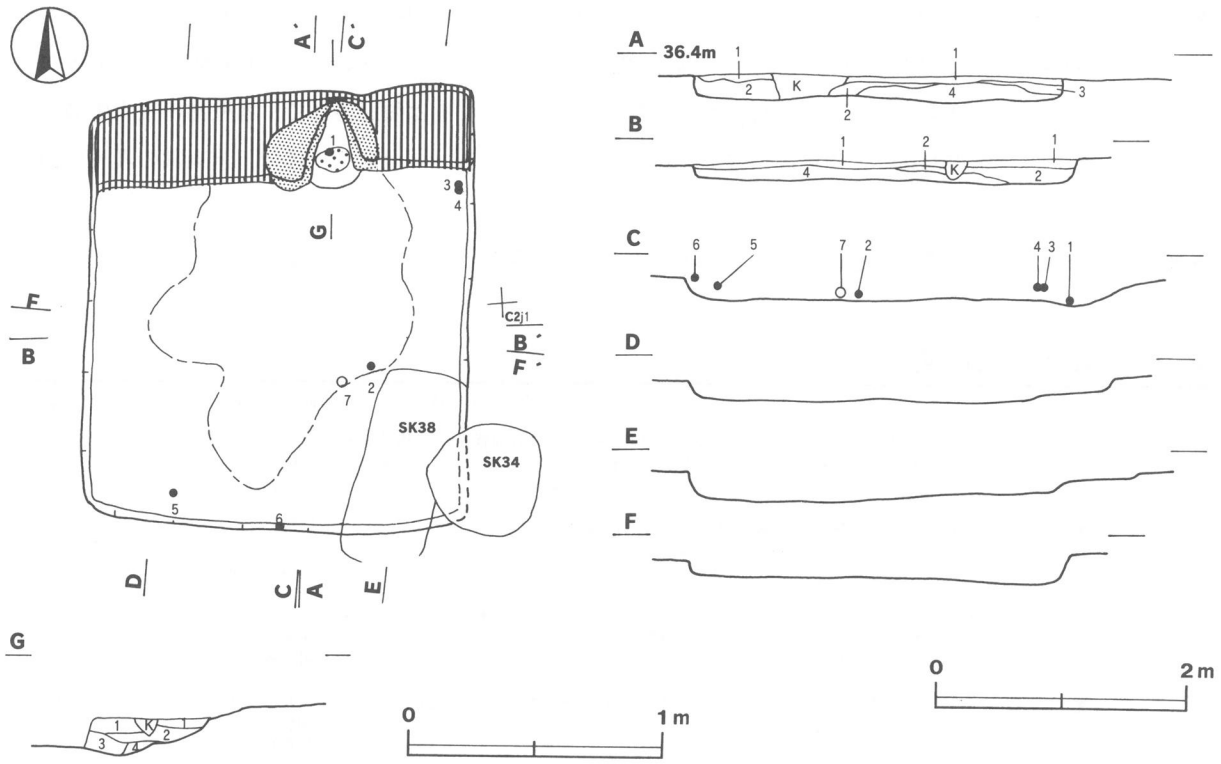
竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・砂粒微量, 焼土粒子・粘土粒子極微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量, 砂粒極微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 4 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック・粘土粒子極微量

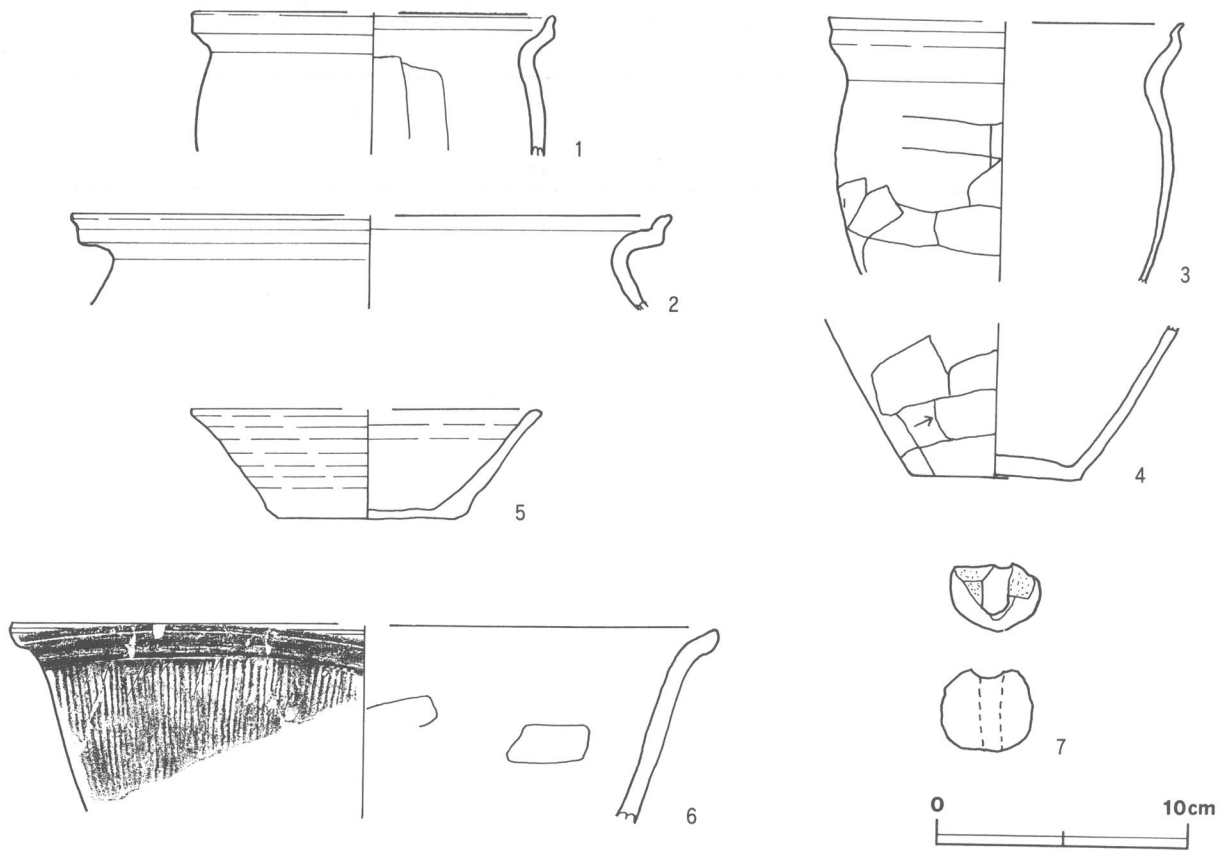
覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・砂粒微量, 粘土粒子極微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム中ブロック極微量
- 3 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 炭化粒子極微量



第268图 第18号住居跡実測图



第269图 第18号住居跡出土遺物実測图

遺物 土師器片123点, 須恵器片10点, 土製品1点, 不明石製品2点, 不明鉄製品3点, 陶器片1点が出土している。第269図1～4は土師器甕である。1は竈の覆土下層から出土している。2は中央部の覆土下層から出土している。3・4は東コーナー部の覆土中層から出土している。5は須恵器坏で, 南壁側の覆土中層から出土している。6は須恵器鉢で, 南壁側の覆土上層から出土している。7は球状土錘で, 南東部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び5の須恵器坏の器形の特徴等から9世紀中葉頃と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	甕 土師器	A [14.2] B (5.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎する。口縁部は外反し, 端部は上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面磨減が著しいため調整痕不明, 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・砂粒 明赤褐色 普通	P39 5% PL119 竈付近覆土下層
2	甕 土師器	A [24.3] B (3.7)	口縁部の破片。口縁部は強く外反し, 端部は斜め上方につまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・砂粒 橙色 普通	P40 5% PL119 中央部覆土下層
3	甕 土師器	A [14.0] B (10.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾し, 端部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母・砂粒 明赤褐色 普通	P59 30% PL119 東コーナー部覆土中層
4	甕 土師器	B (5.1) C 6.7	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母・砂粒 明褐色 普通	P69 30% PL119 東コーナー部覆土中層
5	坏 須恵器	A [24.3] B 4.3 C [7.2]	平底。体部は外傾し, 口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	石英・雲母・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P41 30% PL119 南壁際覆土中層
6	鉢 須恵器	A [13.8] B (7.5)	口縁部の破片。口縁部は外反し, 口縁端部を上方につまみあげている。	体部外面縦位の平行叩き, 内面ヘラナデ。	長石・雲母・砂粒・灰黄色 普通	P42 5% PL119 南壁際覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第269図7	球状土錘	3.6	3.2	0.7	(24.1)	南東部覆土中層	欠損 DP 5 PL119

3 中世の遺構と遺物

遺構としては、竪穴状遺構3基と土坑8基、土塁1条を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。土坑の時期と性格については、吉原作平氏の「粘土張り墓塚についての一考察—前田村遺跡の粘土張り遺構を取り上げて—」(『研究ノート』3号 茨城県教育財団)を参考にした。

(1) 竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構(第270図)

位置 調査区域の中央部, B2c7区。

規模と平面形 長軸3.20m, 短軸2.66mで, 長方形である。

主軸方向 N-20°-E

壁 壁高は3~6cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

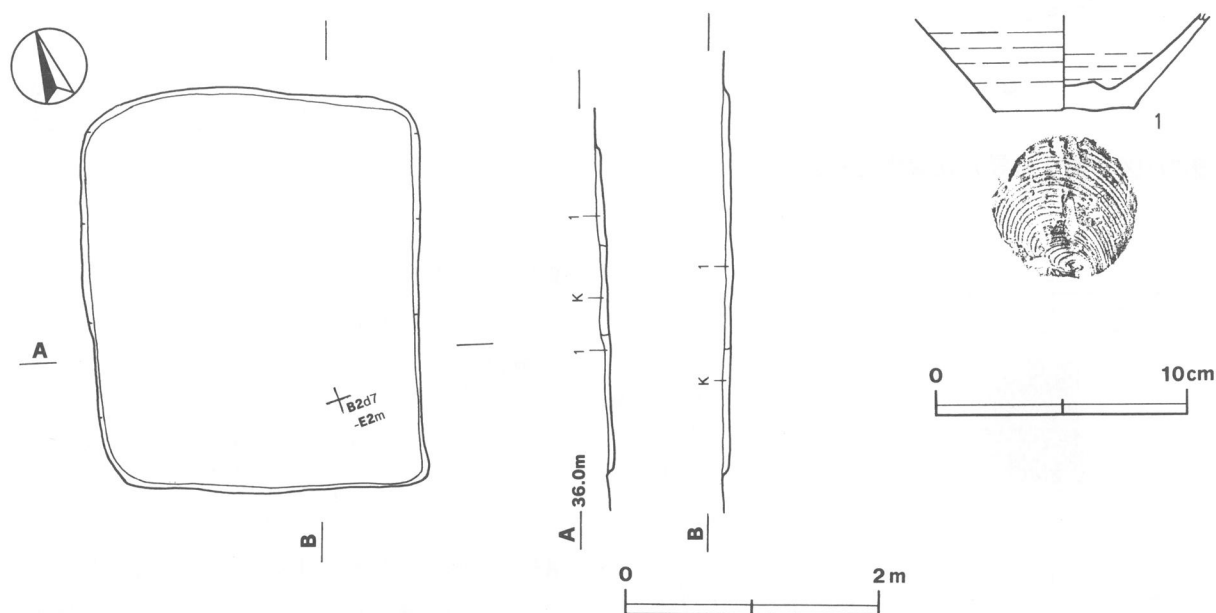
覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片12点が出土している。第270図1は土師質土器皿で, 覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から14世紀頃と考えられる。



第270図 第1号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第1号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	皿 土師質土器	B (3.7) C 5.6	口縁部欠損。体部は大きく外傾する。	体部内・外面クロナデ。底部回転糸切り。	石英・雲母・砂粒 黄橙色 普通	P1 30% PL120 覆土中

第2号竖穴状遺構 (第271・272図)

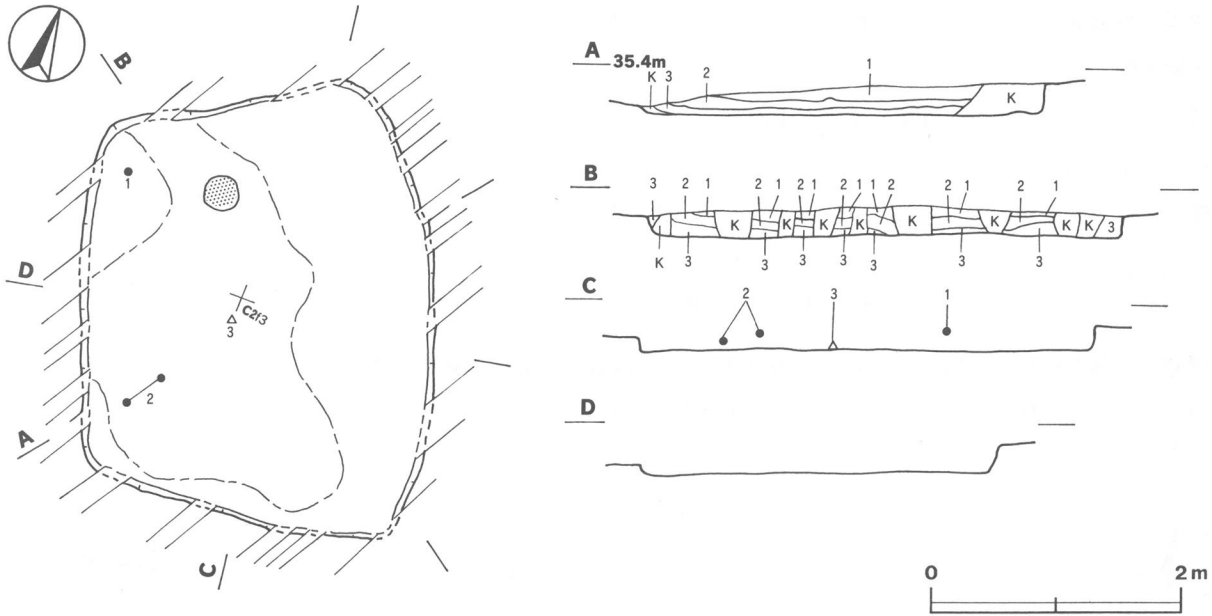
位置 調査区域の中央部, C 2 f 3 区。

規模と平面形 北東辺3.65m, 南西辺2.76m, 北東辺2.78m, 南辺2.30mで, 台形である。

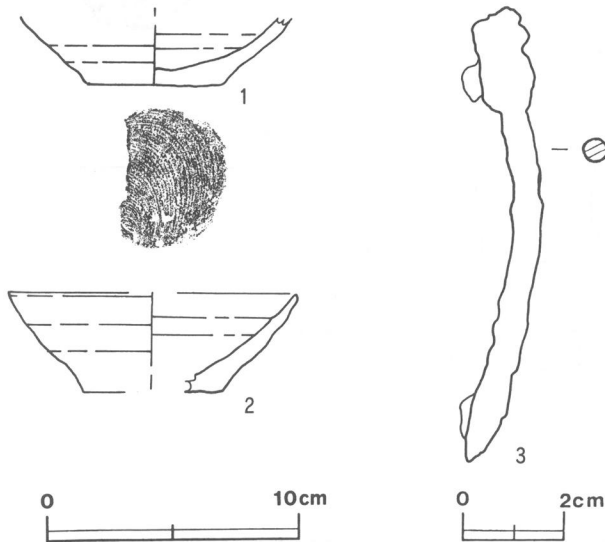
主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は8~21cmで, 垂直に立ち上がる。

床 平坦であり, 中央部から西部にかけて硬化面が認められる。北部から粘土が検出された。



第271図 第2号竖穴状遺構実測図



第272図 第2号竖穴状遺構出土遺物実測図

覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極微量

遺物 土師器片28点, 須恵器片2点, 陶器片1点, 鉄製品1点, 礫1点が出土している。第272図1・2は土師質土器皿である。1は西コーナー部の覆土中層から出土している。2は西壁側の覆土中層から出土した破片と覆土下層から出土した破片が接合したものである。3は鉄釘である。中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から15~16世紀頃と考えられる。

第2号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第272図 1	皿 土師質土器	A (10.8) B (2.6) C 5.3	底部から体部の破片。平底。体部はわずかに内彎しながら大きく外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・砂粒にぶい赤褐色普通	P50 30% PL120 西コーナー部覆土中層
2	皿 土師質土器	A [11.4] B 3.9 C [5.4]	体部はわずかに内彎しながら大きく外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母・砂粒にぶい赤褐色普通	P49 40% PL120 西壁際覆土中層・下層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
第272図3	鉄釘	0.5	9.1	(8.7)	中央部覆土下層 M1	PL120

第4号竪穴状遺構 (第273・274図)

位置 調査区域の中央部，C2e1区。

重複関係 本跡は，第8号溝に掘り込まれていることから，第8号溝跡より古い。

規模と平面形 長軸2.52m，短軸 [2.29]mで，方形と推定される。

主軸方向 N-14°-E

壁 壁高は7~19cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦であり，中央部から西部にかけて硬化面が認められる。

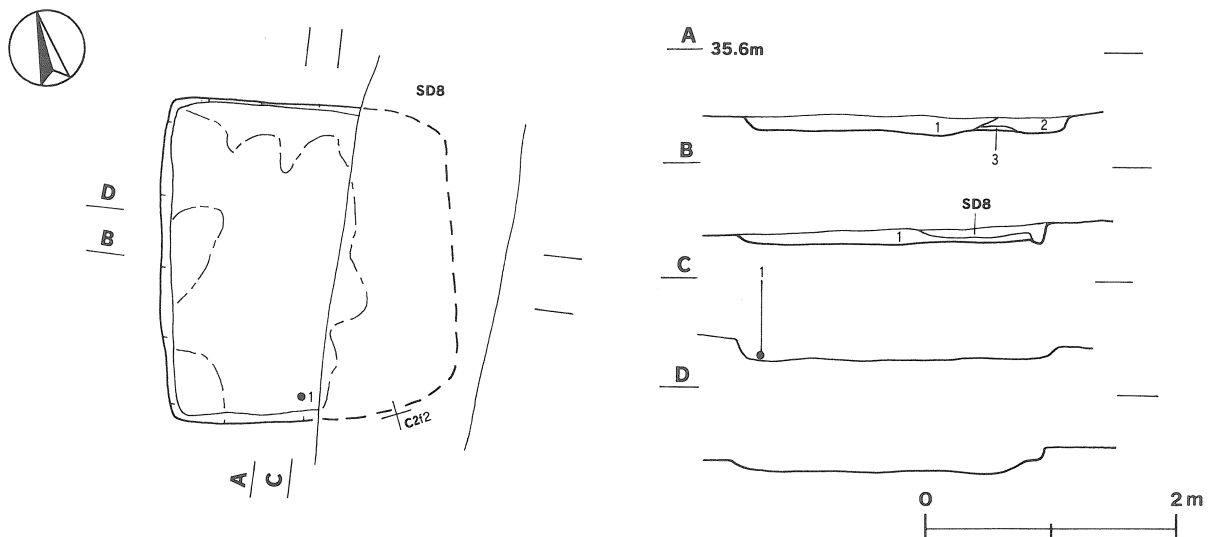
覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

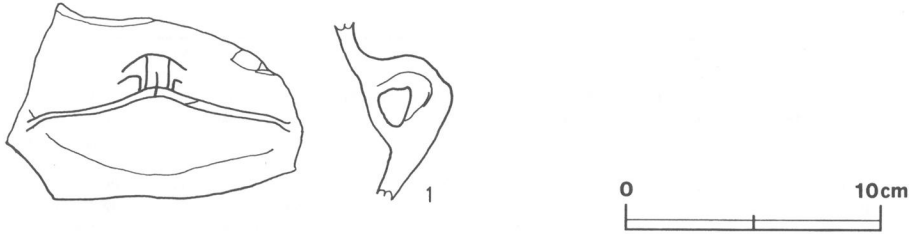
- 1 黒褐色 ローム粒子微量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量

遺物 土師器片19点，須恵器片1点，土師質土器片2点，陶器片2点，礫1点が出土している。第274図1は土師質土器外耳鍋で，南部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から中世と考えられる。



第273図 第4号竪穴状遺構実測図



第274図 第4号竖穴状遺構出土遺物実測図

第4号竖穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第274図 1	外耳鍋 土師質土器	B (7.7)	外耳部の破片。体部は内彎する。	体部内・外面ナデ。体部外面に把手がついている。	雲母・赤色粒子・砂粒 にぶい橙色 普通	P38 5% PL121 南部覆土下層

(2) 土 坑

第1号土坑 (第275図)

位置 調査区域の中央部, B2f8区。

重複関係 本跡が第2号土坑を掘り込んでいることから, 第2号土坑より新しい。

規模と平面形 長径2.36m, 短径1.66mの隅丸長方形で, 深さは3~7cmである。厚さ約5cmの粘土が全面に貼られている。

長径方向 N-41°-W

壁 緩やかに立ち上がる。

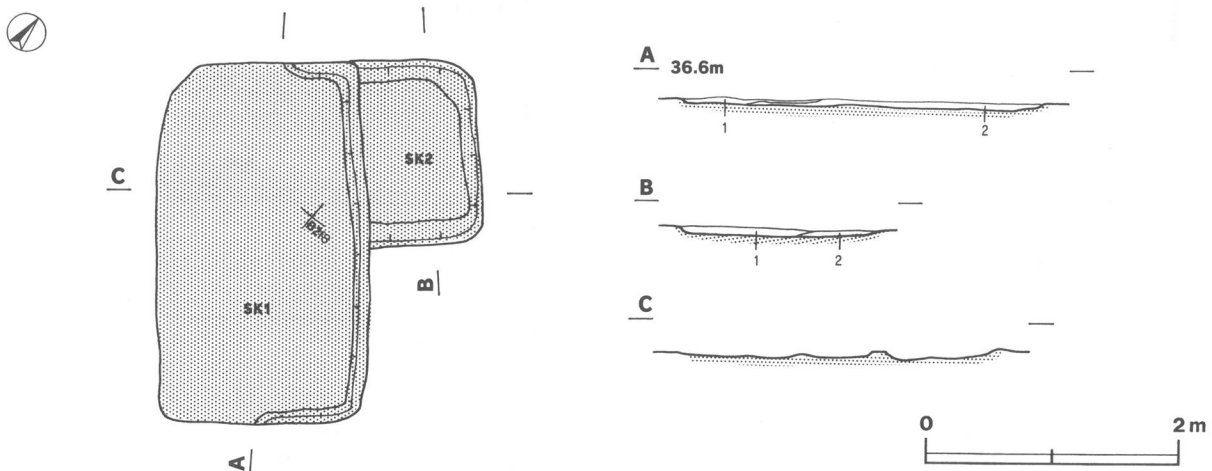
底面 凹凸である。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 褐色 粘土粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

所見 本跡は, 遺構の形態と規模, 検出位置等から中世の土坑と考えられる。



第275図 第1・2号土坑実測図

第2号土坑 (第275図)

位置 調査区域の中央部, B 2 e 8 区。

重複関係 本跡は, 第1号土坑に掘り込まれていることから, 第1号土坑より古い。

規模と平面形 長径1.47m, 短径 (0.95)mの隅丸長方形と推定され, 深さは4~10cmである。厚さ約5cmの粘土が全面に貼られている。

長径方向 N-47°-W

壁 緩やかに立ち上がる。

底面 凹凸である。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック・粒子少量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子多量

所見 本跡は, 遺構の形態と規模, 検出位置等から中世の土坑と考えられる。

第3号土坑 (第276図)

位置 調査区域の北部, B 2 c 6 区。

規模と平面形 長径2.17m, 短径 (1.62)mの長方形と推定され, 深さは47~57cmである。厚さ約5cmの粘土が全面に貼られている。

長径方向 N-46°-E

壁 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

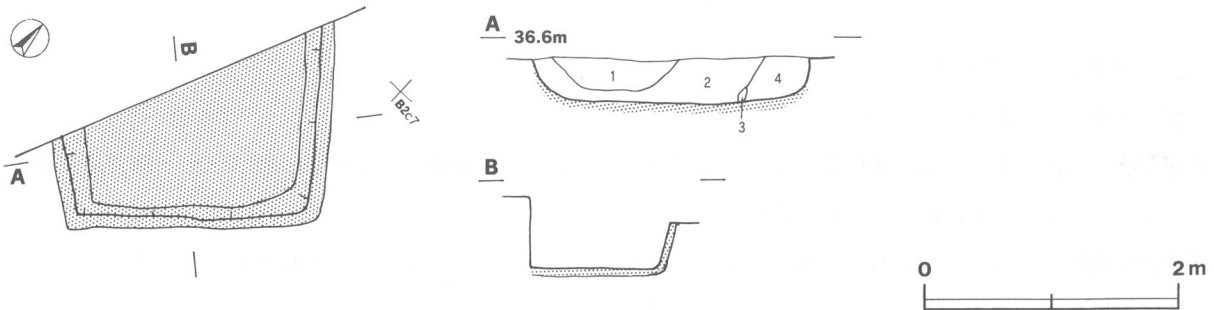
覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック多量, ローム大・小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム大ブロック・中ブロック・粒子中量, 炭化材微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・粒子中量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片5点, 須恵器片2点が出土している。

所見 本跡は, 遺構の形態と規模, 検出位置等から中世の土坑と考えられる。



第276図 第3号土坑実測図

第4号土坑 (第277図)

位置 調査区域の北部, B 2 a7 区。

重複関係 本跡が第2号住居跡を掘り込んでいることから, 第2号住居跡より新しい。

規模と平面形 長径 (3.12)m, 短径1.74m の長方形と推定され, 深さは30cmである。厚さ約 5 cmの粘土が全面に貼られている。

長径方向 N - 65° - E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

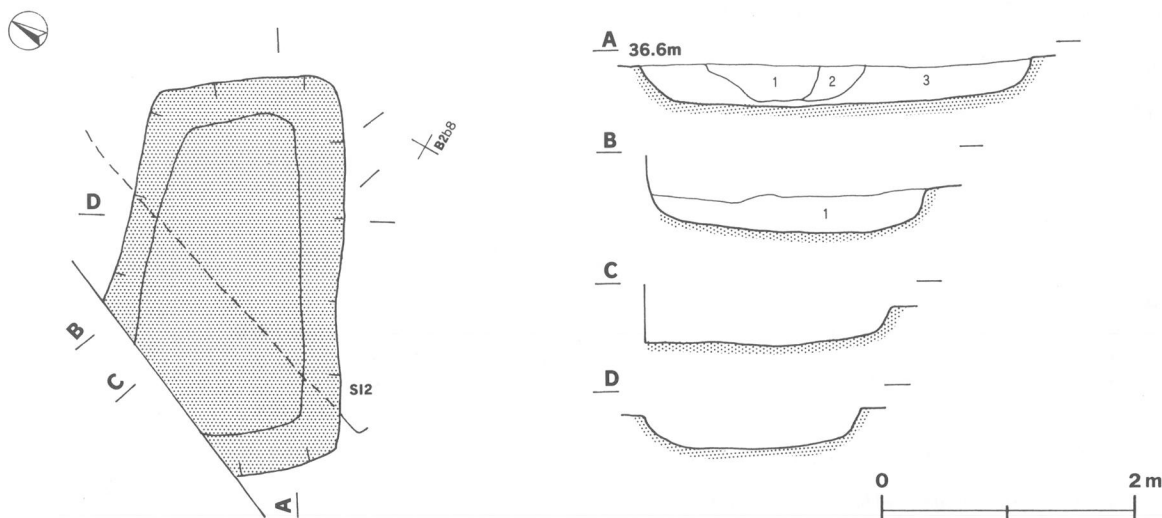
覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土中ブロック少量, ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土大ブロック少量, ローム大ブロック微量

遺物 土師器片87点, 須恵器片11点, 陶器片1点, 礫3点が出土している。

所見 本跡は, 遺構の形態と規模, 検出位置等から中世の土坑と考えられる。



第277図 第4号土坑実測図

第5号土坑 (第278図)

位置 調査区域の北部, A 2 j8 区。

重複関係 本跡が第3・12号住居跡を掘り込んでいることから, 両遺構より新しい。南コーナー部で第6号土坑と接しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 北側の半分は調査区域外である。長径 (2.60)m, 短径 (1.85)m の長方形と推定され, 深さは50~95cmである。厚さ約 5 cmの粘土が全面に貼られている。

長径方向 N - 58° - E

壁 緩やかに立ち上がる。

底面 平坦である。

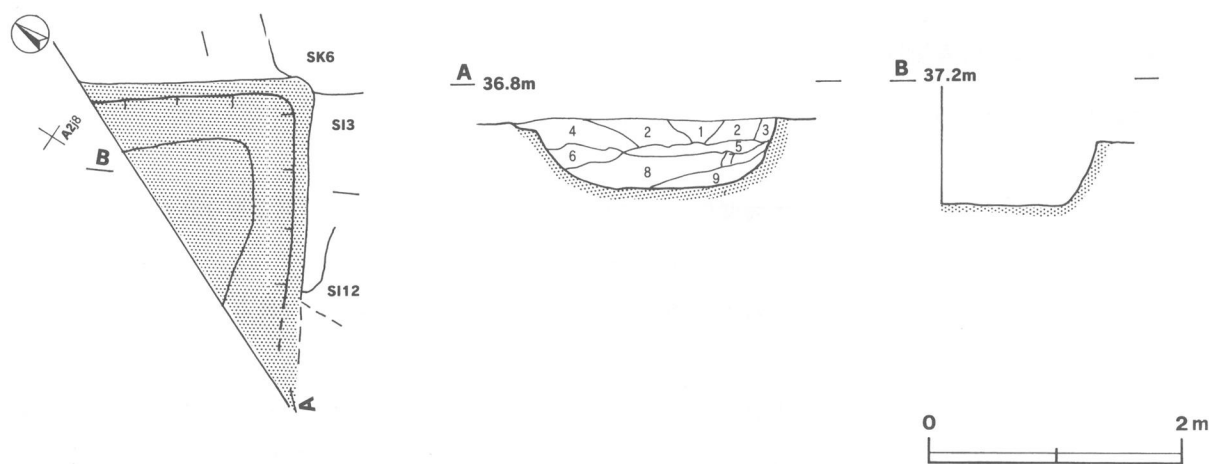
覆土 9層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 焼土粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 極暗褐色 ローム大ブロック多量, ローム中・小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, ローム大ブロック微量
- 9 極暗褐色 砂粒多量, ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, ローム大ブロック微量

遺物 土師器片17点, 須恵器片1点, 鉄滓が出土している。

所見 本跡は, 遺構の形態と規模, 検出位置等から中世の土坑と考えられる。



第278図 第5号土坑実測図

第6号土坑 (第279図)

位置 調査区域の北部, A2j8区。

重複関係 本跡が第3・12号住居跡を掘り込んでいることから, 両遺構より新しい。西コーナー部で第5号土坑と接しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.62m, 短径1.68mの隅丸長方形で, 深さは17~24cmである。厚さ約5cmの粘土が全面に貼られている。

長径方向 N-50°-E

壁 緩やかに立ち上がる。

底面 平坦である。

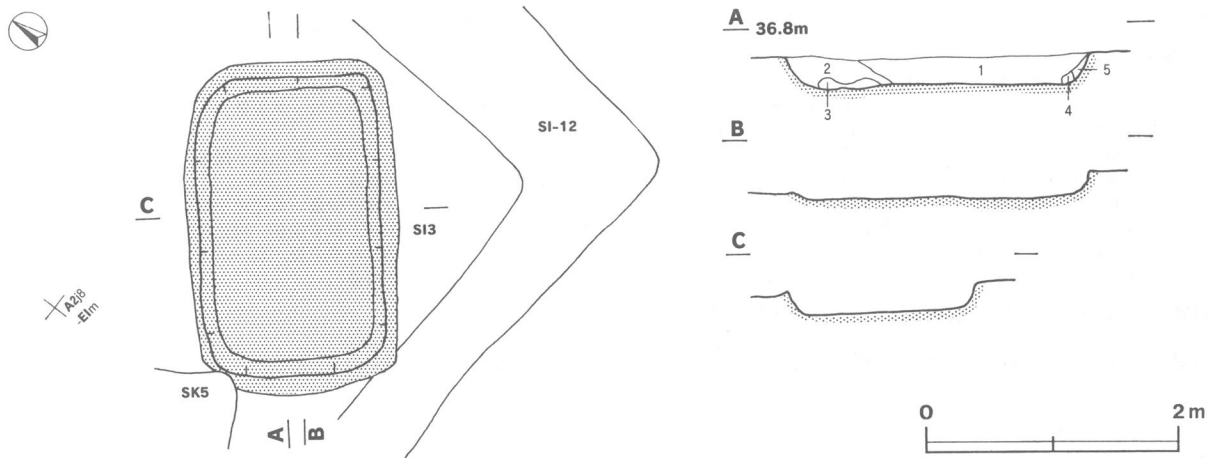
覆土 5層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

遺物 土師器片36点, 須恵器片10点, 陶器片2点が出土している。

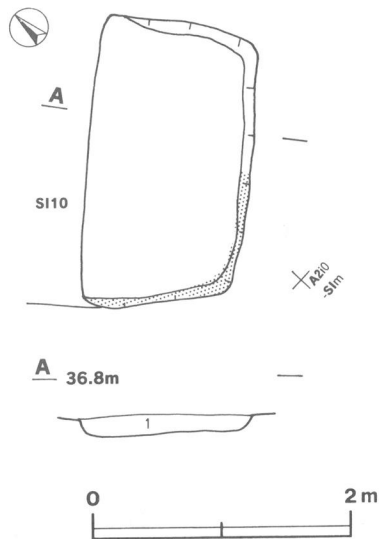
所見 本跡は, 遺構の形態と規模, 検出位置等から中世の土坑と考えられる。



第278図 第6号土坑実測図

第60号土坑 (第280図)

位置 調査区域の北部, A 2 h 0 区。



第280図 第60号土坑実測図

重複関係 本跡が第10号住居跡の南コーナー部を掘り込んでいることから, 第10号住居跡より新しい。

規模と平面形 長径2.25m, 短径(1.30)mの長方形と推定され, 深さは17~24cmである。

長径方向 N-50°-E

壁 外傾して立ち上がる。南コーナー部に粘土が貼られた痕が残っている。

底面 凹凸が認められる。

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量

所見 本跡は, 遺構の形態と規模, 検出位置等から中世の土坑と考えられる。

第28号土坑 (第281図)

位置 調査区域の南西部, C 2 i 1 区。

重複関係 本跡は, 第29号土坑に掘り込まれていることから, 第29号土坑より古い。

規模と平面形 長径1.09m, 短径0.68mの楕円形で, 深さは66cmである。

長径方向 N-14°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

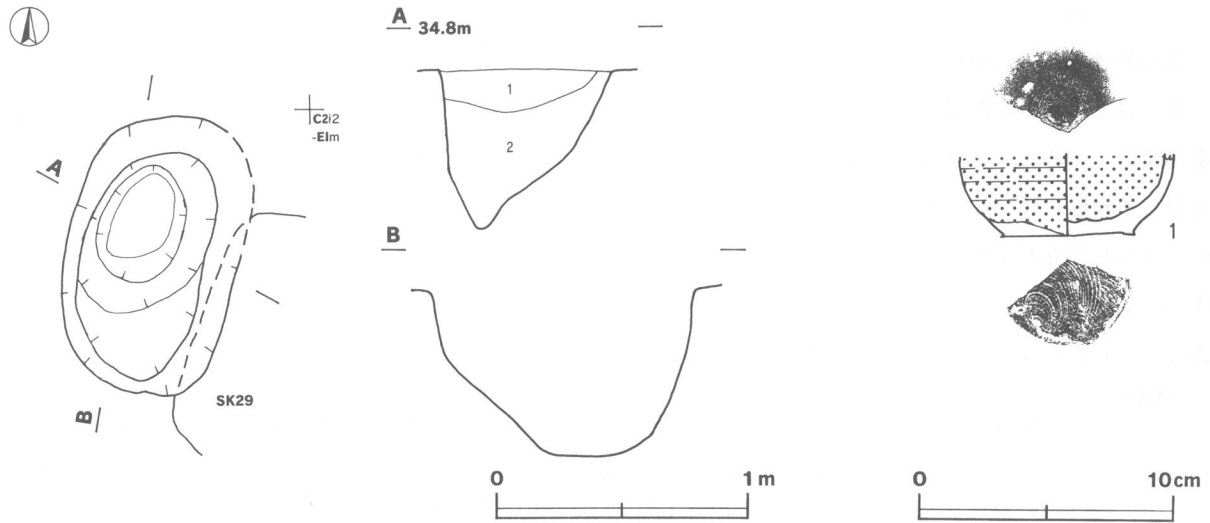
1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量, ローム大ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子極微量

2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・ローム大ブロック・粘土小ブロック微量, 炭化粒子極微量

遺物 土師器片3点, 須恵器片1点, 陶器片2点, 不明土製品2点, 不明鉄製品1点が出土している。第281

図1は陶器碗で、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から中世と考えられる。



第281図 第28号土坑実測図

第28号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第281図 1	碗 陶器	A [8.6] B (3.2) C [5.2]	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	精良 鉄釉 (にぶい赤褐色) 普通	P58 20% PL121 覆土中

(3) 土 塁

第1号土塁 (第282図・付図2)

位置 調査区域の南西部, C1f0区。

重複関係 第9号溝の上部に, 東西方向に構築されていたと推定される。

規模と形状 調査区域内で確認された規模は, 長さ約(1m), 上幅0.70m, 下幅3.56mである。断面形は台形状である。



第282図 第1号土塁実測図

盛土 5層からなる。2層から5層は盛土である。ロームブロックを含み, 粘性としまりが強い。1層は土塁構築後の堆積土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量・ローム小ブロック極微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量, 炭化粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック極微量

遺物 土師器片5点, 須恵器片8点, 土師質土器片2点が出土している。

所見 本跡は, 確認された位置から, 調査区域外の東側と西側(C1区とC2区)に残っている土塁とつながっていたと考えられ, 津賀城跡の土塁の一部と推定される。

4 近世の遺構と遺物

遺構としては、土坑2基を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

(1) 土坑

第30号土坑 (第283図)

位置 調査区域の南西部, C2i2区。

重複関係 本跡は、南東部を第47号土坑に掘り込まれていることから、第47号土坑より古い。

規模と平面形 径0.80mの円形で、深さは60cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

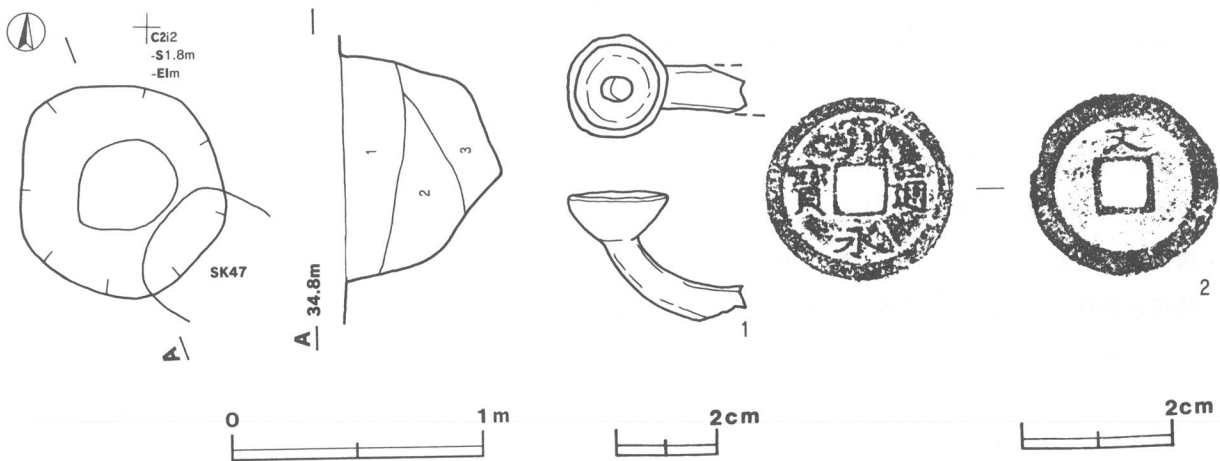
覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, ローム中ブロック微量, ローム大ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック・粘土小ブロック微量, ローム大ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量, 炭化粒子極微量

遺物 土師器片7点, 陶器片3点, 磁器1点, 碟1点, 煙管1点と古銭1点が出土している。第283図1は煙管で、2は寛永通宝銭である。いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は、遺構の形態と規模及び寛永通宝銭が出土していること等から近世の墓塚と考えられる。



第283図 第30号土坑・出土遺物実測図

第30号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)		
第283図1	煙管雁首	(3.6)	0.9	(6.4)	覆土中	M9 PL121

図版番号	銭銘	計測値				初鑄年代	備考
		外径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第283図2	寛永通宝	2.3	0.09	0.60	(1.28)	1668年	M4 正文字 覆土中 PL121

第36号土坑（第284図）

位置 調査区域の南西部，C 2 j 1 区。

規模と平面形 長径0.83m，短径0.49m の楕円形で，深さは49cmである。

長径方向 N-39°-E

壁 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

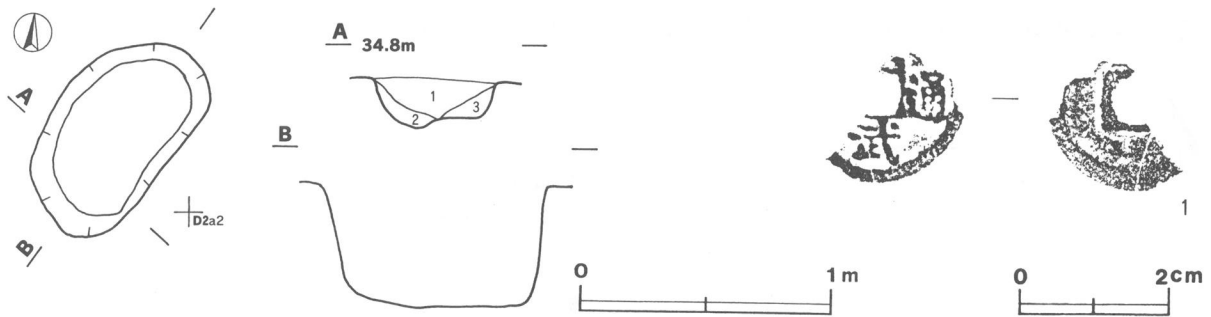
覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量，粘土小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量，粘土粒子極微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，粘土小ブロック微量，焼土粒子・粘土粒子極微量

遺物 土師器片5点，陶器片2点，不明鉄製品3点，古銭1点，鉄滓が出土している。第284図1は洪武通宝銭で，覆土中から出土している。

所見 本跡は，遺構の形態と規模及び洪武通宝銭が出土していること等から近世の墓壙と考えられる。



第284図 第36号土坑・出土遺物実測図

第36号土坑出土遺物観察表

図版番号	銭 銘	計 測 値				初 鑄 年 代	備 考
		外径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第284図1	□ 武 通 □	(2.5)	0.1	0.65	(2.52)	1580 年 以 降	M 5 山武 欠損 覆土中 PL121

5 時期不明の遺構と遺物

遺構としては、竪穴住居跡9軒、竪穴状遺構1基、土坑50基、溝15条を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。土坑は、形状に特徴をもつもの等の11基を記載し、それ以外は一覧表で報告する。

(1) 竪穴住居跡

第7号住居跡 (第285図)

位置 調査区域の北東部、A3i1区。

重複関係 本跡は、西部を第5号住居に、南部を第9号住居に掘り込まれていることから、両遺構より古い。

規模と平面形 長軸3.74m、短軸(2.11)mで、方形と推定される。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は3~9cm、緩やかに立ち上がる。

床 凹凸が認められる。北部から粘土が検出された。

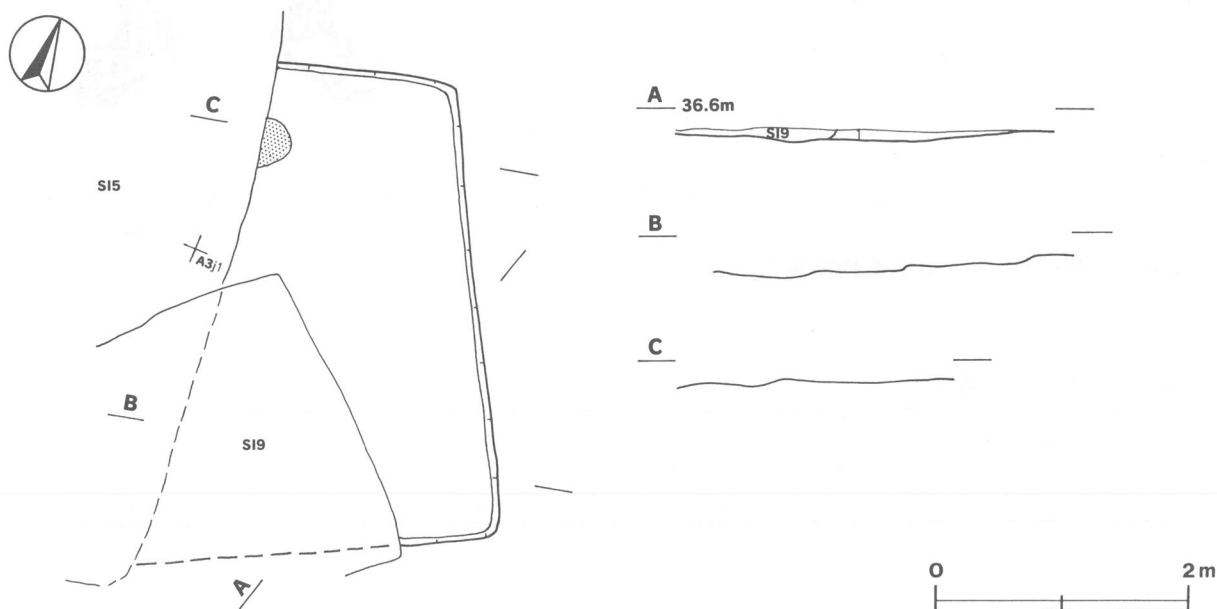
覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片28点、須恵器片1点、陶器片1点、礫1点が出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第285図 第7号住居跡実測図

第10号住居跡 (第286図)

位置 調査区域の北部、A2h9区。

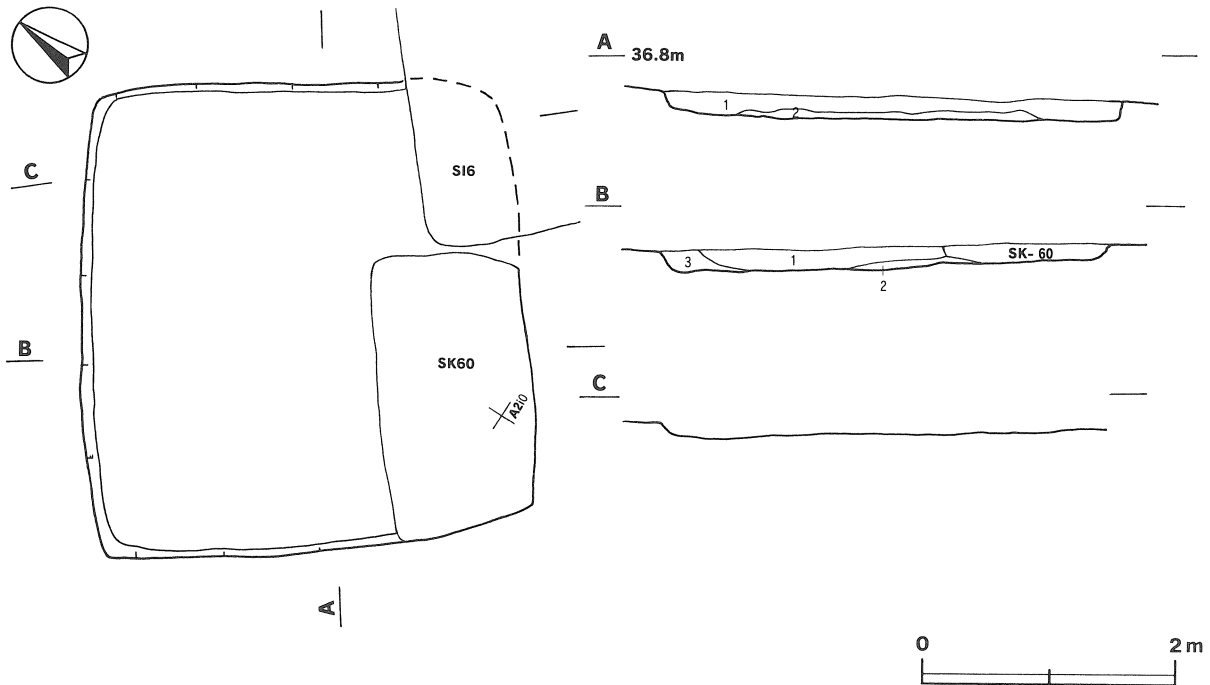
重複関係 本跡は、東コーナー部を第6号住居に、南コーナー部を第60号土坑に掘り込まれていることから、両遺構より古い。

規模と平面形 長軸3.71m、短軸3.55mで、方形である。

主軸方向 N-54°-E

壁 壁高は12~15cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦である。



第286図 第10号住居跡実測図

覆土 3層からなる。ロームブロックと粘土ブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量, ローム中ブロック・粘土大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量

遺物 土師器片30点, 須恵器片4点, 陶器片1点, 礫3点が出土している。

所見 本跡の時期は, 10世紀の第6号住居に掘り込まれているので, それ以前である。

第11号住居跡 (第287・288図)

位置 調査区域の北部, A2g0区。

重複関係 本跡の, 西コーナー部が第11号土坑を掘り込み, 東壁を第1号溝に掘り込まれていることから, 第11号土坑より新しく, 第1号溝より古い。

規模と平面形 長軸3.36m, 短軸3.10mで, 方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は41~56cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。北壁中央部は, 径86cmの半円形状に, 8cmの深さで外側に掘り込まれている。

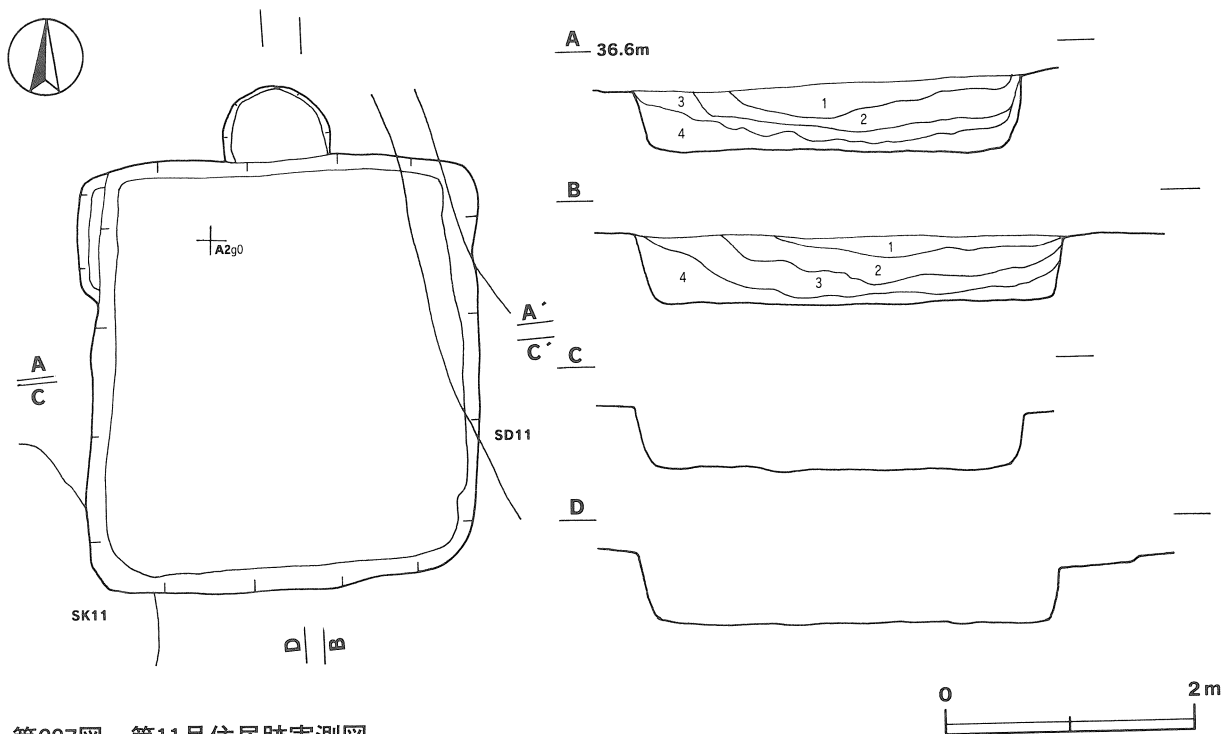
床 ゆるい起伏が認められる。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

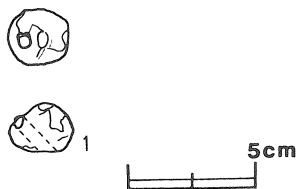
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 3層より色調が明るい。
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量

遺物 土師器片14点, 陶器片1点, 土製品1点(球状土錘)が出土している。第288図1は球状土錘で, 覆土中から出土している。



第287図 第11号住居跡実測図

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第288図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土位置	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第288図1	球状土錘	2.5	1.9	0.5	(9.5)	覆土中	DP3 PL117

第12号住居跡 (第289図)

位置 調査区域の北部, A 2 j 8 区。

重複関係 本跡が第3号住居跡を掘り込み, 中央部を第6号土坑に, 西部を第5号土坑に掘り込まれていることから, 第3号住居跡より新しく, 第5・6号土坑より古い。

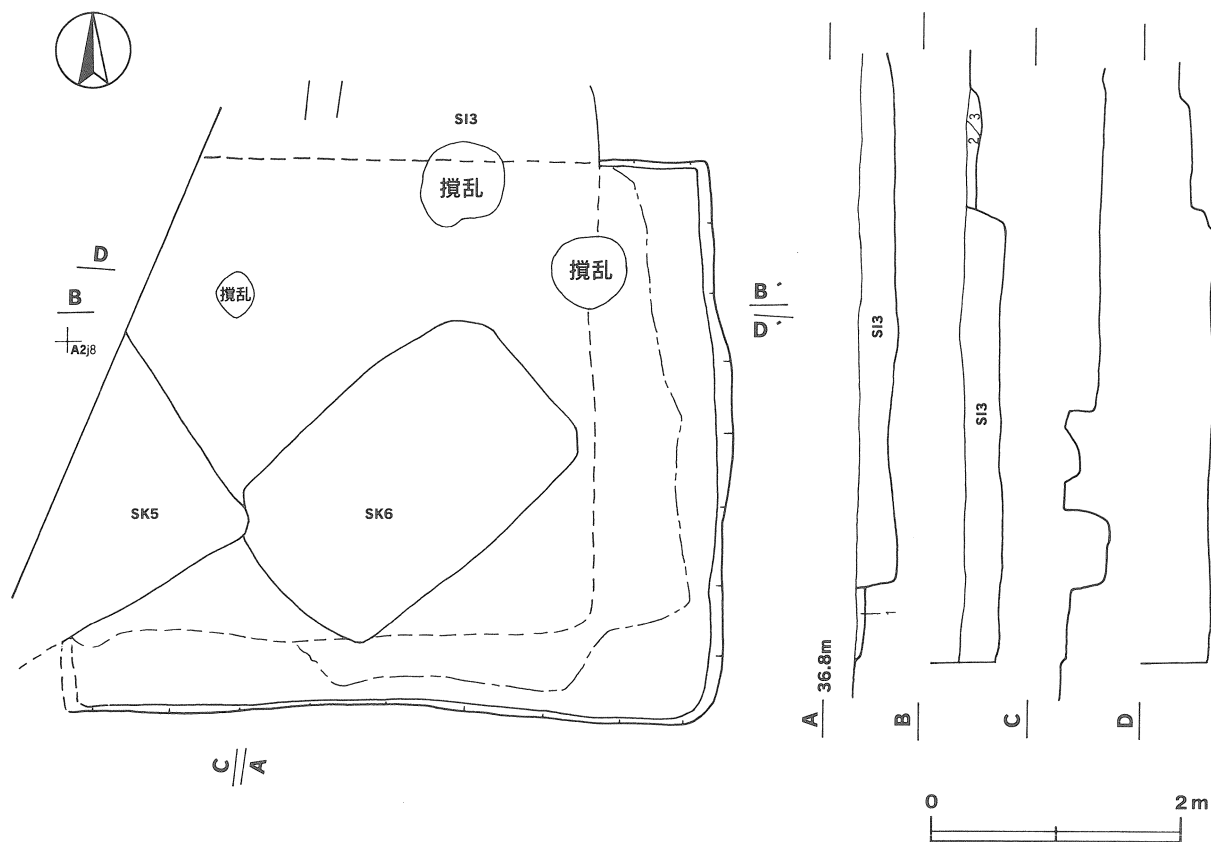
規模と平面形 長軸5.30m, 短軸(4.32)mで, 長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は6~8cmで, 緩やかに立ち上がる。

床 平坦であり, 東部から南部にかけて硬化面が認められる。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。



第289図 第12号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・粒子少量

遺物 土師器片10点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第13号住居跡 (第290図)

位置 調査区域の北西部, A 3 c 4 区。

規模と平面形 北東側の半分以上は調査区域外である。長軸4.29m, 短軸(0.66)mで, 長方形と推定される。

主軸方向 N-31°-E

壁 壁高は12~13cmで, 垂直に立ち上がる。

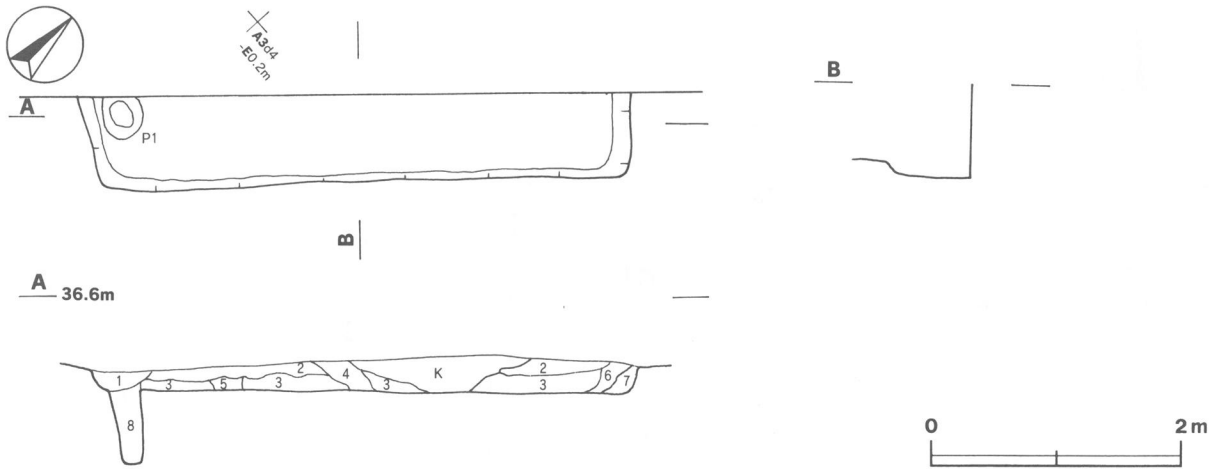
床 平坦である。

ピット 1か所。P1は径23cmの円形で, 深さは58cmである。性格は不明である。

覆土 8層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 2層より色調が明るい。
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量



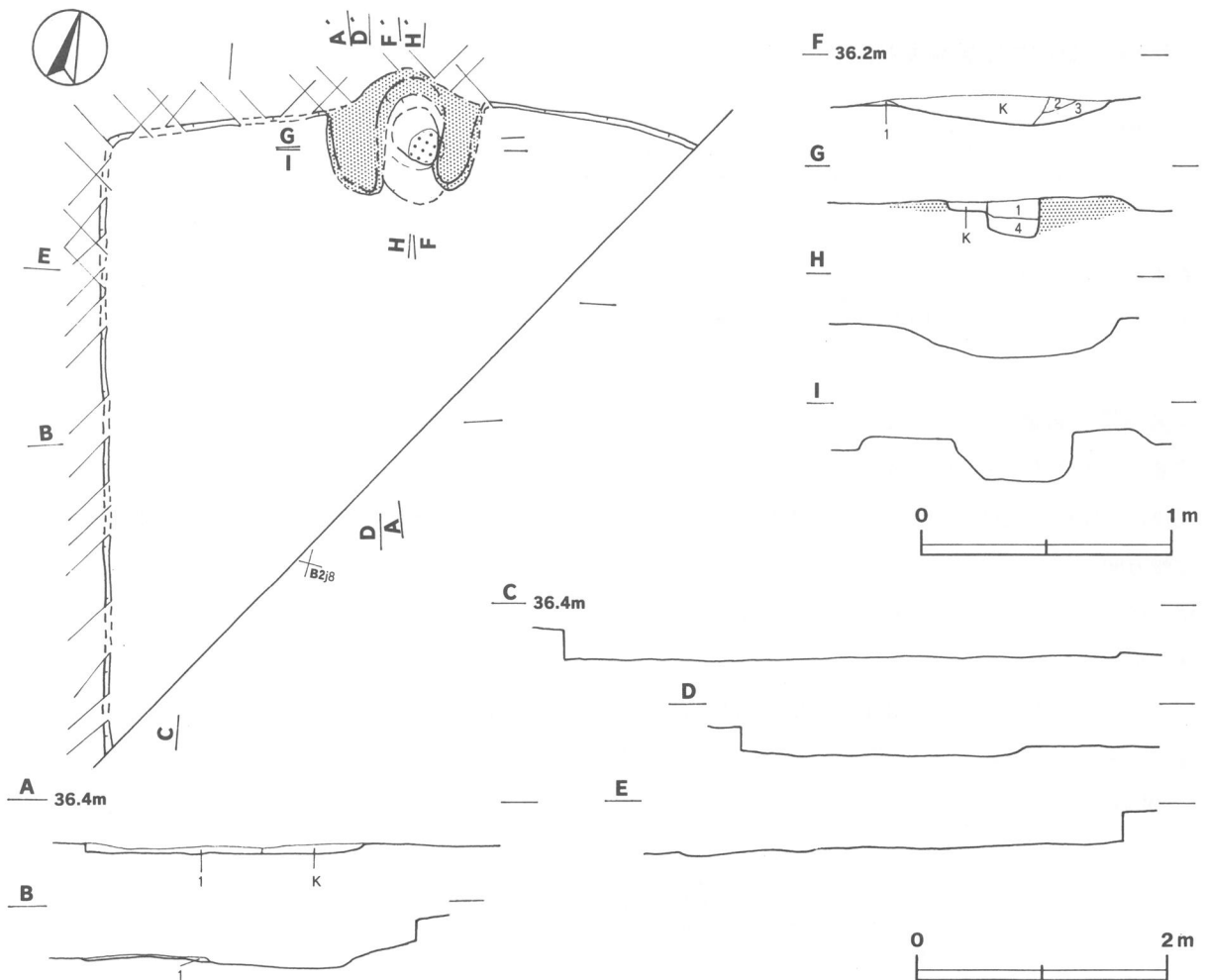
第290図 第13号住居跡実測図

遺物 土師器片 1点が出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第15号住居跡 (第291図)

位置 調査区域の中央部, B 2 i 7 区。



第291図 第15号住居跡実測図

規模と平面形 南東側の半分は調査区域外である。長軸 [5.13]m, 短軸 [4.76]m の方形と推定される。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は3~31cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦である。

竈 北壁の中央部を掘り込んで、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚口部まで109cm, 最大幅125cm, 壁外への掘り込みは27cmである。火床部は床面を25cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤化し、硬化している。煙道は外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・砂粒少量, 粘土粒子極微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量, 焼土小ブロック極微量

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物 土師器片78点, 須恵器片2点, 陶器片1点, 鉄滓が出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第16号住居跡 (第292・293図)

位置 調査区域の中央部, B2i5区。

重複関係 本跡が第15号土坑を掘り込み、北西壁を第8号溝に、南壁を第23号土坑に掘り込まれていることから、第15号土坑より新しく、第8号溝跡と第23号土坑より古い。

規模と平面形 長軸5.19m, 短軸3.08mで、長方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は10~44cmである。中位まで垂直に立ち上がる。中位に幅6~40cmの段があり、中位から上位は垂直に立ち上がる。

床 平坦である。南西壁下に硬化面が認められる。

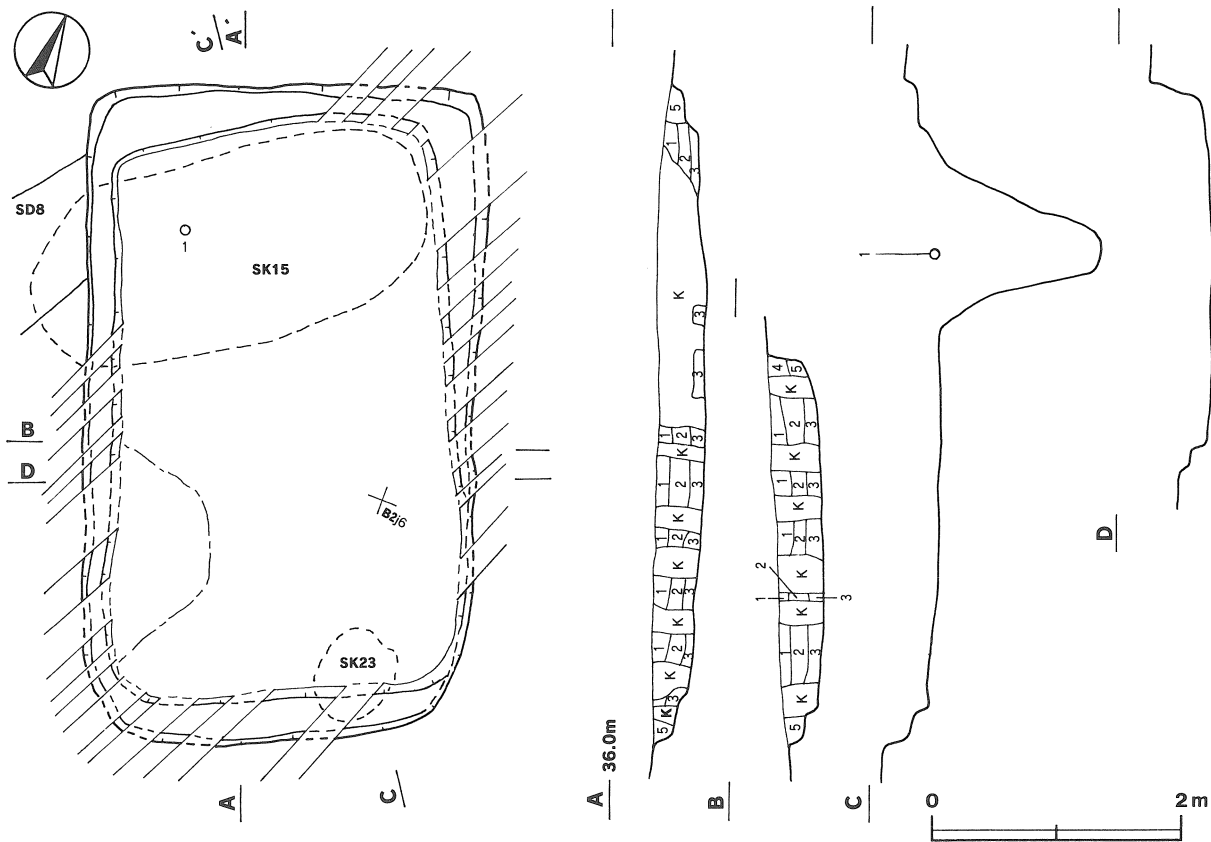
覆土 5層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

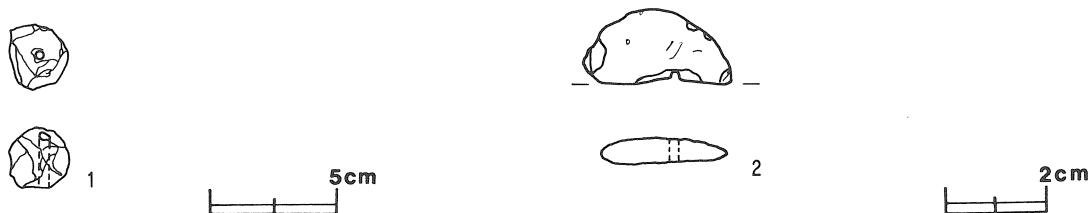
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子極微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片223点, 須恵器片18点, 土師質土器片1点, 陶器片1点, 土製品1点 (球状土錘), 石製模造品1点 (有孔円板), 礫3点, 鉄滓が出土している。第293図1は球状土錘で、北西部の覆土下層から出土している。2は石製模造品の有孔円板で、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第292図 第16号住居跡実測図



第293図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土位置	備考		
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		備	考	
第293図1	球状土錘	2.6	2.4	0.4	(12.3)	北西部覆土下層	欠損	DP 4	PL119

図版番号	種別	計測値				石質	備考		
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		備	考	
第293図2	石製模造品	2.8	0.45	0.1	(2.9)	滑石	有孔円板	欠損 覆土中	Q 2 PL119

第19号住居跡（第294図）

位置 調査区域の南西部，D 1 d 0 区。

規模と平面形 南東側半分は調査区域外である。長軸2.52m，短軸（1.05）mで，長方形と推定される。

主軸方向 N - 40° - E

壁 壁高は2～30cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

ピット 1か所。P1は長径20cm，短径16cmの楕円形で，深さは6cmである。性格は不明である。

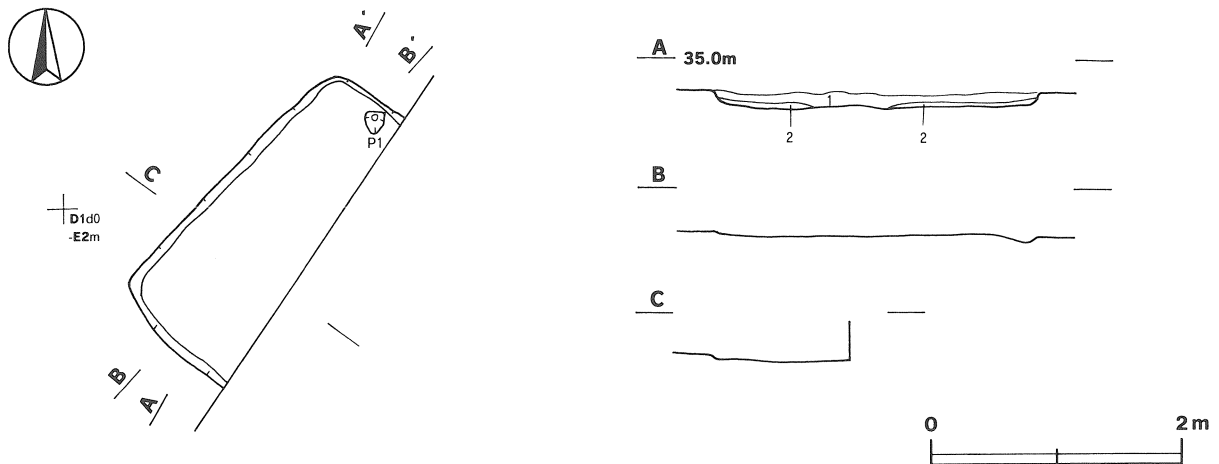
覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量，炭化粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック極微量

遺物 土師器片2点，須恵器片1点，陶器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は，時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第294図 第19号住居跡実測図

第22号住居跡（第295図）

位置 調査区域の南西部，D 1 e 0 区。

規模と平面形 東部と南部は調査区域外である。長軸（2.07）m，短軸（1.70）mで，長方形と推定される。

主軸方向 N - 12° - E

壁 壁高は14～34cmで，外傾して立ち上がる。

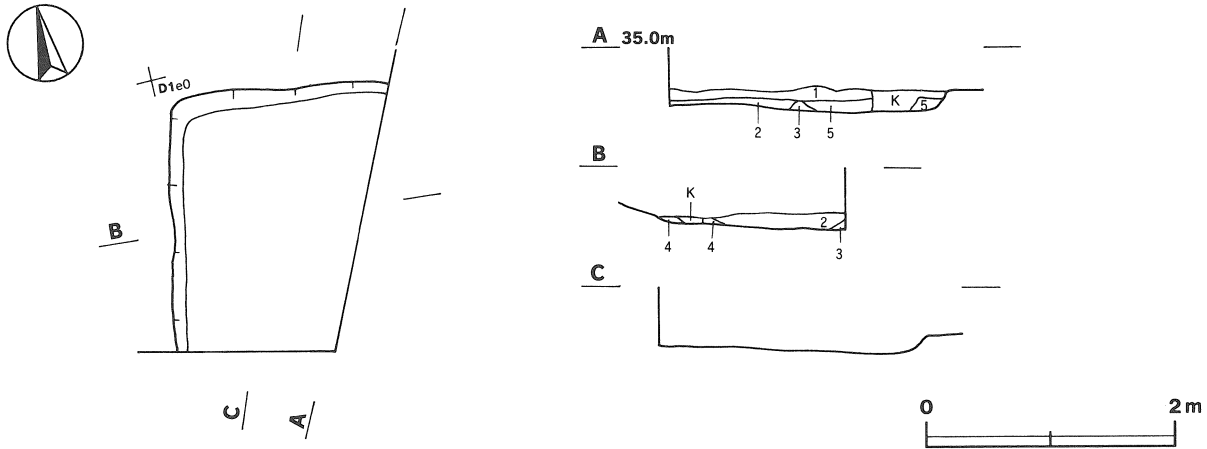
床 平坦である。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量，炭化粒子微量，ローム小ブロック・粘土粒子極微量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量，粘土粒子極微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，粘土粒子極微量

所見 本跡の時期は，遺物が出土していないことから不明である。



第295図 第22号住居跡実測図

(2) 竪穴状遺構

第3号竪穴状遺構 (第296・297図)

位置 調査区域の南部, C 2 d3 区。

規模と平面形 長軸2.96m, 短軸1.88mで, 長方形である。

主軸方向 N - 62° - W

壁 壁高は22~44cmで, 垂直に立ち上がる。

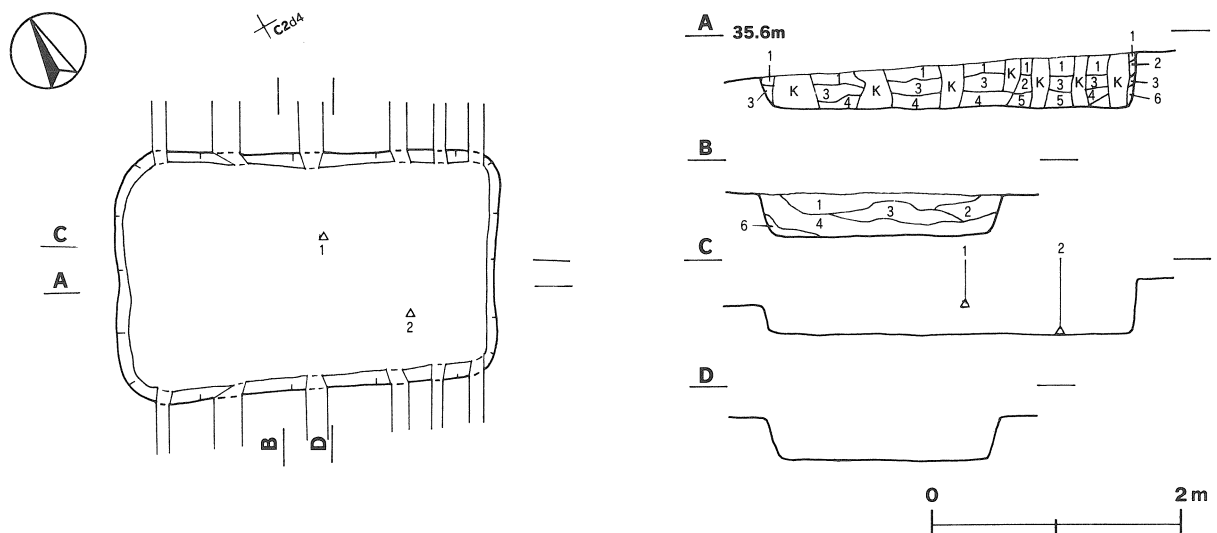
床 平坦であり, 南東壁側を除いて硬い。

覆土 6層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量・焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム大ブロック極微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック極微量 4層より色調が明るい。
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック極微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量, ローム中ブロック極微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

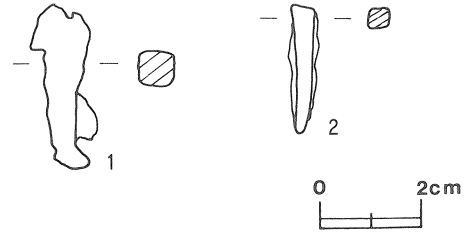
遺物 土師器片13点, 土師質土器片3点, 鉄製品(釘)1点, 不明鉄製品1点, 礫1点が出土している。第297



第296図 第3号竪坑状遺構実測図

図1は不明鉄製品で、中央部の覆土中層から出土している。2は鉄釘で、南コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第297図 第3号竪穴状遺構出土遺物実測図

第3号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値			出土位置	備	考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第297図1	不明鉄製品	3.3	0.7	(4.4)	中央部覆土中層	M2	PL120
2	鉄釘	(2.5)	0.4	(1.1)	南コーナー部覆土下層	M3	PL120

(3) 土坑

第14号土坑 (第298図)

位置 調査区域の南西部、C2c3区。

重複関係 本跡が第19号土坑と第8号溝跡を掘り込んでいることから、両遺構より新しい。

規模と平面形 長軸1.46m、短軸1.32mの長方形で、深さは27cmである。

長軸方向 N-71°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ゆるい起伏が認められる。南コーナー部から炭化材が検出された。

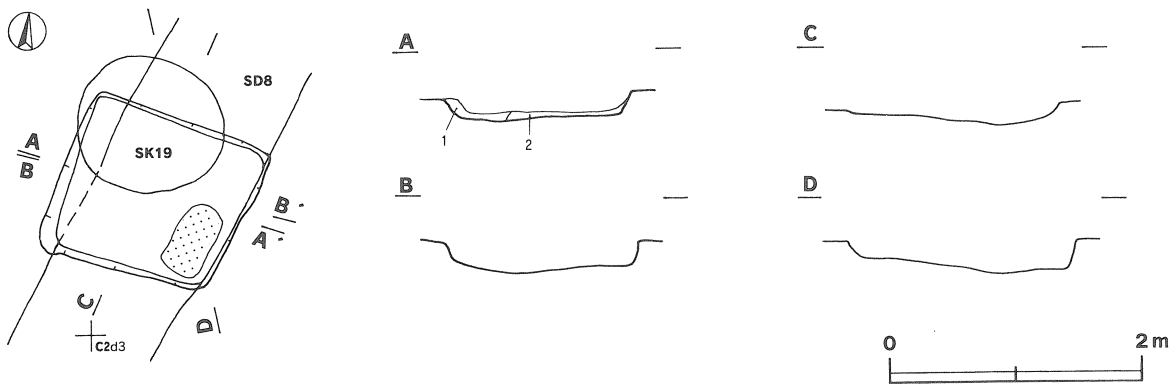
覆土 2層からなる。ロームブロックと粘土を含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、粘土小ブロック・粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子中量、ローム小ブロック微量、焼土粒子極微量

遺物 土師器片2点が出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第298図 第14号土坑実測図

第15号土坑 (第299図)

位置 調査区域の南西部, B2 i5 区。

重複関係 本跡は, 第16号住居と第8号溝に掘り込まれていることから, 両遺構より古い。

規模と平面形 長径3.19m, 短径1.51mの楕円形で, 深さは164cmである。

長径方向 N-58°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸が認められる。

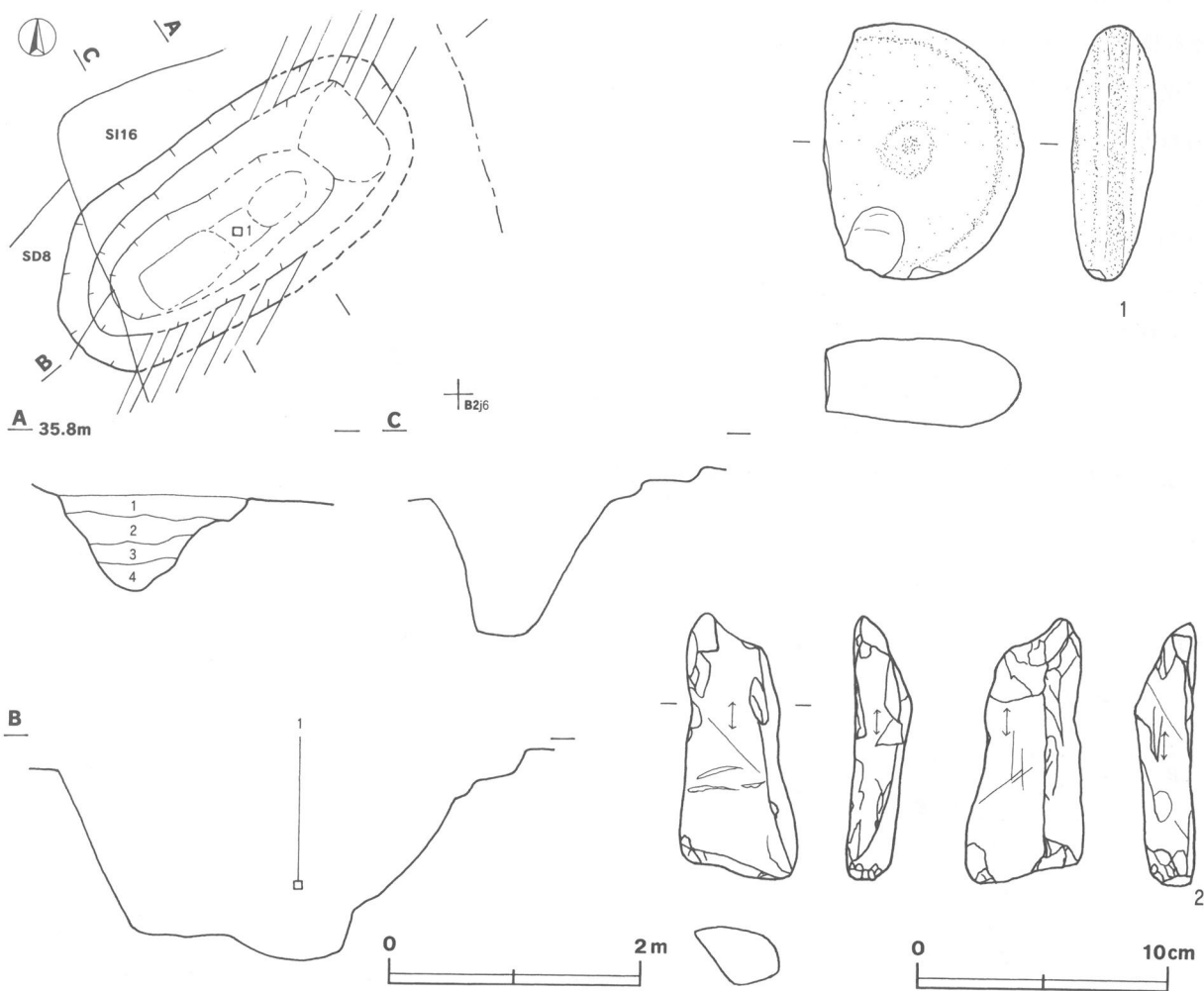
覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム中ブロック・粘土粒子極微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片93点, 須恵器片9点, 土師質土器片3点, 陶器片6点, 石製品2点(磨石・砥石), 粘土塊3点, 礫1点が出土している。第299図1は磨石で, 中央部の覆土中層から出土している。2は砥石で, 覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第299図 第15号土坑・出土遺物実測図

第15号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第299図1	磨石	10.2	(8.0)	3.4	(399.8)	砂岩	凹石兼用 中央部覆土中層 Q 5 PL121
2	砥石	(10.9)	4.6	2.5	(135.9)	凝灰岩	欠損 覆土中 Q 4 PL121

第16号土坑 (第300図)

位置 調査区域の中央部, C 2 d4 区。

重複関係 本跡が第17号土坑を掘り込んでいることから, 第17号土坑より新しい。

規模と平面形 長軸1.85m, 短軸1.44m の長方形で, 深さは62cmである。

長軸方向 N-26°-E

壁 垂直に立ち上がる。

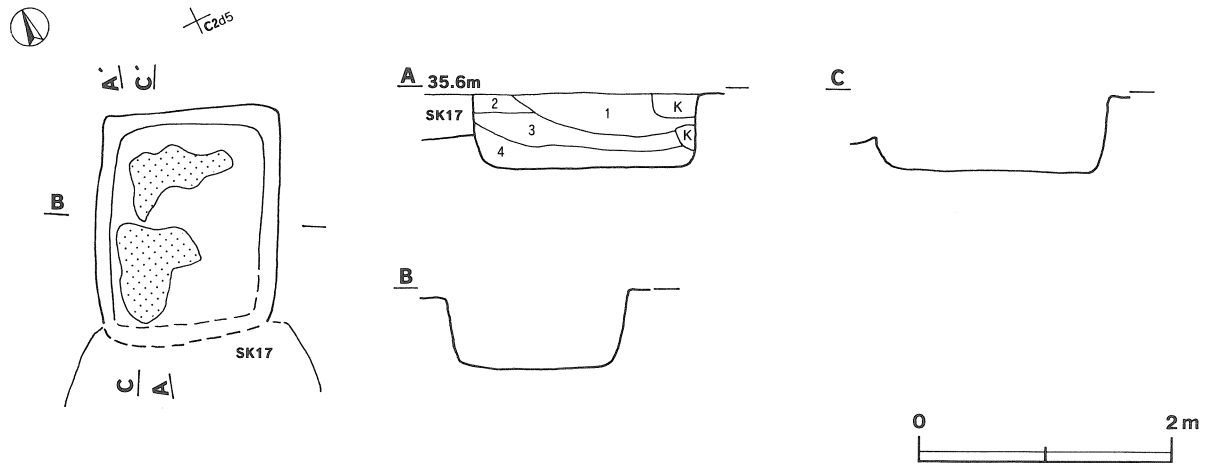
底面 平坦である。北部と西部から炭化材が検出された。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック極微量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子多量, ローム大・中・小ブロック中量

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないことから不明である。



第300図 第16号土坑実測図

第21号土坑 (第301図)

位置 調査区域の南西部, C 2 d2 区。

重複関係 本跡は, 南東部を第8号溝に掘り込まれていることから, 第8号溝跡より古い。

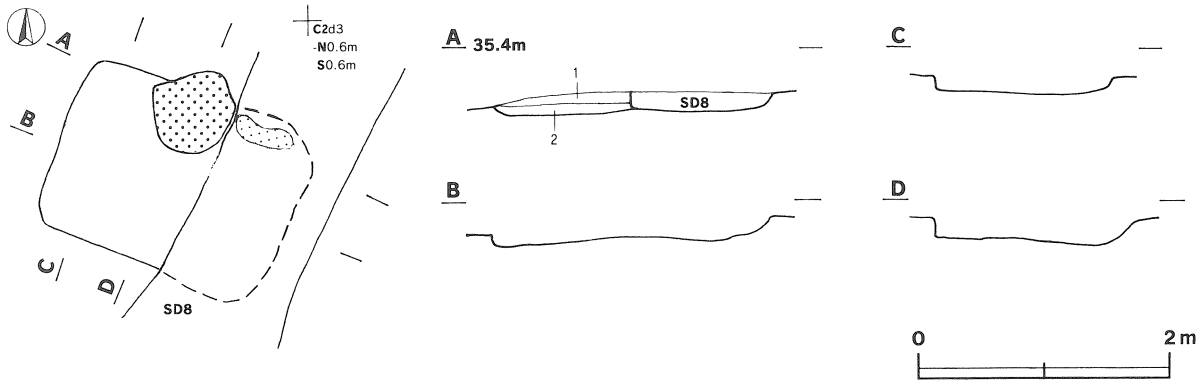
規模と平面形 長軸 [1.92]m, 短軸1.42m の長方形と推定される。深さは8~20cmである。

長軸方向 N-67°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ゆるい起伏が認められる。東コーナー部から炭化材, 北壁中央部側から焼土が検出された。

覆土 2層からなる。粘土粒子を含んでいることから, 人為堆積と考えられる。



第301図 第21号土坑実測図

土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

遺物 須恵器片 1点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第22号土坑 (第302図)

位置 調査区域の南西部, C 2 d3 区。

重複関係 本跡が第8号溝に掘り込まれていることから, 第8号溝跡より古い。

規模と平面形 長軸 [1.15]m, 短軸0.71mの長方形で, 深さは6~13cmである。

長軸方向 N-85°-E

壁 外傾して立ち上がる。

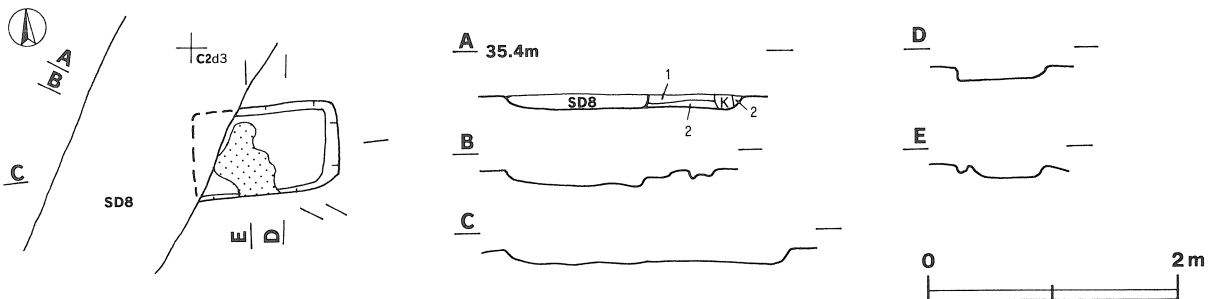
底面 凹凸が認められる。中央部から南壁にかけて炭化材が検出された。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないことから不明である。



第302図 第22号土坑実測図

第23号土坑（第303図）

位置 調査区域の南西部，B 2 j 6 区。

重複関係 本跡が第16号住居跡を掘り込んでいることから，第16号住居跡より新しい。

規模と平面形 長径0.71m，短径0.58mの不整楕円形で，深さは8～15cmである。

長径方向 N-13°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

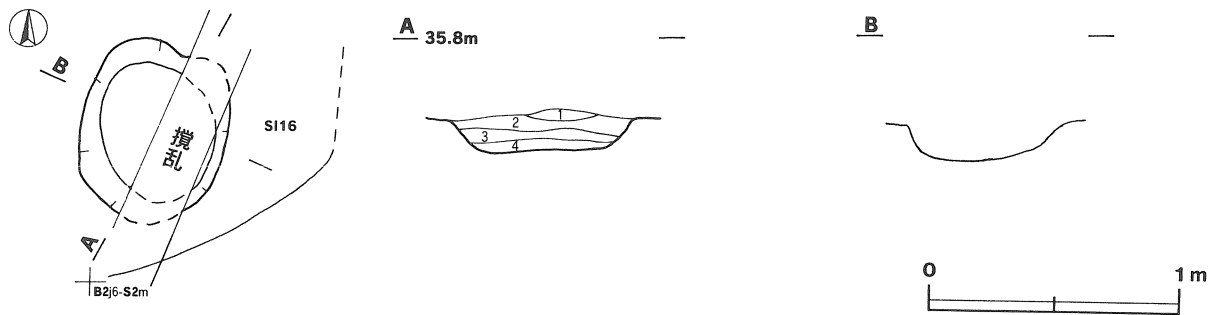
覆土 4層からなる。貝を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 貝多量，ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片2点，須恵器片1点，礫2点が出土している。

所見 本跡の時期は，時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第303図 第23号土坑実測図

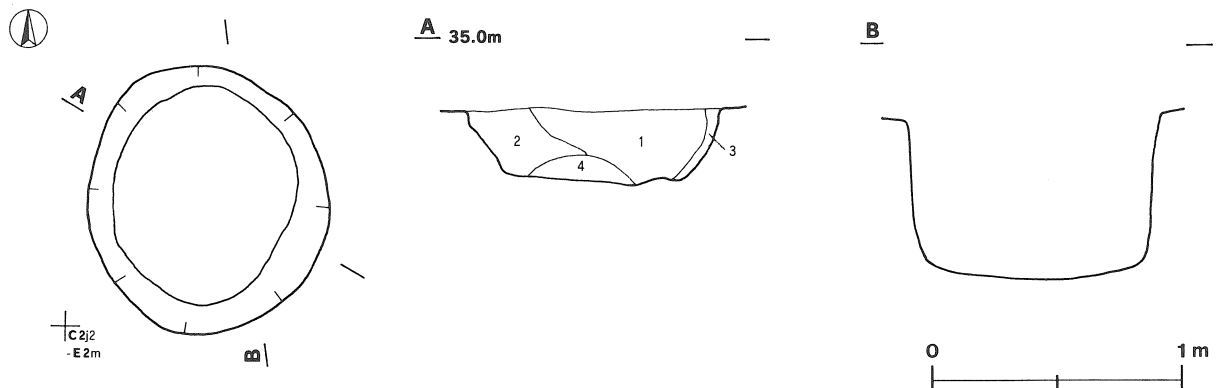
第32号土坑（第304・305図）

位置 調査区域の南西部，C 2 i 2 区。

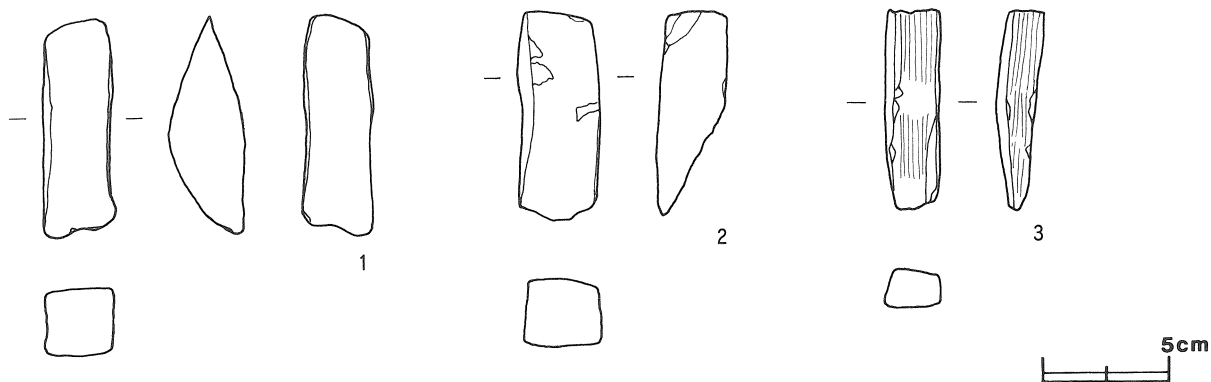
規模と平面形 長径1.08m，短径0.96mの楕円形で，深さは65cmである。

長径方向 N-8°-E

壁 垂直に立ち上がる。



第304図 第32号土坑実測図



第305図 第32号土坑出土遺物実測図

底面 平坦である。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子微量、ローム小ブロック極微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量、ローム中ブロック極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・小ブロック少量、粘土粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物 土師器片2点、陶器片3点、石製品3点が出土している。第305図1～3は砥石で、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第32号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	備考			
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
第305図1	砥石	8.7	3.0	3.1	(84.9)	凝灰岩	覆土中	Q 6	PL121	
2	砥石	(8.2)	3.3	2.7	(89.4)	凝灰岩	欠損	覆土中	Q 7	PL121
3	砥石	(7.8)	2.2	1.5	(38.5)	凝灰岩	欠損	覆土中	Q 8	PL121

第37号土坑 (第306図)

位置 調査区域の南西部、D 2 a 1 区。

規模と平面形 長軸0.89m、短軸0.38mの隅丸長方形で、深さは37cmである。

長軸方向 N-54°-W

壁 垂直に立ち上がる。

底面 皿状である。

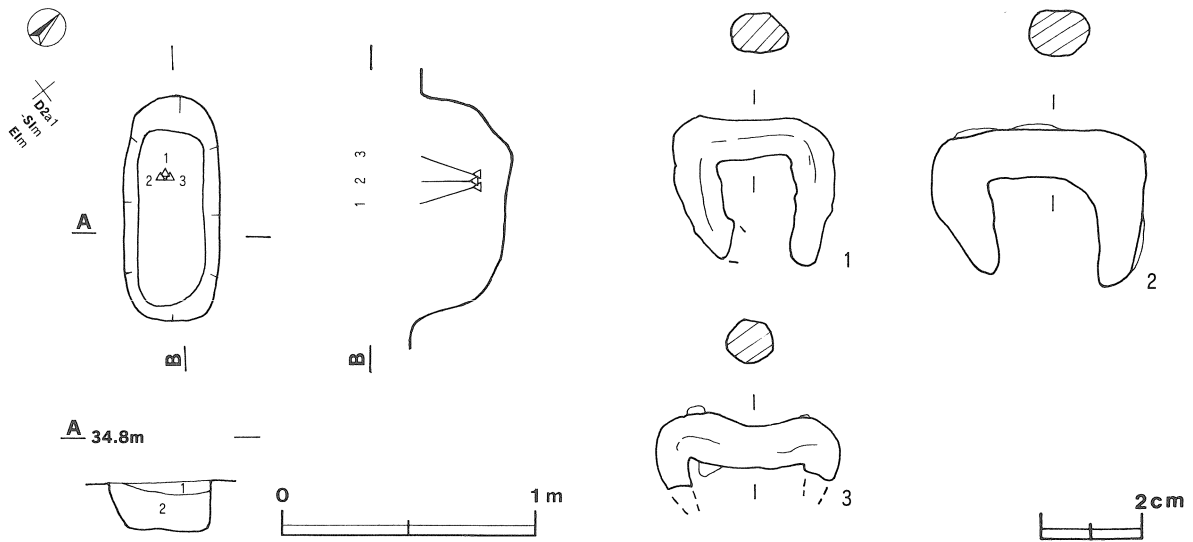
覆土 2層からなる。焼土粒子と炭化粒子を含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 鉄製品3点が出土している。第306図1～3は鉄製鋸で、北部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第306図 第37号土坑・出土遺物実測図

第37号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土位置	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第306図1	鉄製 鏃	3.1	3.2	1.2	(9.5)	北部覆土下層	M7	PL121
2	鉄製 鏃	3.2	4.3	1.2	(13.6)	北部覆土下層	M6	PL121
3	鉄製 鏃	(1.4)	3.7	1.0	(7.0)	北部覆土下層	欠損 M8	PL121

第49号土坑 (第307図)

位置 調査区域の南西部, C 2 h1 区。

重複関係 本跡は, 南東部を第50号土坑に掘り込まれていることから, 第50号土坑より古い。

規模と平面形 長径1.37m, 短径0.73mの隅丸長方形で, 深さは11cmである。

長径方向 N-59°-E

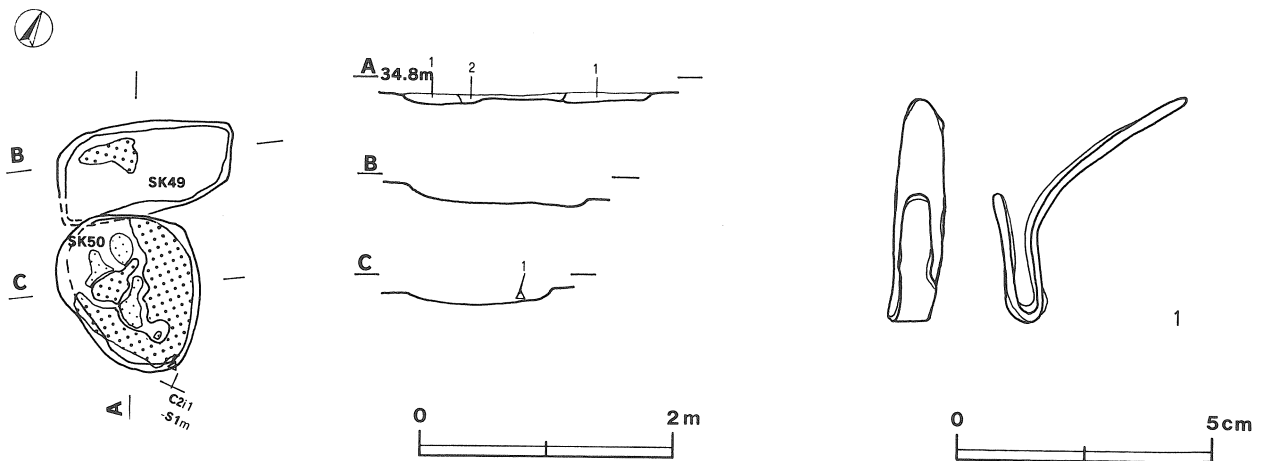
壁 緩やかに立ち上がる。

底面 皿状である。中央部から焼土が検出された。

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子極微量



第307図 第49号土坑・50号土坑・第50号土坑出土遺物実測図

遺物 土師器片 3 点が出土している。

所見 本跡の時期は、時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第50号土坑 (第307図)

位置 調査区域の南西部, C 2 i 1 区。

重複関係 本跡が第49号土坑を掘り込んでいることから, 第49号土坑より新しい。

規模と平面形 長径1.36m, 短径1.02m の楕円形で, 深さは12cmである。

長径方向 N - 54° - W

壁 緩やかに立ち上がる。

底面 皿状である。中央部から炭化材と焼土が検出された。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量

遺物 土師器片 3 点, 須恵器片 1 点, 不明銅製品 1 点が出土している。第307図 1 は不明銅製品で, 覆土中から出土している。

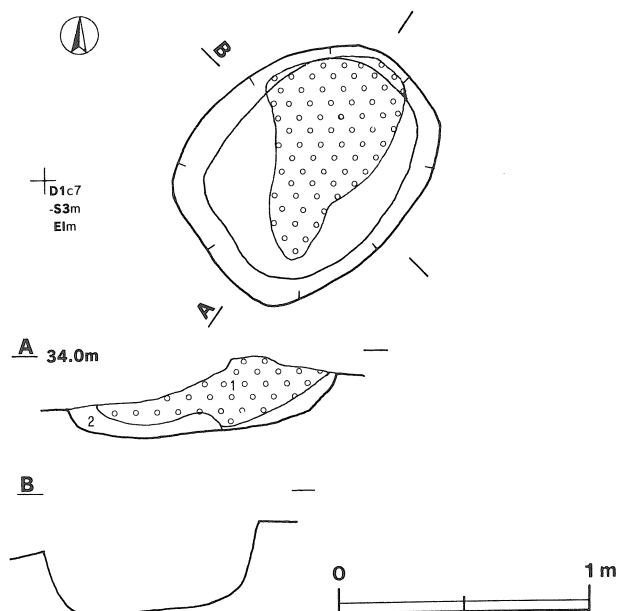
所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第50号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土位置	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第307図 1	不明銅製品	4.4	1.0	0.3	(7.4)	覆土中	M11 PL121

第55号土坑 (第308図)

位置 調査区域の南西部, D 1 c 7 区。



第308図 第55号土坑実測図

規模と平面形 長径1.07m, 短径0.85m の楕円形で, 深さは24~29cmである。

長径方向 N - 48° - E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる。貝を含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

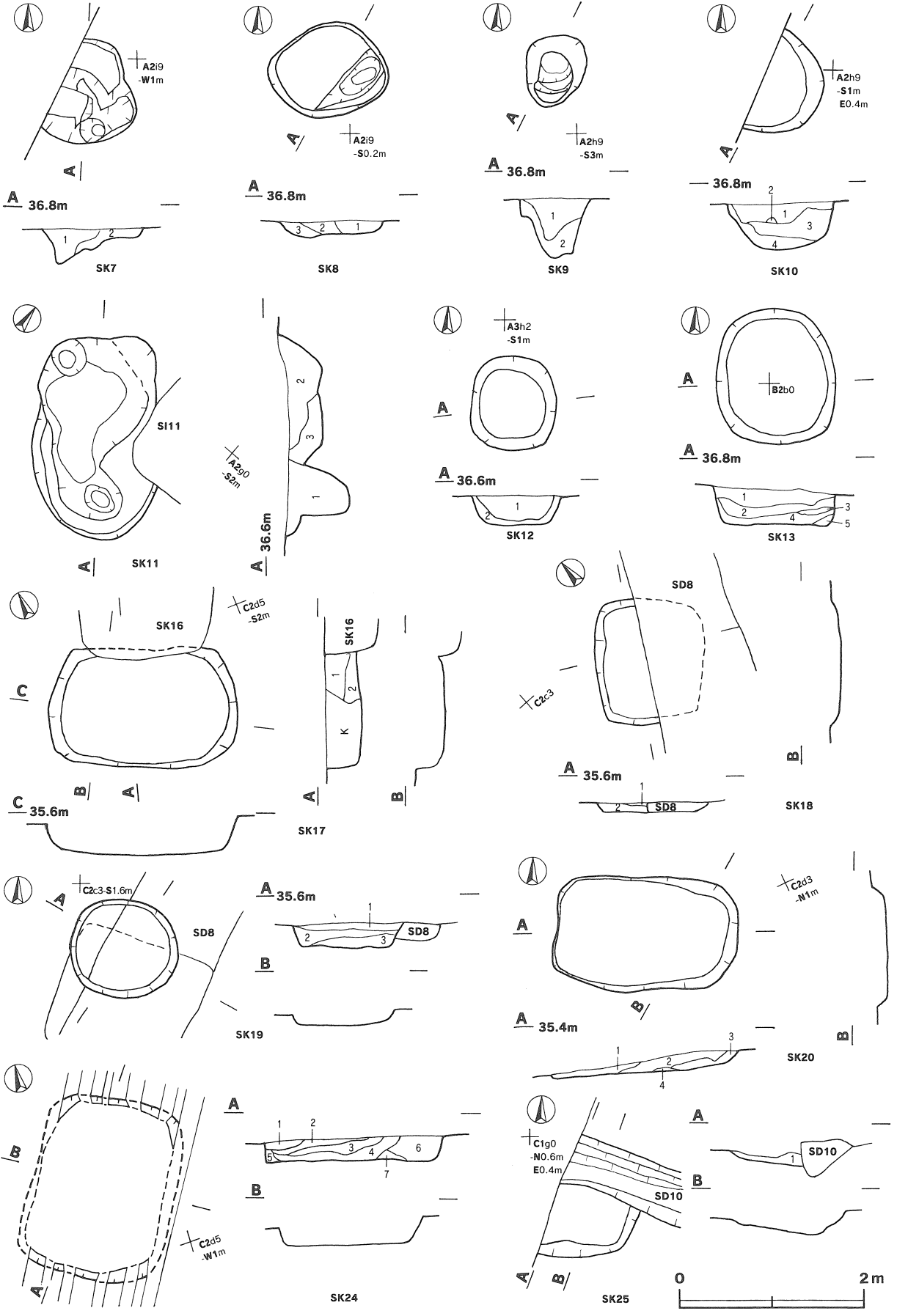
土層解説

- 1 黒褐色 貝多量, ローム粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量

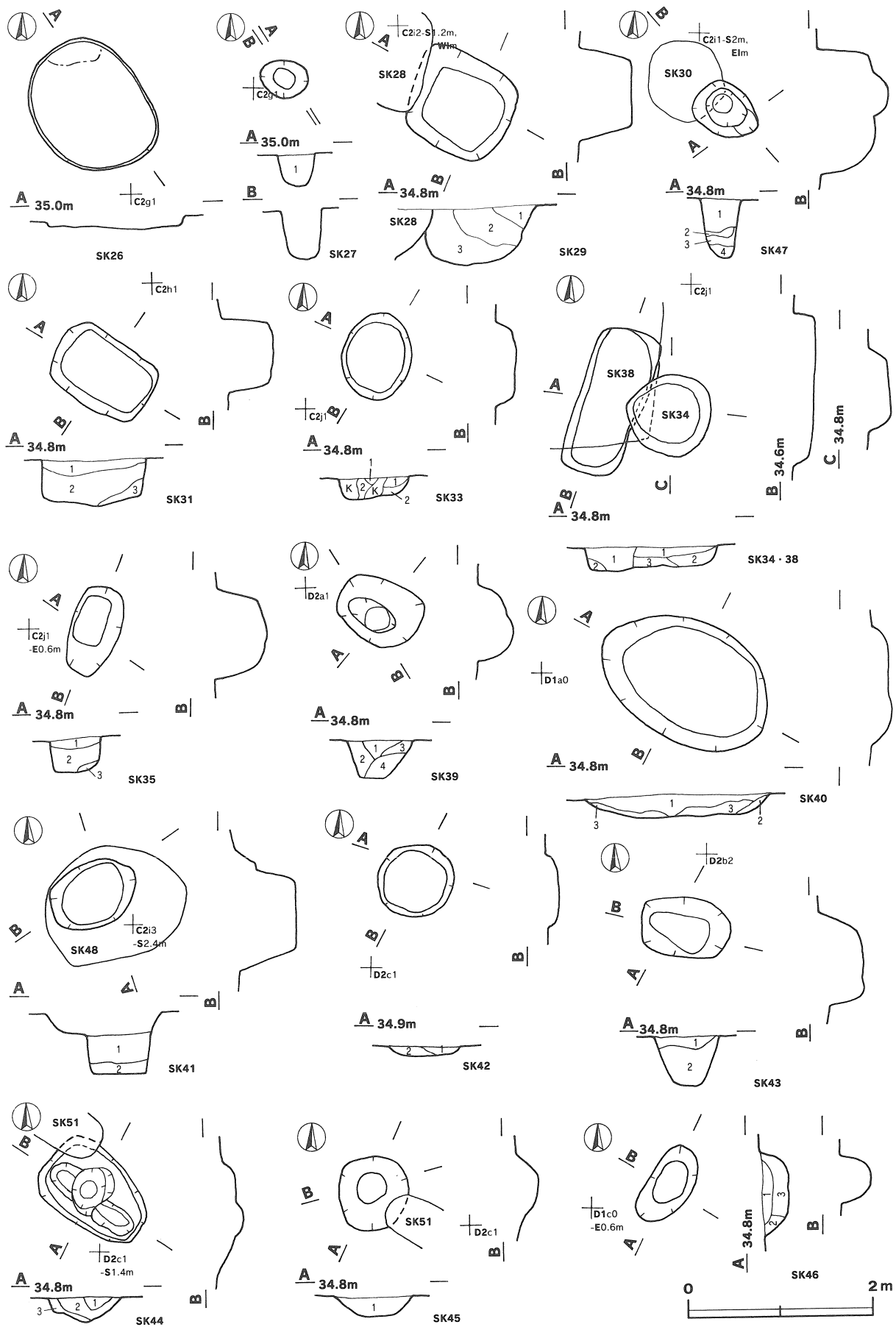
遺物 土師器片11点, 須恵器片 5 点, 土師質土器片 3 点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

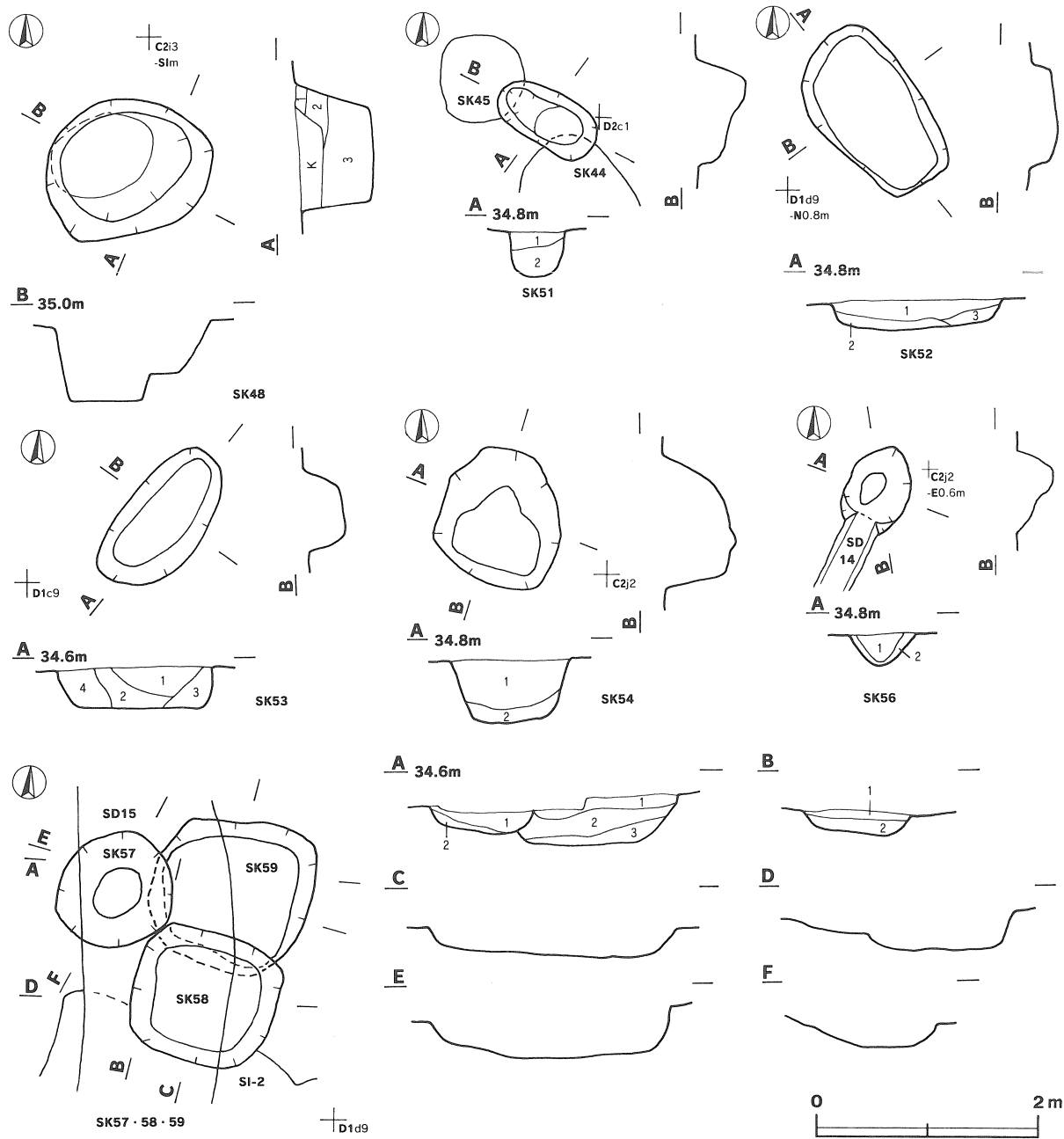
(4) その他の土坑



第309図 その他の土坑実測図(1)



第310図 その他の土坑実測図(2)



第311図 その他の土坑実測図(3)

第7号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム大ブロック多量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量

第8号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第9号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム中ブロック中量, 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第10号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 にぶい黄褐色 粘土粒子少量
- 4 暗 褐 色 ローム大ブロック多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量
- 5 黒 色 炭化粒子少量

第11号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・粒子中量, 焼土粒子・ローム大ブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒 褐 色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量, ローム大ブロック少量, 焼土粒子微量

第12号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大・中ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム大・中・小ブロック少量

第13号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 4 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第17号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック極微量

第18号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量
- 2 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第19号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極微量
- 2 暗 褐 色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極微量
- 3 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極微量

第20号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム大・中ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック極微量
- 4 褐 色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, ローム大ブロック極微量

第24号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 5 褐 色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 6 暗 褐 色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐 色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム中・小ブロック少量

第25号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量

第27号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量

第29号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 2 褐 色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第31号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子極微量
- 2 暗 褐 色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック極微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子極微量

第33号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム大・中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子極微量
- 2 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, ローム大ブロック微量

第34号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量, 炭化粒子・粘土粒子極微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極微量

第35号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子微量, 焼土粒子極微量

第38号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子極微量

第39号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・粘土粒子微量，焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，粘土粒子微量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土粒子微量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・粘土小ブロック極微量

第40号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック極微量

第41号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極微量

第42号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック微量，粘土小ブロック極微量

第43号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量，炭化粒子・粘土小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム大ブロック・粘土粒子微量，粘土小ブロック極微量

第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量，ローム中ブロック極微量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム大ブロック・粘土粒子少量，炭化物・粘土小ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子微量

第45号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，粘土粒子微量

第46号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物微量，炭化粒子・粘土粒子極微量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック中量，ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，ローム大ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量

第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子・ローム大ブロック・粘土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量・焼土粒子・炭化粒子極微量

第51号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・粘土粒子微量，焼土小ブロック・粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量

第52号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量，焼土粒子・ローム大ブロック極微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，粘土粒子微量，炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量，粘土小ブロック極微量

第53号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量，焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子微量，焼土粒子極微量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子極微量

第54号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量，粘土中ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子中量，粘土小ブロック少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック極微量

第56号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・粘土粒子微量，焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・粘土小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土粒子微量

第57号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，粘土粒子微量，ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量

第58号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量，炭化粒子極微量

(5) 溝 跡

第1号溝跡 (第312図・付図2)

位置 調査区域の北東部, A 2 e9 区~A 3 i3 区。

重複関係 本跡が第11号住居跡を掘り込んでいることから, 第11号住居跡より新しい。

規模と形状 北西側と南東側は調査区域外である。長さは約(16.3)mで, 上幅0.30~0.94m, 下幅0.04~0.55m, 深さは約15cmである。断面形は鍋底形である。

方向 A 2 e9 区から南東(N-153°-E)に直線的に延び, A 2 g0 区でわずかに北東側に屈曲し, さらに南東(N-130°-E)に直線的に延びている。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片16点, 須恵器片2点, 陶器片1点, 礫1点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第2号溝跡 (第312図・付図2)

位置 調査区域の北東部, A 3 e1 区~A 3 f2 区。

重複関係 本跡は, 東端で第3号溝跡と接しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 西側は調査区域外である。長さは約(15.4)mで, 上幅1.25~1.40m, 下幅3.20~4.00m, 深さは約85cmである。断面形はU字形である。

方向 A 3 e1 区から西(N-123°-E)に, 緩やかに北に彎曲しながら延びている。

覆土 6層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐 色 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐 色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 褐 色 ローム大ブロック・粒子多量, 炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 6 褐 色 ローム大ブロック中量, ローム粒子少量

遺物 土師器片68点, 陶器片6点, 礫2点, 鉄滓が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第3号溝跡 (第312図・付図2)

位置 調査区域の北東部, A 3 f3 区~A 3 h3 区。

重複関係 本跡は, 中央部で第2号溝と接しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 北西側と南東側は調査区域外である。確認できた長さは約(7.7)mで, 上幅1.02~1.32m, 下幅0.32~0.44m, 深さは約70cmである。断面形はU字形である。

方向 A 3 f3 区から南東(N-143°-E)に, ほぼ直線的に延びている。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ローム小ブロック・粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 明 褐 色 ローム粒子中量

遺物 土師器片63点, 須恵器片7点, 陶器片7点, 礫5点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第4号溝跡 (第312図・付図2)

位置 調査区域の北東部, A3f3区。

規模と形状 本跡は, 北西側と南東側が調査区域外であり, 上幅の約半分しか確認できなかった。確認できた規模は, 長さ(2.1)m, 上幅(0.96)m, 下幅(0.40)m, 深さは約65cmである。断面形は逆台形と推定される。

方向 確認された上端の向きから, 北西から南東(N-146°-E)に延びていると推定される。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック・粒子少量
- 5 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

遺物 土師器片20点, 須恵器片1点, 弥生土器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第5号溝跡 (第312図・付図2)

位置 調査区域の北東部, A3c5区~A3e4区。

重複関係 本跡が第14号住居跡を掘り込んでいることから, 第14号住居跡より新しい。

規模と形状 北東側と南側は調査区域外である。確認できた長さは約(11.0)mで, 上幅0.50~0.80m, 下幅0.09~0.44m, 深さは約38cmである。断面形はU字形である。

方向 A3c5区から南西(N-149°-W)に緩やかに南に彎曲しながら延びている。

覆土 12層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 明褐色 ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 9 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 11 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片35点, 須恵器片4点, 礫1点, 鉄滓が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第6号溝跡 (第312図・付図2)

位置 調査区域の中央部, B2h9区~B2i7区。

規模と形状 北東側は調査区域外である。確認できた長さは約(10.9)mで, 上幅1.25~1.75m, 下幅1.20~1.45m, 深さは約60cmである。断面形は鍋底形である。

方向 B2h9区から南西(N-108°-W)に, わずかに西に彎曲しながら延びている。

覆土 7層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム中・小ブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム大ブロック・粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 黒 褐 色 ローム中ブロック・粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 5 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量
- 6 黒 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 暗 褐 色 ローム大ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物 土師器片56点, 須恵器片1点, 弥生土器片3点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第7号溝跡 (第312図・付図2)

位置 調査区域の中央部, C 2 a 6 区～C 2 b 7 区。

規模と形状 南側は調査区域外である。確認できた長さは約(4.9)mで, 上幅1.10～1.90m, 下幅0.21～0.48m, 深さは約65cmである。断面形はU字形である。

方向 C 2 a 6 区から東(N-90°-E)に直線的に伸び, C 2 a 7 区で南(N-172°-E)に屈曲し, さらに直線的に伸びている。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック極微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子・ローム中ブロック極微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量
- 5 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片46点, 須恵器片6点, 土師質土器片9点, 陶器片12点, 礫1点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第8号溝跡 (第312図・付図2)

位置 調査区域の南西部, B 2 i 5 区～C 2 f 1 区。

重複関係 本跡が第16号住居跡, 第4号竪穴状遺構及び第18・19・21・22号土坑を掘り込み, 第14号土坑に掘り込まれていることから, 第16号住居跡, 第4号竪穴状遺構及び第18・19・21・22号土坑より新しく, 第14号土坑より古い。南西側で第9号溝と接しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長さは約31.4m, 上幅0.90～1.25m, 下幅0.50～1.10m, 深さは約37cmである。断面形は鍋底形である。

方向 B 2 i 5 区から南西(N-147°-W)に, ほぼ直線的に伸びている。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子極微量
- 3 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック極微量
- 4 暗 褐 色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック極微量
- 5 暗 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック極微量

遺物 土師器片33点, 陶器片1点, 磁器片1点, 土製品1点が出土している。

所見 本跡の時期は, 時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第9号溝跡（第312図・付図2）

位置 調査区域の南西部，C2f1区～C2g4区。

重複関係 本跡は，第8号溝跡と北側で接しているが，新旧関係は不明である。本跡の上部に，第1号土塁が構築されていたと推定される。

規模と形状 西側と東側は調査区域外である。確認できた長さは約(14.1)mで，上幅1.70～2.20m，下幅1.20～1.35m，深さは約50cmである。断面形はU字形である。

方向 C2f1区から東（N-107°-E）に，ほぼ直線的に延びている。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量，ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量，ローム小ブロック・粘土小ブロック極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土小ブロック微量

遺物 土師器片92点，須恵器片9点，陶器片16点，磁器片1点，不明土製品1点，不明鉄製品6点，石製品1点，銅製品2点，礫2点，鉄滓が出土している。

所見 本跡の時期は，時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第10号溝跡（第312図・付図2）

位置 調査区域の南西部，C1g0区～C2g1区。

重複関係 本跡が第25号土坑を掘り込んでいることから，第25号土坑より新しい。

規模と形状 西側は調査区域外である。確認できた長さは約(4.3)mで，上幅0.40～0.60m，下幅0.20～0.30m，深さは約12cmである。断面形は鍋底形である。

方向 C1g0区から東（N-110°-E）に，ほぼ直線的に延びている。

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子・粘土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土粒子微量，粘土小ブロック極微量

所見 本跡の時期は，遺物が出土していないことから不明である。

第11号溝跡（第313図・付図2）

位置 調査区域の南西部，C1g0区～C2g2区。

規模と形状 西側は調査区域外である。確認できた長さは約(9.0)mで，上幅0.48～0.80m，下幅0.23～0.56m，深さは約8cmである。断面形は鍋底形である。

方向 C1g0区から東（N-100°-E）に，ほぼ直線的に延びている。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子極微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，粘土粒子少量

遺物 土師器片21点，須恵器片3点，陶器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は，時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第12号溝跡（第313図・付図2）

位置 調査区域の南西部，C2h1区～C1h3区。

規模と形状 南東側は調査区域外である。確認できた長さは約（10.8）mで，上幅0.30～1.00m，下幅0.06～0.60m，深さは約20cmである。断面形は逆台形である。

方向 C2h1区で南西から北東（N-34°-E）に直線的に伸び，C2h2区で南東（N-113°-E）に屈曲し，さらに直線的に伸びている。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中ブロック極微量

遺物 土師器片20点，陶器片3点，磁器片1点，石製品1点，鉄器1点が出土している。

所見 本跡の時期は，時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第13号溝跡（第313図・付図2）

位置 調査区域の南西部，C1j9区～D1a0区。

規模と形状 長さは約7.6m，上幅0.90～1.30m，下幅0.70～0.93m，深さは約25cmである。断面形は逆台形である。

方向 C1j9区から南東（N-115°-E）に，ほぼ直線的に伸びている。

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，粘土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，粘土粒子微量，ローム中ブロック極微量

遺物 土師器片23点，須恵器片3点，石製品1点，鉄滓が出土している。

所見 本跡の時期は，時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。

第14号溝跡（第313図・付図2）

位置 調査区域の南西部，C2i2区～C2j1区。

重複関係 本跡が第56号土坑に掘り込まれていることから，第56号土坑より古い。

規模と形状 長さは約3.0m，上幅0.80～0.92m，下幅0.40～0.60m，深さは約20cmである。断面形は逆台形である。

方向 C2i2区から南西（N-153°-W）に，ほぼ直線的に伸びている。

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

所見 本跡の時期は，遺物が出土していないことから不明である。

第15号溝跡（第313図・付図2）

位置 調査区域の南西部，D 1 a 8 区～D 1 d 8 区。

重複関係 本跡が第21・25号住居跡と第57・58・59号土坑を掘り込んでいることから，これらの遺構より新しい。

規模と形状 北側と南側は調査区域外である。確認できた長さは約(15.0)mで，上幅0.90～1.50m，下幅0.60～1.30m，深さは約40cmである。断面形は逆台形である。

方向 D 1 a 8 区から南（N-177°-W）に，緩やかに西に彎曲しながら延びている。

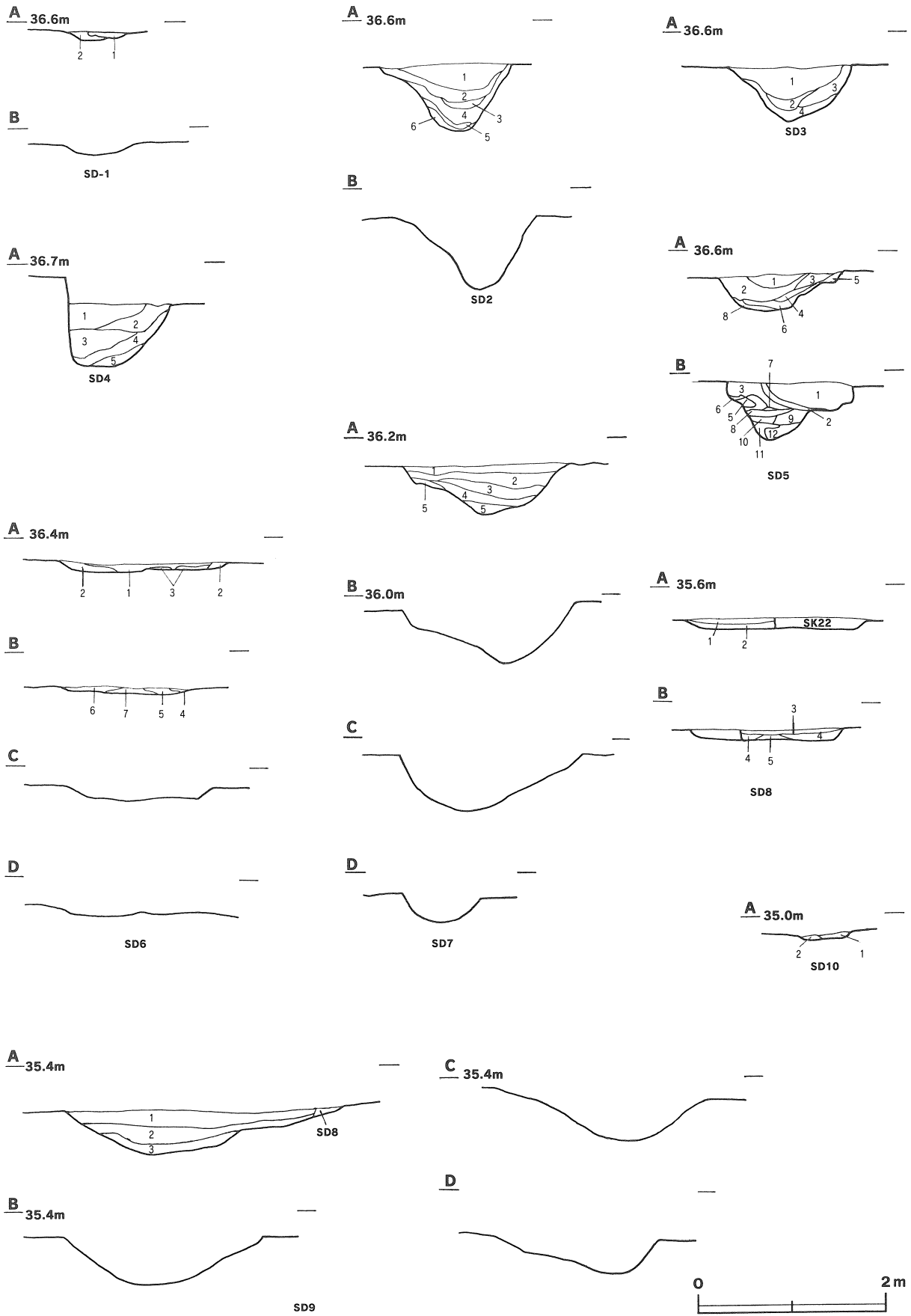
覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

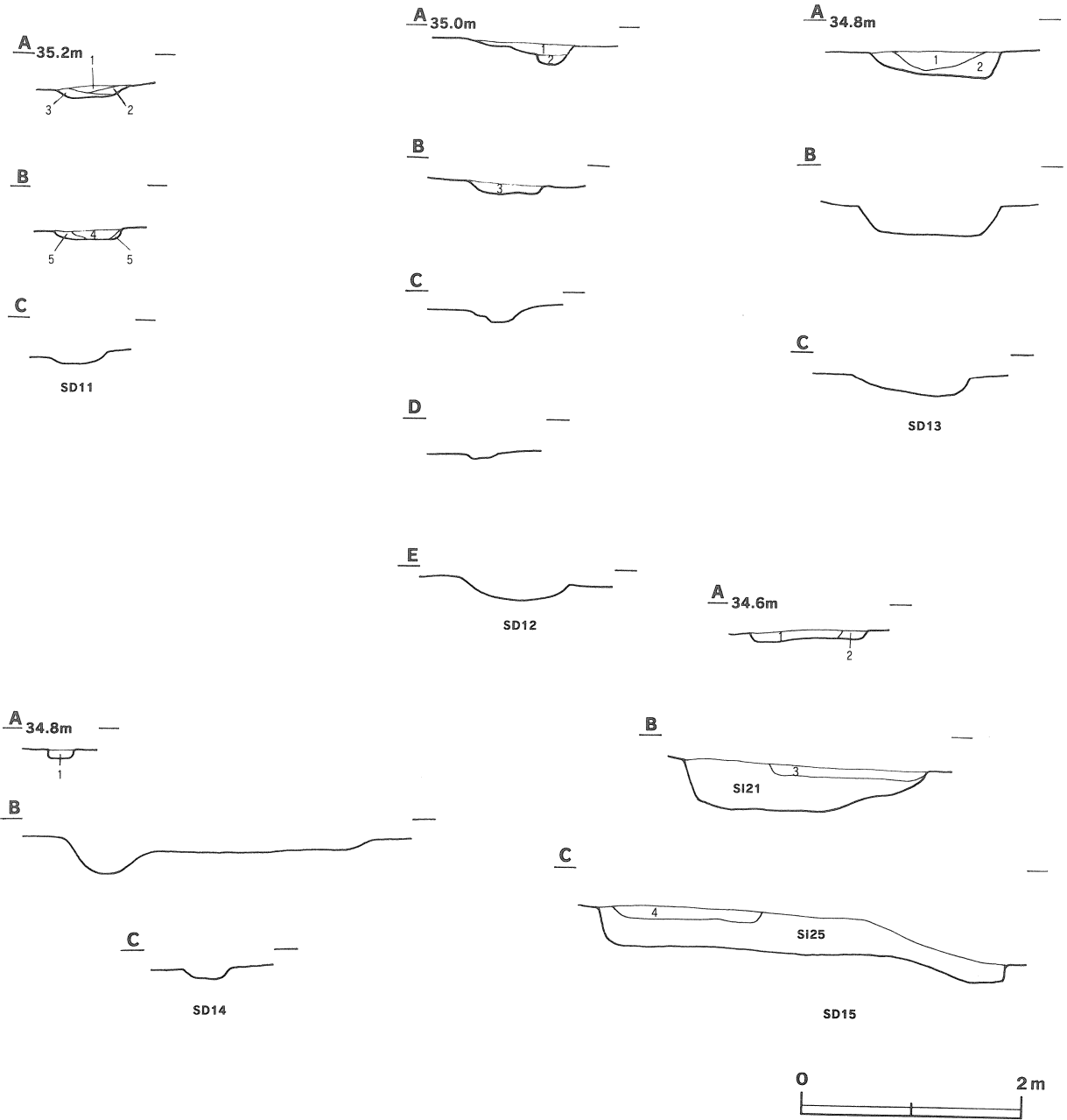
- 1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，ローム小ブロック極微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化粒子・ローム小ブロック極微量

遺物 土師器片252点，陶器片7点，不明鉄製品2点，礫1点，鉄滓が出土している。

所見 本跡の時期は，時期を決定できる遺物が出土していないことから不明である。



第312图 第1~10号沟迹实测图

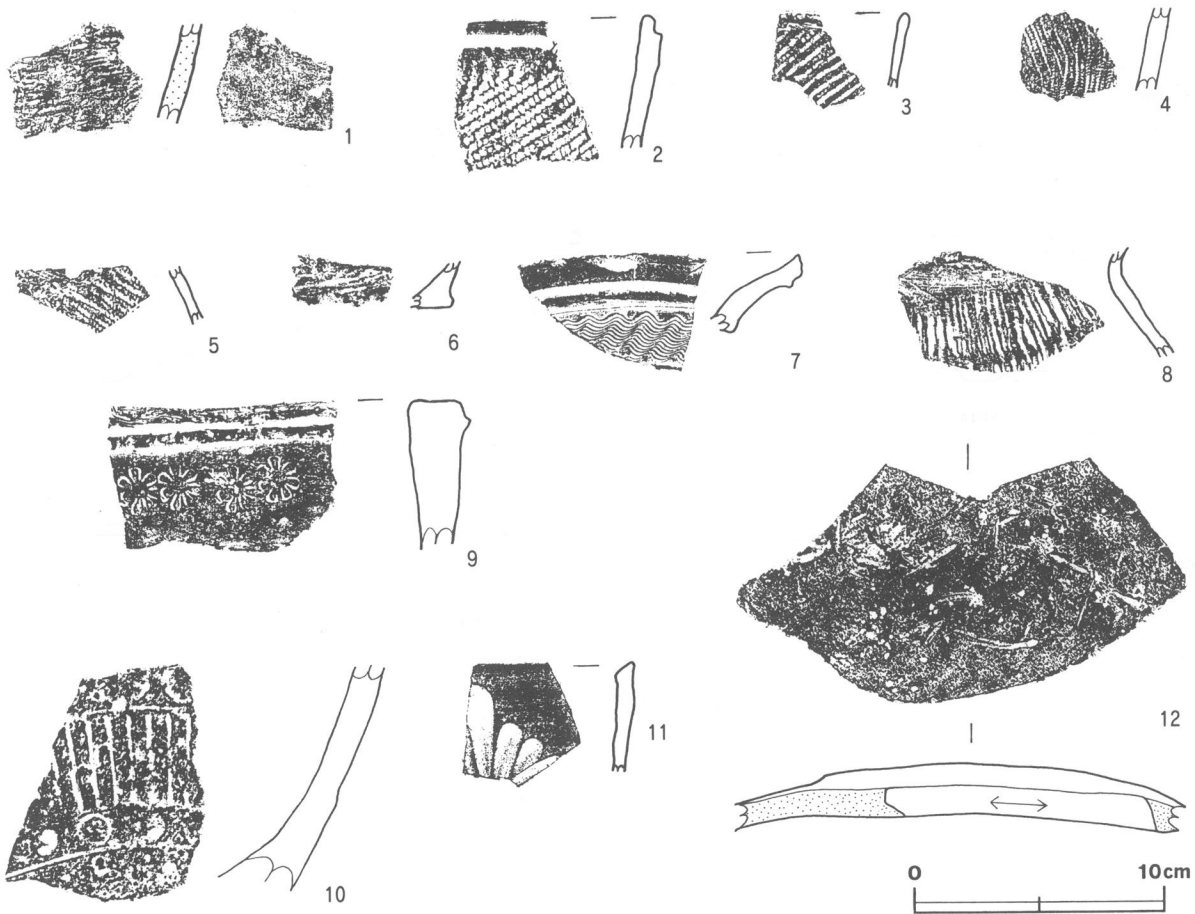


第313图 第11~15号沟迹实测图

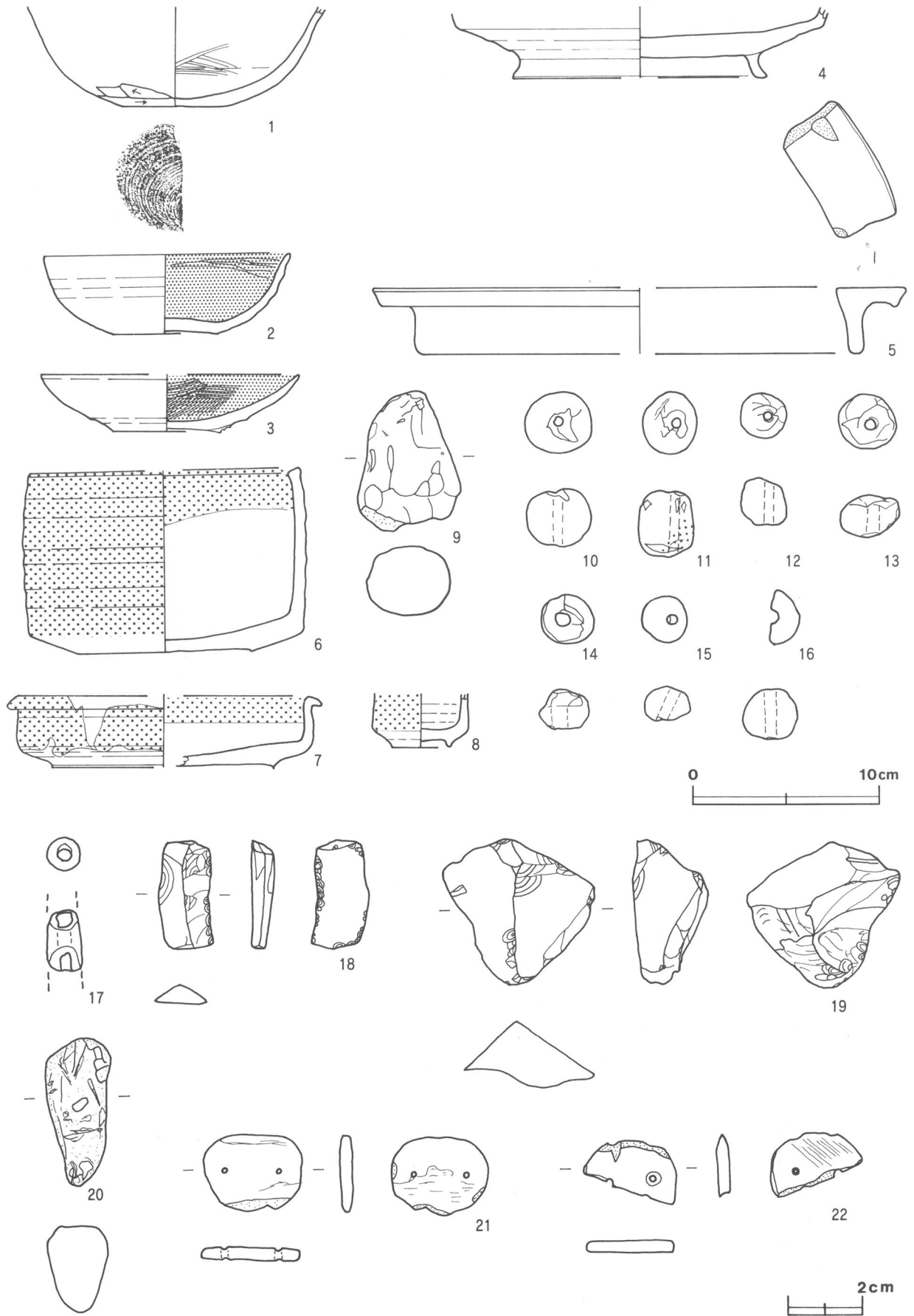
6 遺構外出土遺物 (第314・315・316図)

今回の調査で、遺構に伴わない土器や陶磁器、土製品、石器、石製品、金属製品等が出土している。ここでは、それらの出土遺物のうち、(第314図) 縄文土器片2点(早期・中期)、弥生土器片4点(後期)、須恵器片2点、土師質土器片2点、陶器片1点について解説し、その他は、実測図(第315・316図)と観察表で報告する。

第314図1と2は縄文土器片である。1は条痕文系土器の胴部片である。2は中期の深鉢の口縁部片である。口縁端部に横位の沈線が施され、以下に単節縄文LRが施されている。3～6は弥生土器片である。3は口縁部片である。口唇部に原体押圧が、口縁部に附加条一種(附加2条)の縄文が施されている。4・5は胴部片である。4は附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。5は附加条二種(附加1条)の縄文が施された後に、櫛歯状工具による波状文が施されている。6は底部片で、附加条二種(附加1条)の縄文が施されている。7・8は須恵器片である。7は甕の口縁部片で、横位の波状文が施されている。8は甕の体部片で、縦位の叩きが施されている。9・10は土師質土器片である。9は鉢の口縁部片で、菊花文が陰刻されている。10は鉢の体部片で、縦位の沈線と竹管による円形の刺突文が施されている。11は陶器の椀の口縁部片で、菊花文が施されている。12は常滑甕の体部片である。断面部を砥石に転用している。



第314図 遺構外出土遺物実測図(1)



第315図 遺構外出土遺物実測図(2)



第316図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第315図 1	坏 土師器	A [14.4] B (6.6)	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ, 下端ヘラ削り。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P68 20% PL123
2	坏 土師器	A 13.0 B 4.3 C 5.5	上げ底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	体部外面口クロナデ, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母・赤色 粒子・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P63 95% PL123

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第315図3	高台付坏土師器	A [13.8] B (3.0) C [5.8]	高台部欠損。体部は内彎気味に大きく外傾する。	体部外面口クロナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・砂粒 橙色 普通	P64 20% PL123
4	盤須恵器	B (3.7) D [13.6] E 1.0	高台部から体部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	体部内・外面口クロナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母・砂粒 黄灰色 普通	P65 35% PL123
5	竈鏝須恵器	A [28.8] B 3.6 C [29.8]	断面はL字状である。	内・外面ナデ。	雲母・砂粒 灰色 普通	P66 5% PL123

図版番号	器形	器質	計測値 (cm)					文様・特徴	胎土・色調	釉薬	残存率	備考	
			A	B	C	D	E						
第315図6	香炉	陶器	[14.2]	(9.6)	[9.0]	9.0	0.2	体部内・外面口クロナデ。高台削り出し。	灰色 精良	鉄釉	45%	P67	PL123
7	香炉	陶器	[15.4]	3.8	[11.6]	11.6	0.2	体部内・外面口クロナデ。高台削り出し。	灰色 精良	鉄釉	30%	P62	PL123
8	小椀	陶器	-	(2.9)	3.2	-	-	体部内・外面口クロナデ。高台貼り付け。	灰色 精良	透明釉	50%	P61	PL123

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考	
		径 (cm)	長さ (cm)	重量 (g)			
第315図9	土製支脚	5.6	(7.6)	(140.6)	調査区中央部	欠損 DP7	PL123

図版番号	種別	計測値				備考	
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第315図10	球状土錘	3.1	3.5	0.5	(36.0)	DP8	PL123
11	球状土錘	3.3	3.6	0.6	(36.7)	DP9	PL123
12	球状土錘	2.6	2.5	0.5	(14.5)	DP10	PL123
13	球状土錘	3.2	(2.2)	0.6	(16.1)	欠損 DP11	PL123
14	球状土錘	2.8	2.1	0.9	(9.9)	欠損 DP12	PL123
15	球状土錘	2.5	1.8	0.6	(9.0)	DP13	PL123
16	球状土錘	3.0	2.7	0.8	(9.6)	欠損 DP14	PL123
17	管状土錘	0.9	1.6	0.4	(0.7)	欠損 DP15	PL124

図版番号	種別	計測値				石質	備考	
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第315図18	剥片	(2.9)	1.6	0.6	(2.6)	瑪瑙	微細剥離を有する。 Q12	PL124
19	石核	3.9	4.1	1.6	(21.7)	チャート	Q11	PL124
20	石塊	(4.0)	(1.8)	1.6	(22.8)	滑石	Q19	PL124
21	石製模造品	2.7	2.1	0.35	(3.7)	滑石	双孔円板 Q14	PL124
22	石製模造品	(1.7)	(3.0)	0.30	(2.0)	滑石	双孔円板 欠損 Q15	PL124
第316図23	磨石	9.8	9.2	6.5	(695.0)	安山岩	欠損 Q9	PL124
24	石皿	(17.0)	(13.4)	7.4	(1805.5)	砂岩	破片 Q13	PL124
25	砥石	(3.2)	2.6	2.1	(30.6)	凝灰岩	欠損 Q18	PL124
26	砥石	(7.2)	3.8	1.7	(71.5)	凝灰岩	欠損 Q17	PL124

図版番号	種別	計測値			石質	備考	
		径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第316図27	石臼	(13.1)	(9.5)	(1258.0)	砂岩	欠損 Q10	PL124

表6 五安遺跡住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸) (規模不明は東西軸北軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設					扉・竈	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新) 時代, その他
							壁溝	柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
2	B 2 a7	N-70°-W	[長方形]	[3.27]×[2.92]	2~8	平担	-	-	-	1	-	-	不明	土師器, 須恵器, 土製品, 粘土塊	本跡→SK-4
3	A 2 j8	N-0°	[方形]	4.64×[4.17]	27~31	平担	一部	-	-	-	-	竈	自然	土師器, 須恵器, 陶器	本跡→SI-12-SK-5-SK-6
4	B 2 a0	N-72°-E	[方形]	[4.14]×[4.02]	3~10	平担	-	-	-	-	-	竈		土師器, 須恵器, 陶器	本跡→SK-13
5	A 2 j0	N-14°-W	長方形	4.92×4.06	2~19	平担	-	4	-	1	1	竈	人為	土師器, 須恵器, 石製品, 礫	SI-7→本跡→SI-9
6	A 2 h0	N-43°-E	長方形	3.02×2.66	12~19	平担	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 礫	SI-10→本跡
7	A 3 i1	N-29°-W	[方形]	3.74×(2.11)	3~9	凹凸	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 礫	本跡→SI-5・9
9	A 3 j1	N-42°-E	方形	2.47×2.34	5~12	平担	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 礫	SI-7・SI-5→本跡
10	A 2 h9	N-54°-E	方形	3.71×3.55	12~15	平担	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 礫	本跡→SI-6・SK60
11	A 2 g0	N-2°-W	方形	3.36×3.10	41~56	ゆるい起伏	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 陶器, 土製品	SK-11→本跡→SD-1
12	A 2 j8	N-0°	[長方形]	5.30×(4.32)	6~8	平担	-	-	-	-	-	-	人為	土師器	SI-3→本跡→SK5・6
13	A 3 c4	N-31°-E	[長方形]	4.29×(0.66)	12~13	平担	-	-	-	1	-	-	人為	土師器	
14	A 3 d4	N-24°-E	[長方形]	4.54×(2.45)	10~24	平担	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 礫	本跡→SD-5
15	B 2 i7	N-17°-W	[方形]	[5.13]×[4.76]	3~31	平担	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 鉄滓	
16	B 2 i5	N-18°-W	長方形	5.19×3.08	10~44	平担	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 土製品, 石製品, 礫, 鉄滓	SK-15→本跡→SK-23→SD-8
18	C 1 i0	N-5°-E	長方形	3.49×3.01	12~22	平担	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 土製品, 石製品, 鉄製品	本跡→SK-34・38 棚状施設
19	D 1 d0	N-40°-E	[長方形]	2.52×(1.05)	2~30	平担	-	-	-	1	-	-	人為	土師器, 須恵器, 陶器	
20	D 1 d9	N-33°-E	方形	3.64×3.58	5~21	凹凸	-	4	-	-	1	竈	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石製品, 鉄製品, 粘土塊	
21	D 1 d8	N-17°-E	方形	3.05×2.83	8~17	平担	-	4	-	-	1	竈	人為	土師器, 須恵器, 石器	本跡→SD-15・SK-58
22	D 1 e0	N-12°-E	[長方形]	(2.07)×(1.70)	14~34	平担	-	-	-	-	-	-	人為		
25	D 1 a8	N-19°-E	台形	3.88×3.26	7~25	平担	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 鉄製品, 礫	本跡→SD-15

表7 五安遺跡竪穴状遺構一覽表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸) (規模不明は東西軸北軸)	壁高 (cm)	床面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新) 時代, その他
1	B 2 c7	N-20°-E	長方形	3.12×2.66	3~6	平担	人為	土師器, 土師質土器	
2	C 2 f3	N-22°-W	台形		8~21	平担	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 金属製品, 礫	
3	C 2 d3	N-62°-W	長方形	2.96×1.88	22~44	平担	人為	土師器, 土師質土器, 陶器, 鉄製品, 礫	
4	C 2 e1	N-14°-E	[方形]	2.52×[2.30]	5~20	平担	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 礫	本跡→SD-8

表8 五安遺跡土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新) 時代, その他
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	B 2 f8	N-41°-W	隅丸長方形	2.34×1.66	3~7	緩斜	凹凸	人為		粘土張り SK-2→本跡
2	B 2 e8	N-47°-W	隅丸長方形	1.47×(0.95)	4~10	緩斜	凹凸	人為		粘土張り 本跡→SK-1
3	B 2 c6	N-46°-E	[長方形]	2.17×(1.62)	45~57	垂直	平担	人為	土師器, 須恵器	粘土張り
4	B 2 a7	N-65°-E	[長方形]	(3.12)×1.74	30	外傾	平担	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 礫	粘土張り SI-2→本跡
5	A 2 j8	N-58°-E	[長方形]	(2.60)×(1.85)	50~95	緩斜	平担	人為	土師器, 須恵器, 鉄滓	粘土張り SI-3→SI-12→SK-6→本跡
6	A 2 j8	N-50°-E	隅丸長方形	2.62×1.68	17~24	緩斜	平担	人為	土師器, 須恵器, 陶器	粘土張り SI-3→SI-12→本跡→SK-5
7	A 2 h8	N-32°-E	[楕円形]	1.10×(0.86)	8~38	外傾	凹凸	人為		
8	A 2 i8	N-88°-E	楕円形	1.32×1.05	11~15	緩斜	平担	自然		
9	A 2 h8	N-5°-E	楕円形	0.78×0.62	58~65	垂直	皿状	自然		

土坑 番号	位 置	長 径 方 向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 遺構番号・新田関係(古→新) 時代 その他
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
10	A 2 h8	N-22°-E	[楕 円 形]	1.16 × (0.65)	49	外傾	平担	人為		
11	A 2 g9	N-33°-W	[楕 円 形]	2.15 × 1.30	32~67	外傾	平担	人為		本跡→SI-11
12	A 3 h2		円 形	0.50 × 0.46	29~33	緩斜	平担	自然		
13	B 2 a0	N-38°-W	楕 円 形	1.52 × 1.37	29~39	外傾	平担	自然		SI-4 → 本跡
14	C 2 c3	N-71°-W	長 方 形	1.46 × 1.32	27	外傾	ゆるい起伏	人為	土師器	SK-19→SD-8 → 本跡
15	B 2 i5	N-58°-E	楕 円 形	3.19 × 1.51	164	外傾	凹凸	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 石製品, 粘土塊, 礫	本跡→SI-6・SD-8
16	C 2 d4	N-26°-E	長 方 形	1.85 × 1.44	62	垂直	平坦	人為		SK-17 → 本跡
17	C 2 d4	N-65°-W	隅丸長方形	2.03 × 1.30	38	外傾	平担	自然		本跡→SK-16
18	C 2 c3	N-41°-E	長 方 形	1.35 × (1.15)	14	外傾	平担	自然		本跡→SD-8
19	C 2 c3		円 形	1.15 × 1.07	10	緩斜	平担	自然		本跡→SD-8 → SK-14
20	C 2 c2	N-62°-W	隅丸長方形	1.94 × 1.21	13	外傾	平担	人為		
21	C 2 d2	N-67°-W	[長 方 形]	[1.92] × 1.42	8~20	外傾	ゆるい起伏	人為	須恵器	本跡→SD-8
22	C 2 d3	N-85°-E	[長 方 形]	[1.15] × 0.71	6~13	外傾	凹凸	人為		本跡→SD-8
23	B 2 j6	N-13°-E	不整楕円形	0.71 × 0.58	8~15	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器, 礫	SI-16 → 本跡
24	C 2 c4	N-31°-E	長 方 形	1.96 × 1.51	39	外傾	平担	人為		
25	C 1 g0	N-82°-W	不 整 形	(0.91) × (0.71)	24	緩斜	傾斜	自然		本跡→SD-10
26	C 1 f0	N-50°-W	楕 円 形	1.52 × 1.21	13	垂直	平担			
27	C 2 f1	N-80°-W	楕 円 形	0.51 × 0.42	54	垂直	皿状	自然		
28	C 2 i1	N-14°-E	楕 円 形	1.09 × 0.68	66	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 土製品, 鉄製品	本跡→SK-29
29	C 2 i1	N-60°-W	方 形	1.13 × 1.04	58	外傾	平担	自然		SK-28 → 本跡
30	C 2 i2		円 形	0.87 × 0.83	60	外傾	皿状	人為	土師器, 陶器, 磁器, 礫, 煙管, 古銭	本跡→SK-47
31	C 2 h0	N-57°-W	長 方 形	1.12 × 0.78	53	垂直	平担	自然		
32	C 2 i2	N-8°-E	楕 円 形	1.08 × 0.96	65	垂直	平担	人為		
33	C 2 i1	N-13°-E	楕 円 形	0.93 × 0.74	22	外傾	平担	自然		
34	C 1 j0	N-47°-E	楕 円 形	0.95 × 0.87	26	外傾	平担	人為		SI-18 → SK-38 → 本跡
35	C 2 j1	N-18°-E	楕 円 形	0.97 × 0.53	56	垂直	平担	自然		
36	C 2 j1	N-39°-E	楕 円 形	0.83 × 0.49	49	垂直	平担	人為	土師器, 陶器, 鉄製品, 古銭, 鉄滓	
37	D 2 a1	N-54°-W	隅丸長方形	0.89 × 0.38	37	垂直	皿状	人為		
38	C 1 j0	N-20°-E	長 方 形	1.62 × 0.64	25	外傾	平担	人為		SI-18 → 本跡 → SK-34
39	D 2 a1	N-61°-W	不整楕円形	0.93 × 0.69	41	外傾	皿状	人為		
40	D 1 a0	N-62°-W	楕 円 形	1.95 × 1.30	23	外傾	平担	人為		
41	C 2 i2	N-60°-E	楕 円 形	0.86 × 0.70	65	垂直	平担	自然		SK-48 → 本跡
42	D 2 b1		円 形	0.84 × 0.81	13	外傾	平担	自然		
43	D 2 b1	N-82°-W	楕 円 形	0.96 × 0.65	49	外傾	平担	自然		
44	D 1 c0	N-48°-W	不整楕円形	1.25 × 0.78	26	緩斜	凹凸	自然		本跡→SK-51
45	D 1 b0		円 形	0.79 × 0.75	23	外傾	平担	自然		本跡→SK-51
46	D 1 b0	N-32°-E	楕 円 形	0.90 × 0.45	33	垂直	平担	人為		
47	C 2 i2	N-57°-W	不整楕円形	0.73 × 0.52	56~77	垂直	皿状	自然		SK-30 → 本跡
48	C 2 i2	N-77°-E	楕 円 形	1.54 × 1.24	46	垂直	平担	自然		本跡→SK-41
49	C 2 h1	N-59°-E	隅丸長方形	1.37 × 0.73	11	緩斜	皿状	人為	土師器, 銅製品	本跡→SK-50
50	C 2 i1	N-54°-W	楕 円 形	1.36 × 1.02	12	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器, 銅製品	SK-49 → 本跡
51	D 1 c0	N-58°-W	楕 円 形	0.95 × 0.48	46	垂直	皿状	自然		SK-44・45 → 本跡
52	D 1 c9	N-35°-W	不整長方形	1.56 × 0.91	26	垂直	平担	人為		
53	D 1 b9	N-36°-E	楕 円 形	1.38 × 0.72	35	外傾	平担	人為		
54	C 2 i1	N-11°-W	不整楕円形	1.28 × 1.13	65	垂直	皿状	自然		
55	D 1 c7	N-48°-E	楕 円 形	1.07 × 0.85	24~29	外傾	平担	人為	師器, 須恵器, 土師質土器	

土坑 番号	位 置	長 径 方 向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 遺構番号・新田関係(古→新) 時代 その他
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
56	C 2 j 2	N-25°-E	[楕 円 形]	[0.78]×0.57	33	外傾	皿状	自然		SD-14→本跡
57	D 1 c 8		円 形	1.09×1.03	25	外傾	平坦	自然		SK-59→本跡→SD-15
58	D 1 c 8	N-75°-W	[方 形]	[1.29]×[1.19]	33	外傾	平坦	自然		SI-21→本跡→ SK-59→SD-15
59	D 1 c 8	N-77°-W	[不 整 方 形]	[1.44]×[1.33]	40	垂直	平坦	自然		SK-58→本跡→ SK-57→SD-15
60	A 2 h 0	N-50°-E	長 方 形	2.25×(1.30)	17~24	外傾	凹凸	人為		粘土張り SI-10→本跡

表9 五安遺跡溝跡一覧表

溝跡 番号	位 置	方 向	断 面	規 模				覆土	出 土 遺 物	備 考 遺構番号 新田関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)			
1	A 2 e 9 ~ A 3 i 3	N-153°-E, A 2 g 0 区からN-130°-E	鍋底形	(16.3)	0.30~0.94	0.04~0.55	0.15	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 礫	SI-11→本跡
2	A 3 e 1 ~ A 3 f 2	N-123°-E	U字形	(15.4)	1.25~1.40	3.20~4.00	0.85	人為	土師器, 陶器, 礫, 鉄滓	SD-3
3	A 3 f 3 ~ A 3 h 3	N-143°-E	U字形	(7.7)	1.02~1.32	0.32~0.44	0.70	人為	土師器, 須恵器, 陶器, 礫	SD-2
4	A 3 f 3	N-146°-E	逆台形	(2.1)	(0.96)	(0.40)	0.65	人為	土師器, 須恵器, 弥生土器	
5	A 3 c 5 ~ A 3 e 4	N-149°-W	U字形	(11.0)	0.50~0.80	0.09~0.44	0.38	人為	土師器, 須恵器, 礫, 鉄滓	SI-14→本跡
6	B 2 h 9 ~ B 2 i 7	N-108°-W	鍋底形	(10.9)	1.25~1.75	1.20~1.45	0.60	人為	土師器, 須恵器, 弥生土器	
7	C 2 a 6 ~ C 2 b 7	N-90°-E, C 2 a 7 区からN-172°-E	U字形	(4.9)	1.10~1.90	0.21~0.48	0.65	自然	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 礫	
8	B 2 i 5 ~ C 2 f 1	N-147°-W	鍋底形	31.4	0.90~1.25	0.50~1.10	0.37	人為	土師器, 陶器, 磁器, 土製品	SI-16-SX-4-SK-18-19-21- 22→本跡→SK-14 SD-9
9	C 2 f 1 ~ C 2 g 4	N-107°-E	U字形	(14.1)	1.70~2.20	1.20~1.35	0.50	自然	土師器, 須恵器, 陶器, 磁器, 土製品, 鉄製品, 石製品, 銅製品, 礫, 鉄滓	SA-1→本跡 SD-8
10	C 1 g 0 ~ C 2 g 1	N-110°-E	鍋底形	(4.3)	0.40~0.60	0.20~0.30	0.12	自然		SK-14→本跡
11	C 1 g 0 ~ C 2 g 2	N-100°-E	鍋底形	(9.0)	0.48~0.80	0.23~0.56	0.08	自然	土師器, 須恵器, 陶器	
12	C 2 h 1 ~ C 1 h 3	N-34°-E, C 2 h 2 区からN-113°-E	逆台形	(10.8)	0.30~1.00	0.06~0.60	0.20	人為	土師器, 陶器, 磁器, 石製品, 鉄器	
13	C 1 j 9 ~ D 1 a 0	N-115°-E	逆台形	7.6	0.90~1.30	0.70~0.93	0.25	自然	土師器, 須恵器, 石製品, 鉄滓	
14	C 2 i 2 ~ C 2 j 1	N-153°-W	逆台形	3.0	0.80~0.92	0.40~0.60	0.20	人為		本跡→SK-56
15	D 1 a 8 ~ D 1 d 8	N-177°-W	逆台形	(15.0)	0.90~1.50	0.60~1.30	0.40	人為	土師器, 陶器, 鉄製品, 礫, 鉄滓	SI-21・25・SK- 57・58・59→本跡

第4節 ま と め

今回の調査で、古墳時代後期から近世までの遺構と遺物が検出された。

立地から、当遺跡においては、北浦や台地下の沖積低地、台地を開析する支谷が集落と密接な関係を持っていたことがうかがえる。以下、各時代の遺構と遺物についてまとめる。

古墳時代の集落は、検出された出土遺物等から、第14号住居跡の6世紀初め頃からつくられ始めたと考えられる。当遺跡は、北側と南東側に谷が入り込んでいる舌状台地上の平坦面に立地していることから、当遺跡だけで集落が形成されたとすると、集落は小規模であったと考えられる。石製模造品や滑石塊の出土からは、この時期に広く行われていた祭祀形態の存在が確認できる。

奈良時代の当遺跡周辺は、鹿島郡十八郷の中の高家郷に属し、高家郷からの調布貢納の記録が残っている。当遺跡では、第20号住居跡がこの頃の時期に該当する遺構と考えられる。

平安時代の遺構を見ると、特徴的な遺構として、第18号住居跡から棚状施設が検出された。棚状施設は、ひたちなか市の武田遺跡、結城市の峯崎遺跡、油内遺跡、真壁町の小山遺跡等県内各地の遺跡から報告され⁽¹⁾、9世紀頃の住居の形態上の特徴の一つと考えられる。その特徴は竈脇のロームを掘り込んでいることであり、竈の両脇を掘り込んだタイプ、竈の片脇だけを掘り込んだタイプが報告されている。当遺跡で検出された棚状施設は、竈の両脇を掘り込んだタイプである。住居跡全体の面積は約10.8㎡であり、他の報告例と比較して、やや小規模である。棚状施設をもつ住居跡が一集落から数軒が検出されている報告例もあるが、当遺跡から検出されたのは1軒だけである。

中世の遺構では、粘土貼り土坑が7基検出された。水戸市の白石遺跡、龍ヶ崎市の屋代B遺跡といった古代から中世の城館跡では、長径が2mを超える粘土貼り土坑が、中世の水溜あるいは洗い場として報告されている⁽²⁾。当遺跡の粘土貼り土坑は、いずれも同規模であり、長方形という平面形の類似性、中世城郭に隣接しているという検出位置等から中世の土坑とした。用途は不明である。粘土貼り土坑群は調査区域の北部に、その他の土坑群は調査区域の南西部に立地していることから、一地域を特定した土地の利用が考えられる。また、調査区域の中央部から土塁跡が検出されたことから、当遺跡は津賀城跡の一部であると推測される。

近世の遺構としては、土坑が2基検出された。これらの土坑は、平面形が円形あるいは楕円形で、径が約80cmと小形であり、出土した古銭や煙管が副葬品と考えられることから、墓墳とした。

以上のことから、当遺跡では、沖積低地に面した平坦な台地縁辺部という地形を利用して、古墳時代後期から平安時代にかけては集落が営まれ、中世には城郭の一部となり、それに関連する土坑群が掘られ、近世には墓域となっていたこと等が明らかになった。

註

(1) 川津法伸「竈の脇に棚をもつ住居について」『研究ノート』6号 茨城県教育財団 1996年

(2) 茨城県教育財団「(仮称)水戸浄水場予定地内埋蔵文化財調査報告書I 白石遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第82集 1992年

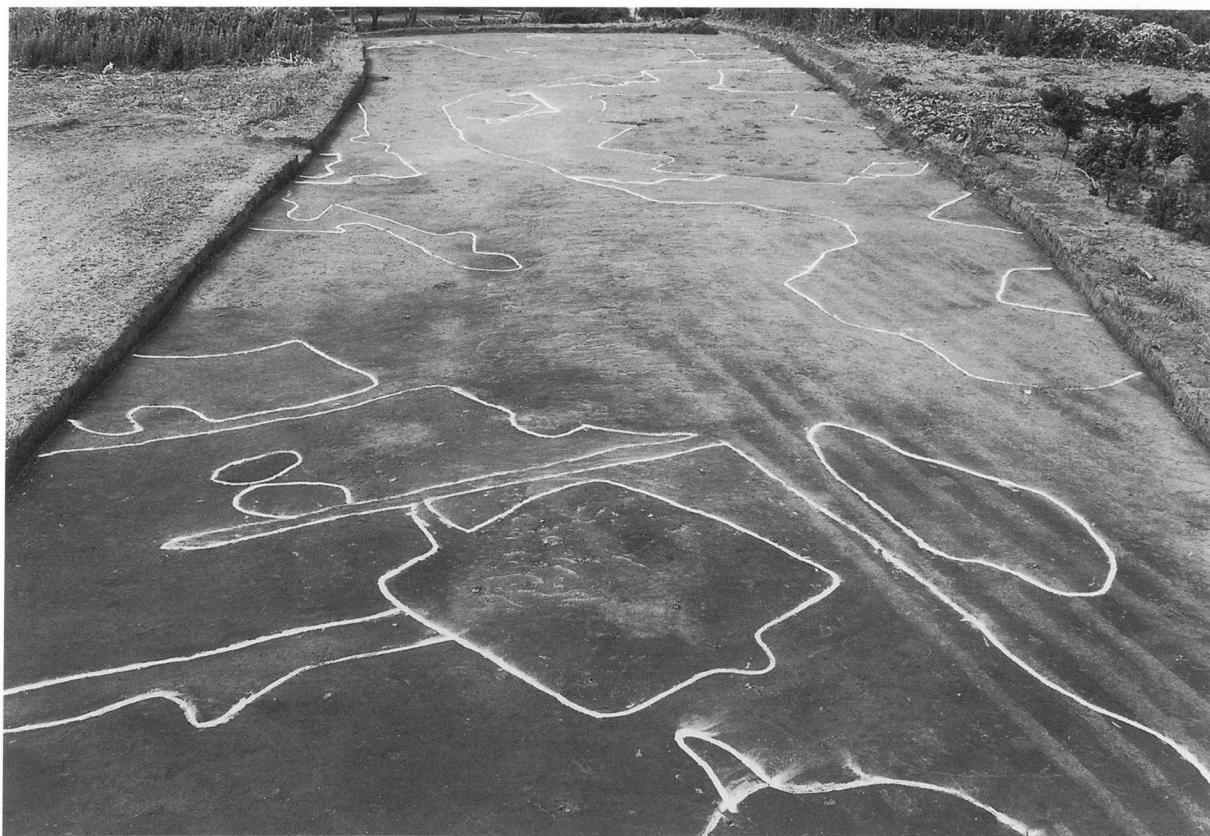
茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書17 屋代B遺跡Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第45集 1987年

参考文献

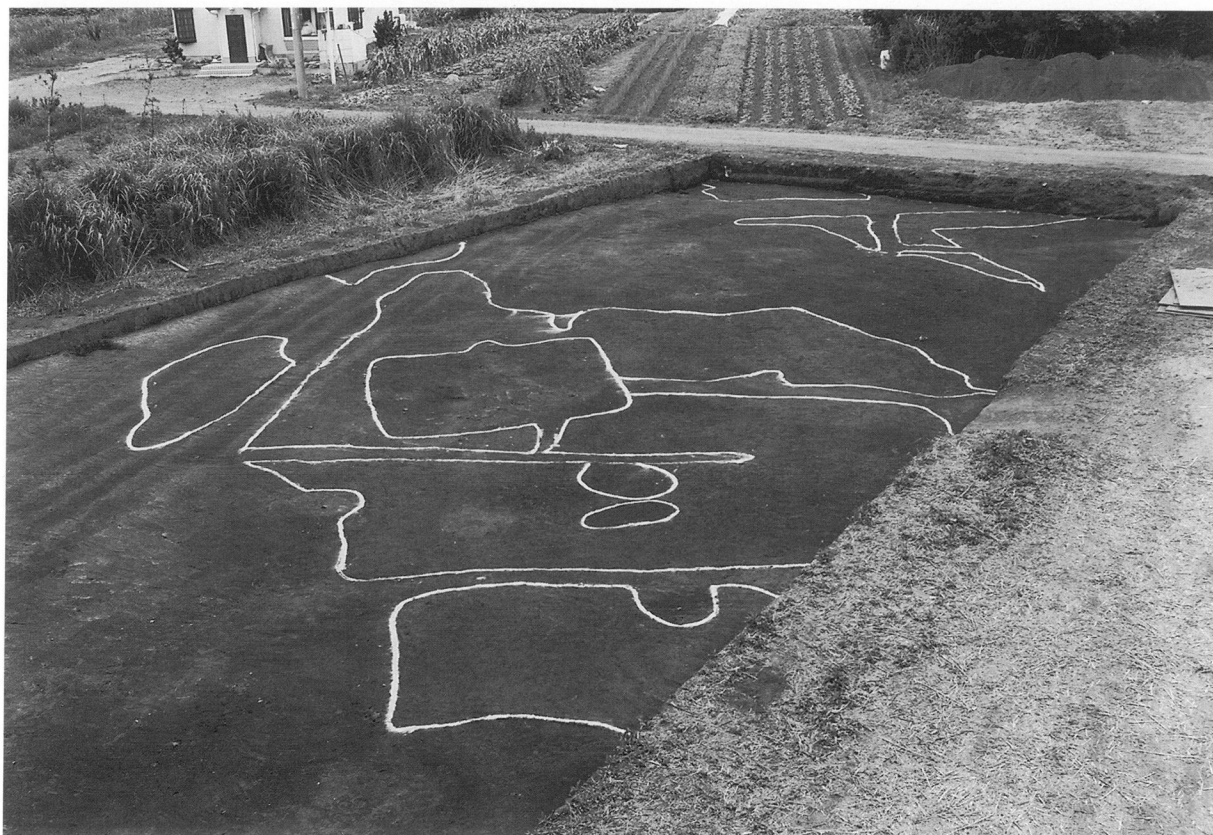
- ・大野村史編さん委員会 『大野村史』 1983年
- ・鹿島町史編さん委員会 『鹿島町史』 1983年
- ・茨城県教育財団「一般国道50号結城バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告書 油内遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第145集 1999年
- ・茨城県教育財団「主要地方道茨城鹿島線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 梶山城跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第78集 1992年
- ・茨城県教育財団「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1 西ノ脇遺跡 前田村遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第87集 1994年
- ・茨城県史編さん原始古代史部会『茨城県史料＝考古資料編 古墳時代』1984年
- ・茨城県立歴史館『茨城県史料＝考古資料編 奈良・平安時代』1996年
- ・吉原作平「粘土張り墓壙についての一考察－前田村遺跡の粘土張り遺構を取り上げて－」『研究ノート』3号 茨城県教育財団 1993年
- ・吉原作平「中世墓域の検討－谷和原村西ノ脇遺跡を例にみて－」『研究ノート』5号 茨城県教育財団 1995年
- ・浅井哲也「東国の古代集落」『茨城県史研究』第72号 茨城県立歴史館 1994年

写 真 图 版

西 平 遺 跡
五 安 遺 跡



西平遺跡南西部遺構確認状況（北から）



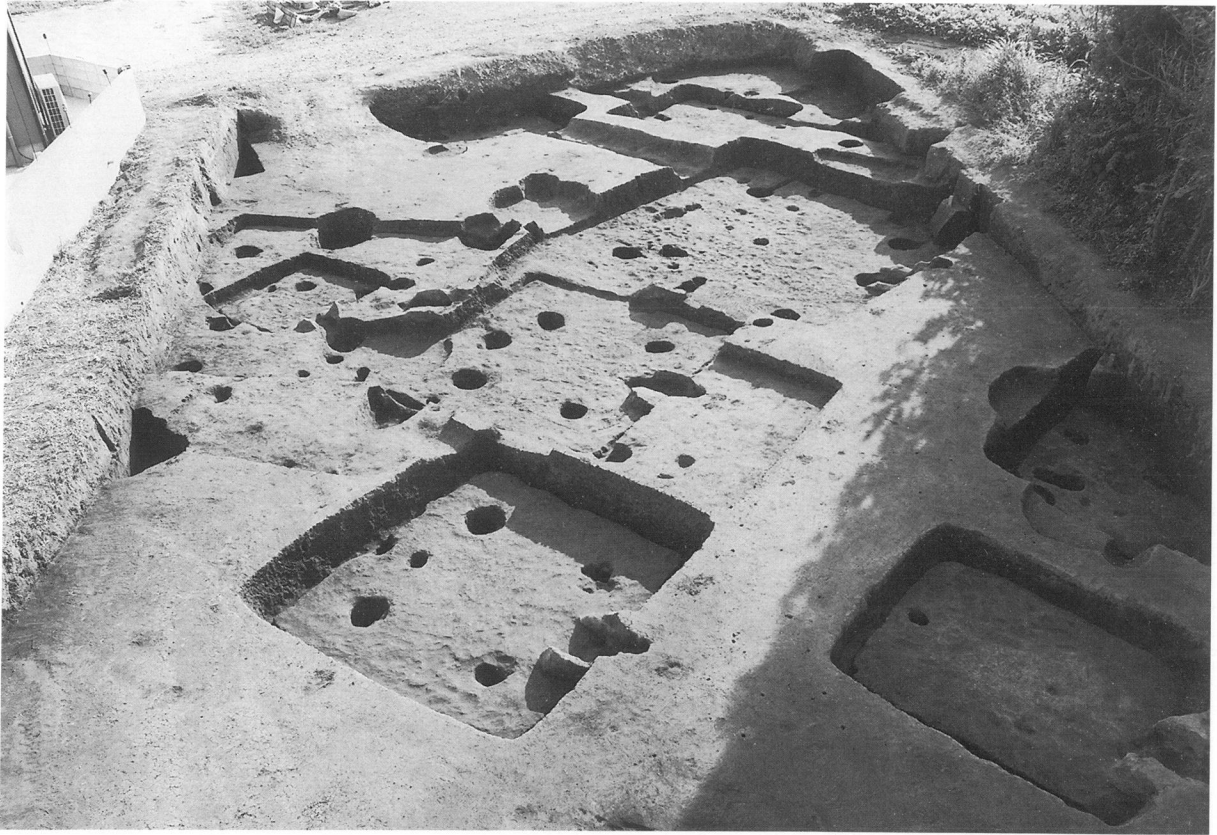
西平遺跡南西部遺構確認状況（南から）



西平遺跡南西部完掘状況（南から）



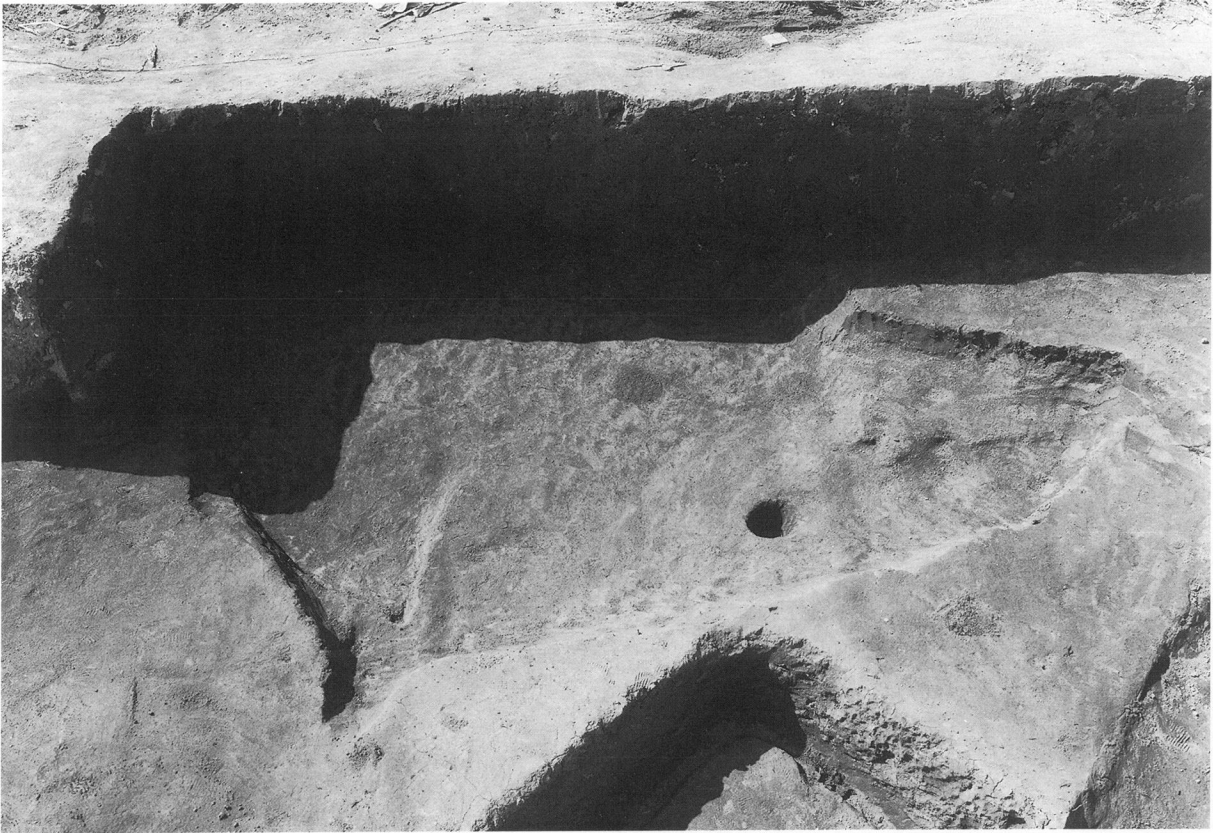
西平遺跡中央部完掘状況（南から）



西平遺跡中央部完掘状況（南から）



西平遺跡中世墓域完掘状況（東から）



第106号住居跡



第106号住居跡遺物出土狀況

第3・4号住居跡，第2号溝跡



第3・4号住居跡遺物出土状況



第14号住居跡，第1号溝跡





第14号住居跡遺物出土状況



第28・29・36・37号住居跡



第37号住居跡遺物出土状況



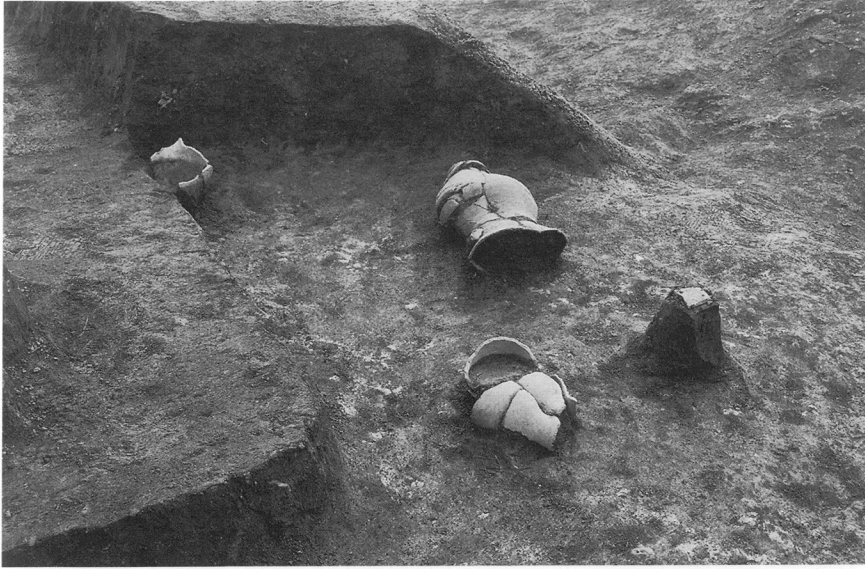
第37号住居跡遺物出土状況



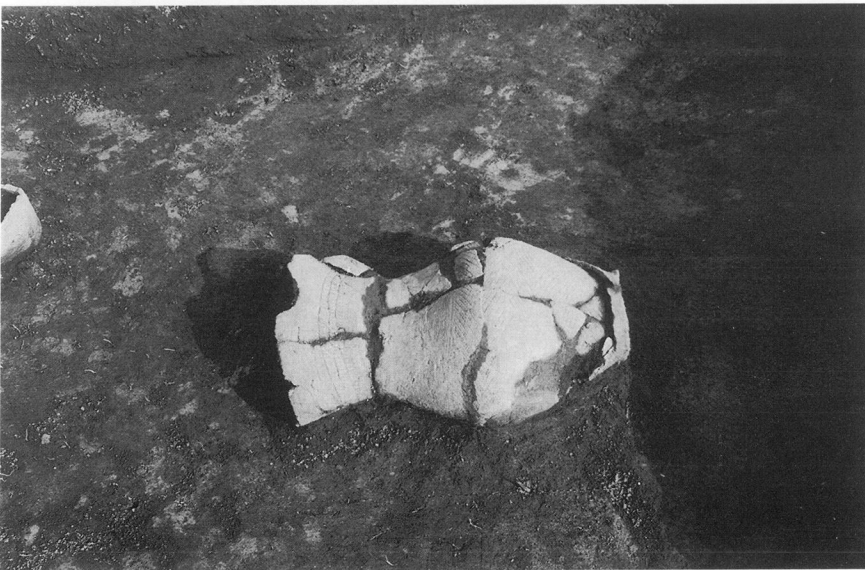
第23・41号住居跡，第1号溝跡



第23・41号住居跡遺物出土状況



第41号住居跡遺物出土状況



第41号住居跡遺物出土状況



第41号住居跡遺物出土状況



第67号住居跡



第67号住居跡遺物出土状況



第91・92号住居跡



第91・92号住居跡
遺物出土状況



第91号住居跡炉



第97号住居跡



第97号住居跡遺物出土状況



第97号住居跡遺物出土状況



第97号住居跡炉



第99号住居跡



第99号住居跡遺物出土状況



第6号土坑



第5·6号住居跡



第8·33号住居跡, 第6号土坑



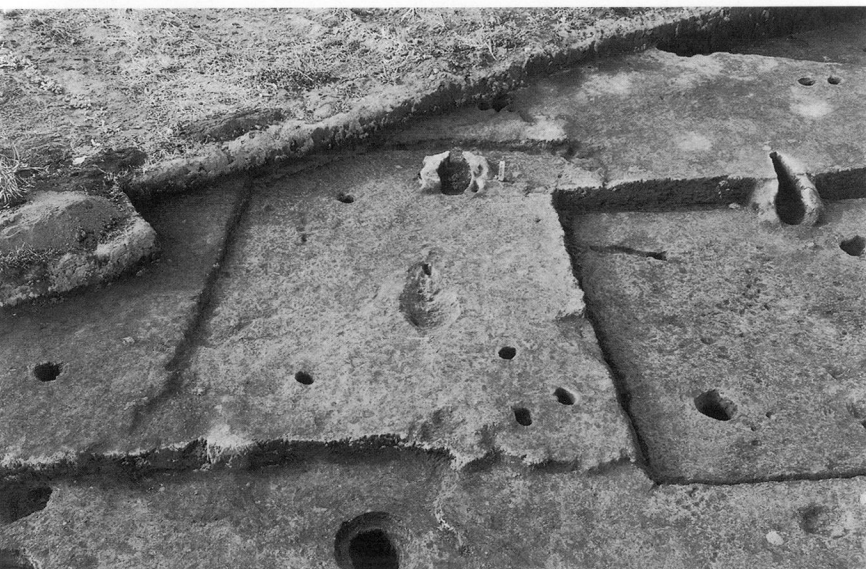
第9号住居跡, 第7号土坑



第9・10・11・13・17号住居跡



第9号住居跡遺物出土状況



第11・13号住居跡



第11・13号住居跡遺物出土状況



第13号住居跡遺物出土状況



第13号住居跡竈遺物出土状況



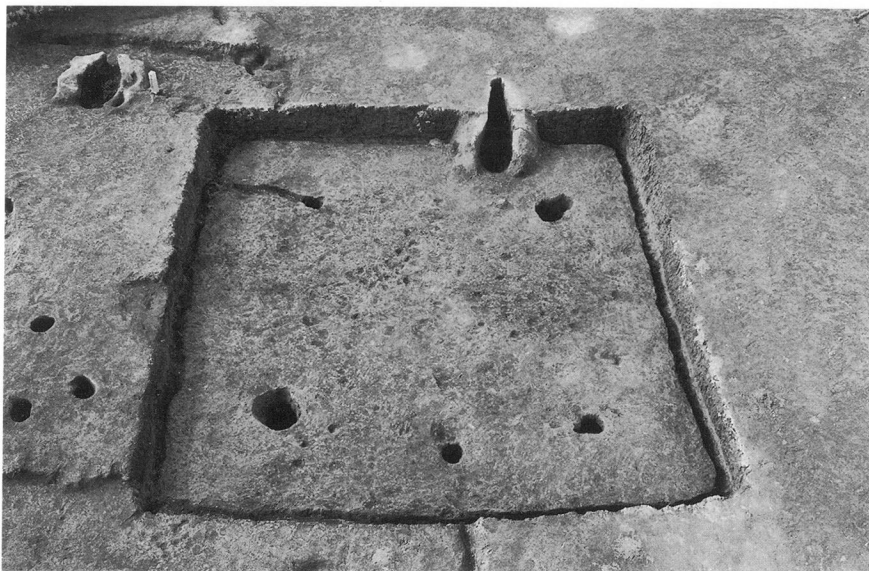
第1・2号住居跡



第1・2号住居跡遺物
出土狀況



第4号住居跡遺物出土狀況



第11号住居跡



第11号住居跡遺物出土状況



第11号住居跡遺物出土状況



第15号住居跡遺物出土状況
第1号溝跡



第18号住居跡



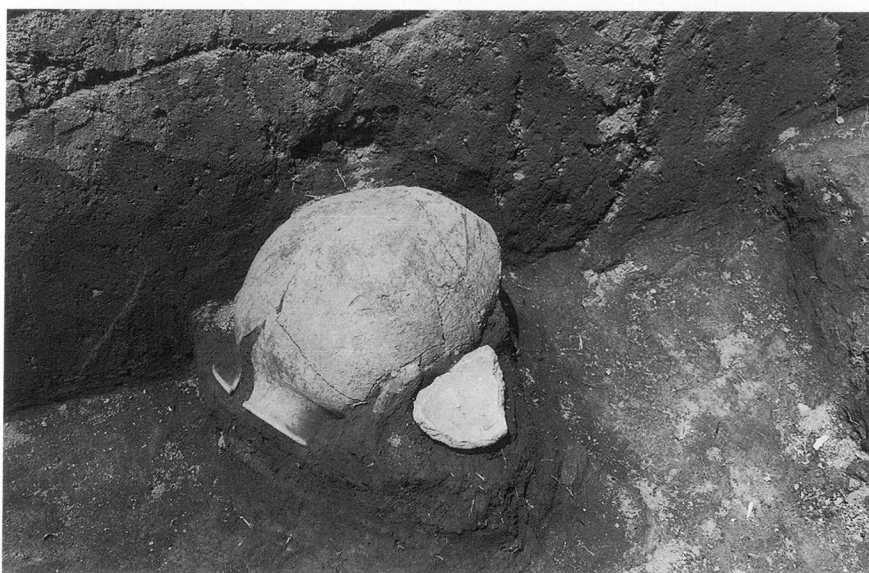
第18号住居跡遺物出土状況



第19号住居跡



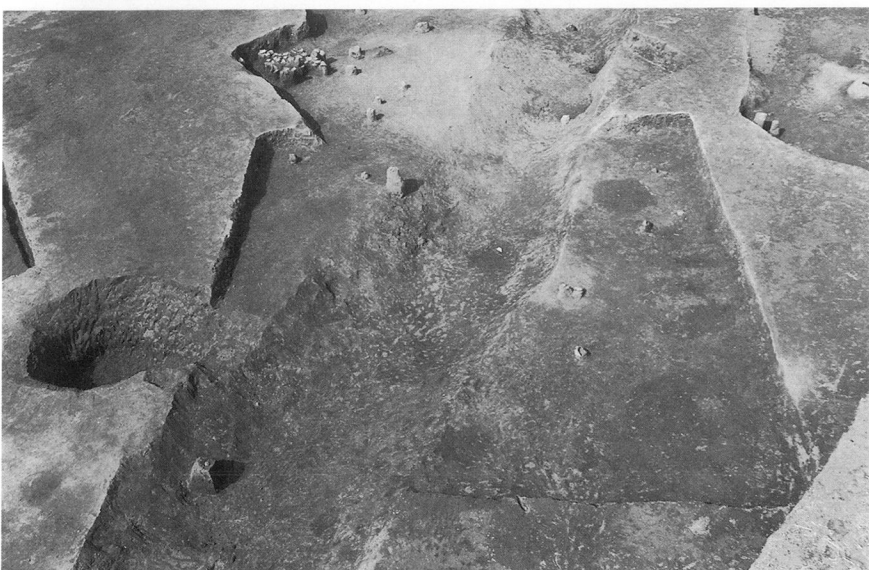
第19号住居跡遺物出土状況



第19号住居跡遺物出土状況



第20号住居跡，第1号溝跡



第20・21・22号住居跡
第1号溝跡遺物出土狀況



第21号住居跡

第20・22・42号住居跡
第1号溝跡



第23・41号住居跡



第23・41号住居跡遺物出土状況

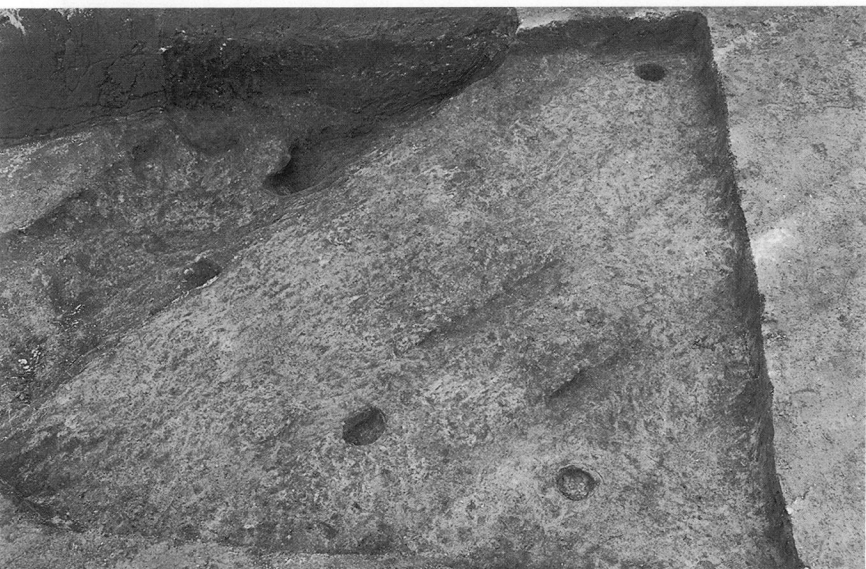




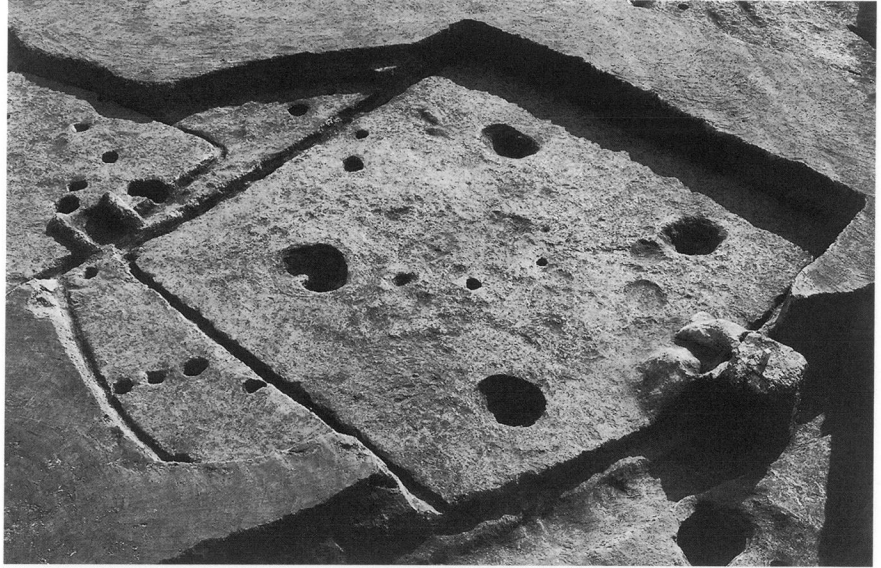
第24号住居跡



第25号住居跡遺物出土状況



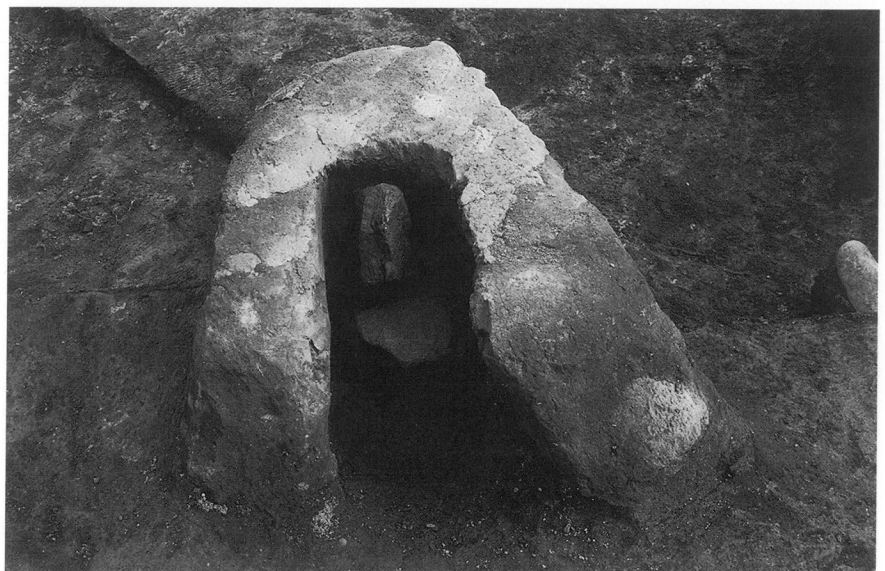
第27号住居跡



第28・37号住居跡



第28・29・31・32・36・37号
住居跡遺物出土状況



第28号住居跡竈



第28・29・32・36・37号住居跡



第28・29・31・36・37号住居跡



第29号住居跡，第121号
土坑遺物出土狀況



第33号住居跡，第6号土坑



第2・35号住居跡



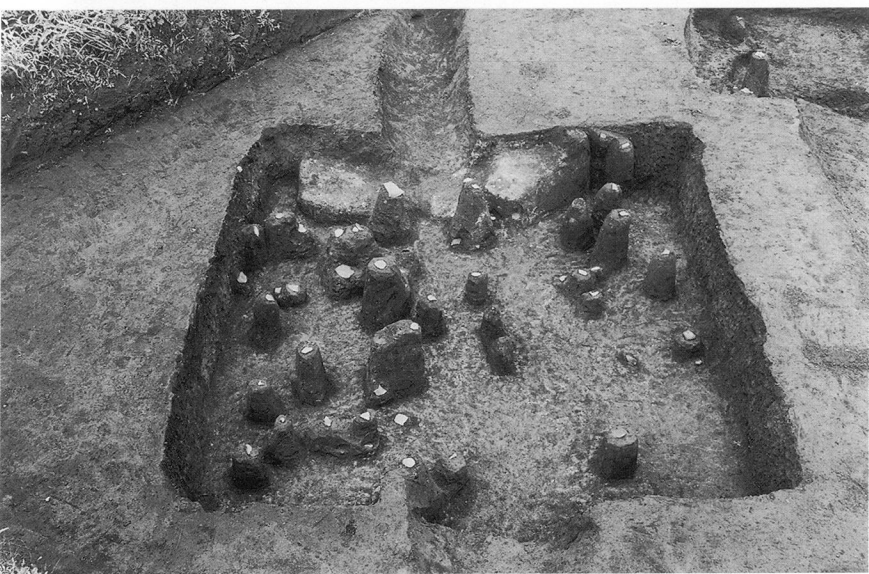
第22・42号住居跡



第24号住居跡遺物出土状況
第43号住居跡



第46号住居跡



第46号住居跡遺物出土状況



第50号住居跡遺物出土状況



第51号住居跡



第51号住居跡遺物出土状況



第52号住居跡



第52号住居跡遺物出土状況



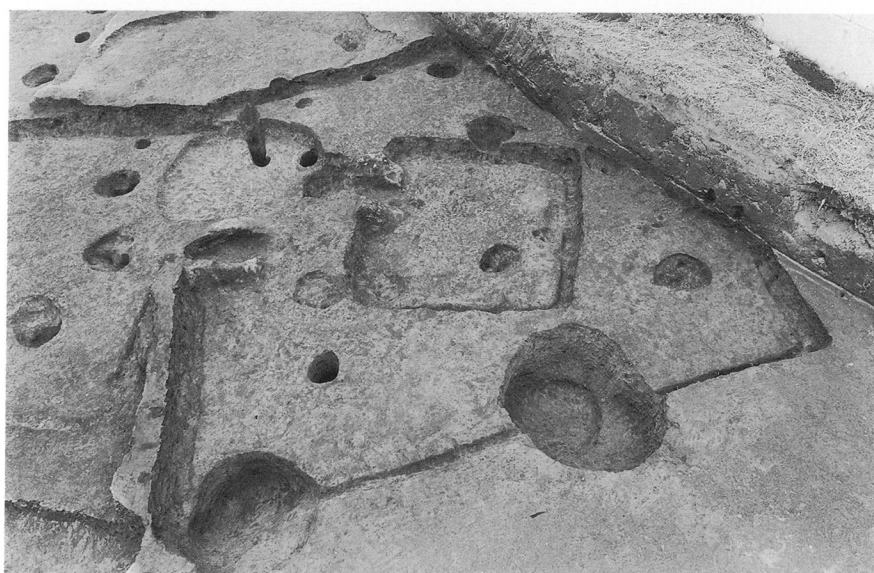
第52号住居跡遺物出土状況



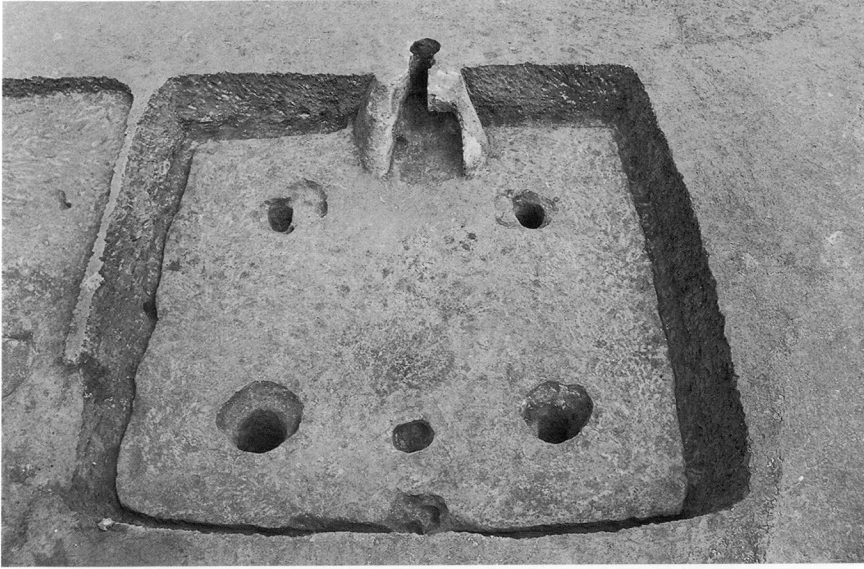
第51·52·53·56号住居跡
第117号土坑



第53号住居跡遺物出土状況



第55·105号住居跡
第111·114号土坑



第56号住居跡



第56号住居跡遺物出土状況



第56号住居跡竈



第62号住居跡遺物出土状況



第64・65・66号住居跡
第109号土坑



第64号住居跡遺物出土状況



第69・100号住居跡
第6・7号溝跡



第77号住居跡，第75号土坑



第77号住居跡遺物出土狀況



第82号住居跡



第82号住居跡遺物出土状況



第85号住居跡、第87号土坑



第85号住居跡遺物出土状況



第88号住居跡



第88号住居跡遺物出土状況

第89号住居跡遺物出土状況

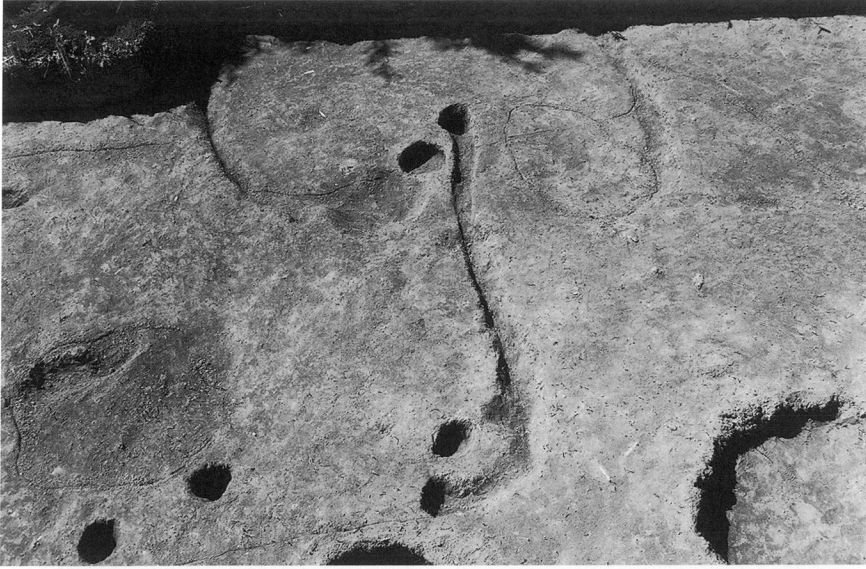


第91・92号住居跡



第29号土坑遺物出土状況





第5・12号住居跡



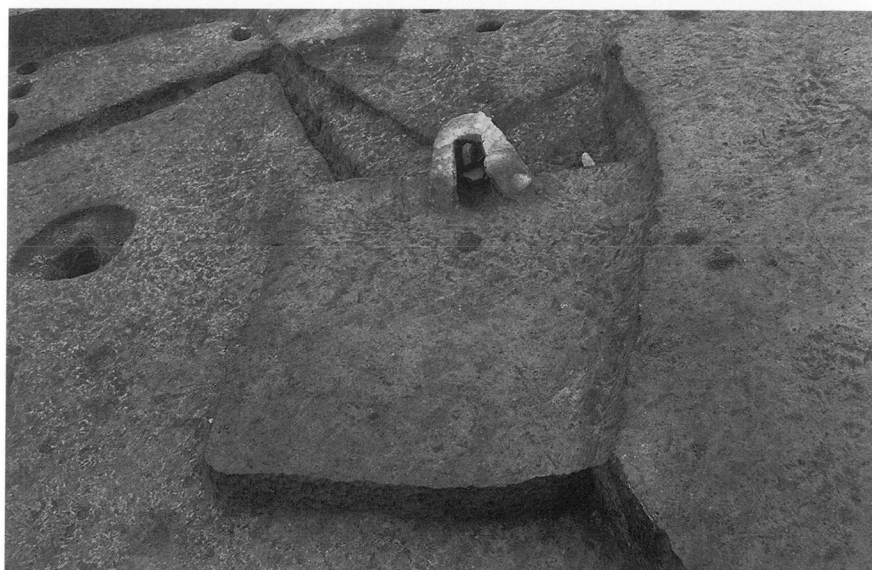
第9・17・33号住居跡



第31号住居跡



第34号住居跡遺物出土状況



第28・36号住居跡



第36・37号住居跡遺物出土状況



第48号住居跡，第10号土坑



第48号住居跡遺物出土狀況



第54号住居跡遺物出土狀況



第57号住居跡



第57号住居跡遺物出土状況



第59号住居跡



第64・65・66号住居跡



第64・65・66号住居跡
遺物出土状況



第64～67号住居跡
遺物出土状況



第50・51・52・68号住居跡



第70号住居跡遺物出土状況



第79号住居跡



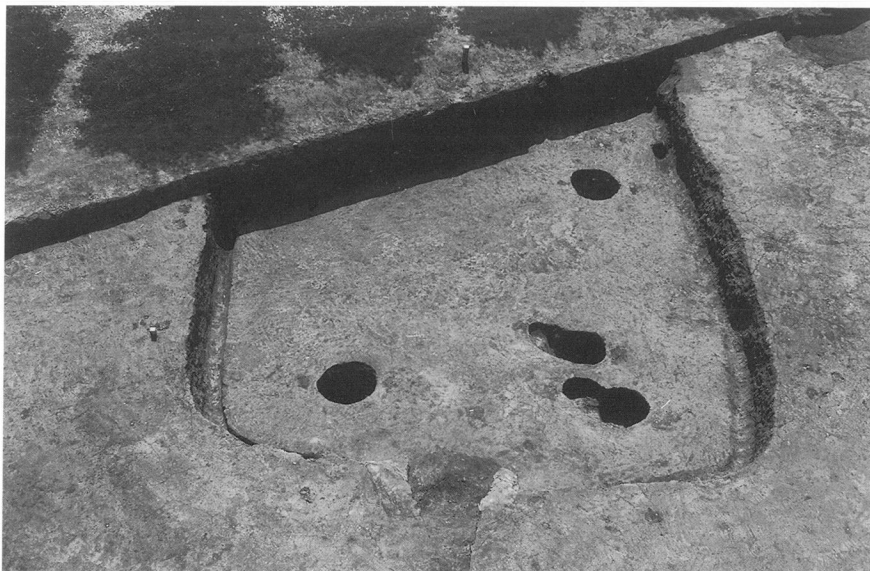
第81号住居跡遺物出土状況



第83号住居跡遺物出土状況



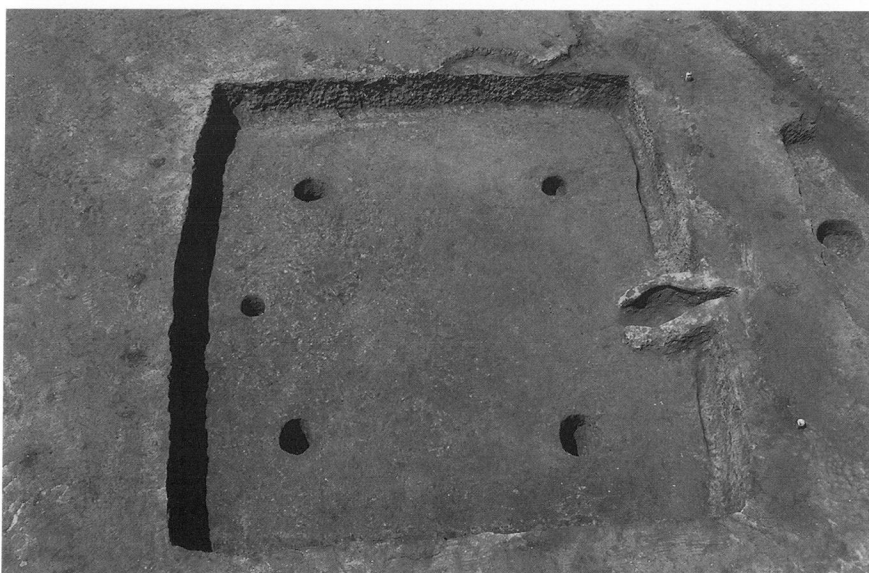
第87号住居跡遺物出土状況
第5号方形竪穴状遺構 (SK-38)



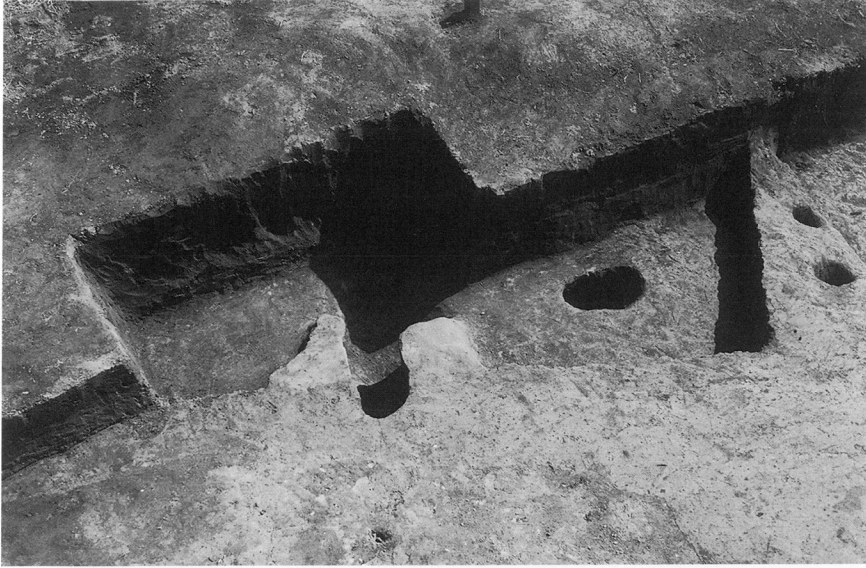
第93号住居跡



第93号住居跡竈遺物出土状況



第94号住居跡



第98号住居跡



第98号住居跡遺物出土状況



第105号住居跡遺物出土状況



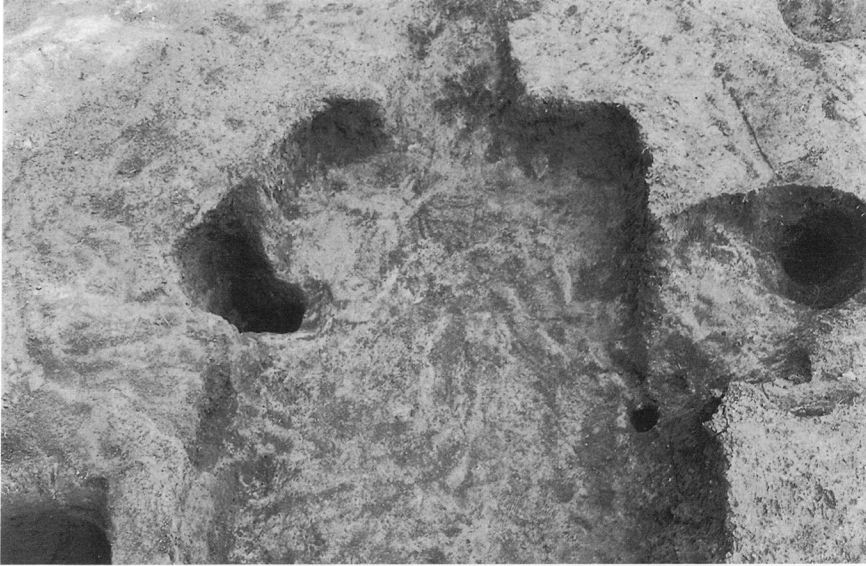
第1号地下式壙 (SK-75)



第3号方形竖穴状遺構 (SK-36)



第4号方形竖穴状遺構 (SK-37)
遺物出土状況



第9号方形豎穴状遺構 (SK-43)
第49号土坑



第10・17号方形豎穴状遺構
(SK-46・67)
第64号土坑



第18号方形豎穴状遺構 (SK-68)
遺物出土狀況



第1・2号住居跡



第7号住居跡竈



第16・21号住居跡



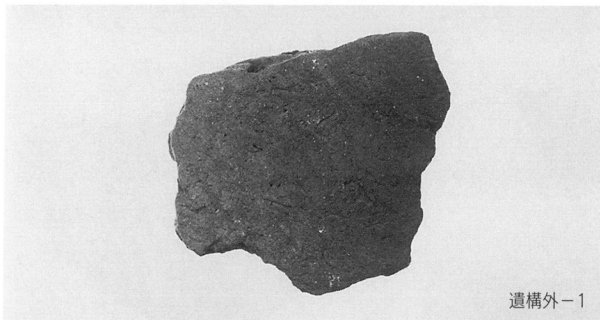
第95号住居跡



第96号住居跡



第102号住居跡



第106号住居跡・遺構外出土遺物（縄文土器）